



沖縄県薬剤師会報

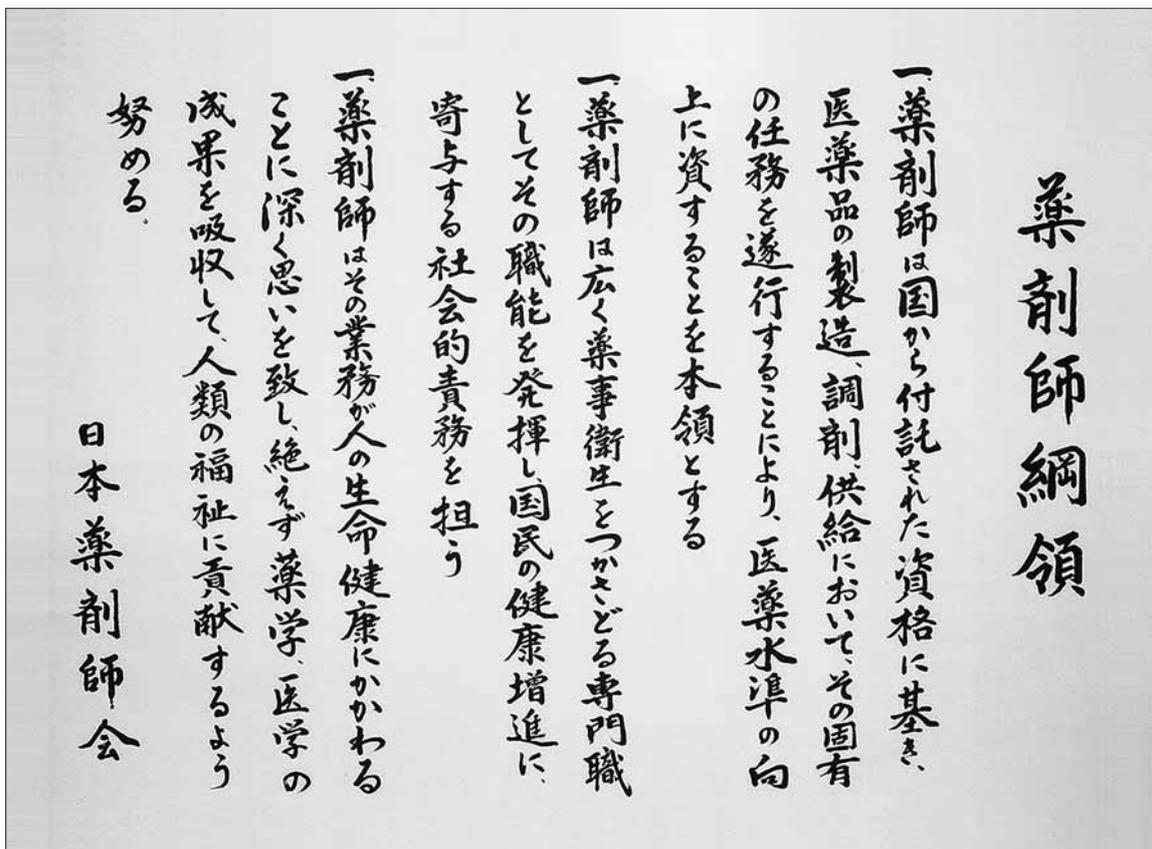
No.274. 2015(平成27年) 1・2月号



沖縄県薬剤師会



書家 謝花雲石書



会員 太田節子書

日本薬剤師会
昭和48年10月10日制定

・表紙

題字：豊平峰雲

「カナディアン・ロッキー」 photo by 成川 玲子 (レオナ薬局) 撮影地：カナダ

ロッキーの宝石といわれる氷河がつくり出した湖の数々。青い湖（モレーンレイク）とテンピークスの山々が美しかったです。モレーンレイクは、荒々しい岩峰を背景に刻々と色を変える湖面のブルーの対比が圧巻の美しい表情を見せてくれます。

目次

薬剤師綱領

年頭挨拶

新年の挨拶	神村 武之	(2)
新年ご挨拶	山本 信夫	(4)
新年のあいさつ	仲本 朝久	(6)
年頭にあって	藤井 基之	(7)
新年のご挨拶	松本 純	(8)
日本の医療のあり方を考える政策に取り組んでいきます！	とかしきなおみ	(10)
新年のご挨拶	國場幸之助	(12)
新年のご挨拶	宮崎 政久	(13)
新年を迎えて	比嘉奈津美	(14)
年頭にあたり	西銘恒三郎	(15)
新年のご挨拶	島尻安伊子	(16)

祝賀会

平成26年度薬事功労受賞者合同祝賀会開催	大城 喜仁	(18)
・・・合同祝賀会スナップ写真		(20)
・・・受賞者プロフィール		(22)

研修会

平成26年度 医療安全講習会報告	吉富 弓江	(27)
医薬分業対策委員会主催研修会報告	西川 裕	(30)
医薬分業対策委員会主催研修会SGD参加印象記	安次富 唯	(32)
高度管理医療機器継続研修会報告	村田 成夫	(33)

啓蒙・普及活動

Uターン・Iターン就職希望薬学部生との相談会報告	川満 直紀	(35)
北海道医療大学における学内合同就職相談会への参加報告	牧野 唯右	(36)
薬局等における「お薬手帳活用促進DVD」での県民向け広報について	宮城 敦子	(37)

部会だより

時代とともに求められる役割～青年部会主催講演会報告～	玉城 武範	(40)
平成26年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会	座波 祥子	(42)
第12回日本女性薬剤師会移動セミナー参加報告	与儀 和子	(44)

寄稿

D I

久米島での産業まつり健康プロジェクトに参加して	齊藤 基道	(46)
-------------------------	-------	------

県民の皆様へ

薬事情報おきなわNo.231	薬事情報センター	(47)
----------------	----------	------

薬学の歴史

あまくま薬立つ情報		(57)
第37回 薬剤研究		(58)
第38回 成熟期を迎えた製薬産業		(59)

薬草学

身近な薬草を知ろう 第18回 タチアワユキセンダングサ	狩俣 イソ	(60)
-----------------------------	-------	------

薬局訪問

はいさい！ ミドリ薬局 美里店	石川 恵市	(62)
-----------------	-------	------

リレー随筆

Pharmacy in New York!	鈴木 毅	(64)
-----------------------	------	------

卒煙物語

その50 何歳でも卒煙は願う	えんこ	(66)
----------------	-----	------

薬連だより

国会レポート～第三次安部内閣スタート～	藤井もとゆき	(67)
---------------------	--------	------

日薬通達

平成27年2月薬剤師賠償責任保険募集のご案内		(68)
平成26年度調剤報酬改定等について 疑義解釈 (その11)		(70)

国保・社保通達

平成27年度 受付相談・協力日及び受付締切日		(71)
------------------------	--	------

転載記事

薬の正しい使い方学ぶ 津堅中で薬剤師講演		(72)
会員の亀谷浩昌先生が所属するモアイが紹介されていました		(72)
連載「戦と、続くヒストリー『0歳だった。』」に会員の島袋徳子氏が紹介されていました		(73)

理事会

平成26年度第6回定例理事会議事概要		(74)
平成26年度第7回定例理事会議事概要		(80)
平成26年度第8回定例理事会議事概要		(86)

会務報告

平成26年12月・平成27年1月末日分(沖縄県薬剤師連盟会務報告)		(93)
-----------------------------------	--	------

一包一話

“父の詫び状”を聞く。橋の下		(98)
----------------	--	------

会員作品

誌上ギャラリー(裏表紙)について・・・平成26年度誌上ギャラリー大賞決定！		(100)
---------------------------------------	--	-------

編集後記

		(100)
--	--	-------

お知らせ

日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)について		(34)
地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！		(45)
県薬が会員に販売している印刷物等		(70)
研修認定薬剤師申請料が改定！		(96)
会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について		(97)
会報原稿募集のご案内		(99)



新年の挨拶

沖縄県薬剤師会
会長 神村 武之



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては2015年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。平素より会運営にご理解とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年は台風、大雨、土石流、火山噴火等の自然災害とデング熱等の感染症による被害、危険ドラッグ使用による事件、事故が多発致しました。政治、経済においてはアベノミクスと囁かれ経済効果が期待できるとの想いがありましたが、我々庶民には実感を感じ得ない状況であります。政治の面では、県知事選挙、突然の衆議院解散に伴う選挙と慌ただしい年の暮れとなりました。沖縄県にとりましては難題、課題が山積致しており、真の沖縄のための政治折衝、解決を願うものです。

薬剤師を取り巻く環境は大きく変化を致しております。医薬品販売制度において、インターネット販売が合憲との諸判断を踏まえ、安全確保の観点から販売においては薬剤師による薬学的知見に基づく指導義務が法律に明記されましたことは喜ばしい事ですが、更なる強い責務を感じます。

一部企業の営利優先による医薬分業システムに対して分業見直し論が身近な医療団体、関係当局からも指摘されており、地域に密着した“かかりつけ薬局”にとっては非常に残念な事です。薬剤師は真の医薬分業の完成に向け、県民、患者からの要望、要請に真摯に対応し医療人としての責務を果たさなければなりません。その趣旨の一環として薬

剤師活動、お薬手帳の必要性、有効性を県民に広く啓蒙するために広報委員会にてDVD等を製作し、民放テレビで放映、更に会員薬局の待合所にて放映して頂き、広く県民に理解を頂きたいと思っております。

急速な少子、高齢化社会において医療、介護、予防、在宅における地域包括ケアシステムの構築が求められており、医療費抑制策の中で薬剤師への期待が高まっております。健康情報拠点事業として予防医学、自己健康管理、早期受診勧奨等を目的として薬剤師の“顔が見える化事業”として、医薬品の適正使用、残薬の確認、調整等の服薬管理、薬局内で可能な測定、検査等を行い、他の医療従事者と連携のもと当事業を積極的に行うよう求められております。会員薬局において十分な対応をして成果のある事業として頂きたいと思っております。

薬剤師国家試験合格の低率化が近年の薬剤師不足に更なる拍車がかかり、薬学教育の資質向上の必要性が問われております。

米軍施設「西普天間住宅地区」返還跡地に新薬の研究開発拠点「沖縄メディカル・イノベーション・センター」(OMIC)の創設が検討され進められております。日米の大学が連携して創薬の研究者養成、新薬の開発製薬会社の拠点を置き、医療人の人材育成に繋がりたいとの構想があります。更に重粒子線がん治療施設を設置し医療産業拠点とする基本構想を策定し、琉球大学医学部並びに附属病院の移転が企画されております。それを機に、

私案として琉球大学に薬学部を創設して頂きたいと思います。沖縄を中心とした日米、アジアを含め、海外でも活動できる医療の担い手としてのレベルの高い薬剤師養成の実現に向け今がチャンスであり、薬学部創設を願うものであります。

今年は未年です。羊は集団で群れを作り行動すると言われております。会員が一丸となって薬剤師職能、資質の向上に努め、会員の皆様の思いが希望が叶えられ飛躍の年となり、益々のご健勝をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



書家 とよ ひら ほう うん
豊 平 峰 雲 書



新年ご挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会
会長 山本 信夫



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに輝かしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。平素より日本薬剤師会の諸事業に格別のご支援とご協力を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。昨年6月、新執行部が発足いたしました。国民・患者のための薬剤師業務の充実・強化と医薬分業制度の定着を目指して会務を進めてまいり所存ですので、あらためましてよろしく願い申し上げます。

さて、少子高齢化が急速に進む中、給付と負担の均衡が取れた持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革への様々な取り組みがいよいよ本格化します。地域における効率的かつ質の高い医療と介護の提供体制を構築するため、「地域包括ケアシステム」という新しい概念に基づき、地域における医療及び介護を総合的に確保するための国の方針が示されました。少子高齢化の状況については、高齢者人口が急速に増加する地域がある一方で、人口減少による過疎化が進行する地域がある等、地域によって医療・介護のニーズに大きな違いがあります。皆様には、地域包括ケアシステムの一員として、医師、看護師、介護支援専門員などの多職種と連携・協働して、地域の実情と利用者の視点に立ったニーズに見合った取り組みをお願いいたします。

昨年は、医薬品の販売方法と安全確保の仕組みの整備、医薬品・医療機器等の安全かつ迅速な提供の確保に関わる制度改正が行われ

ました。改正によって、医薬品の品質、有効性、安全性に係る責務が薬剤師等に課せられることとなり、医薬品販売における薬剤師による薬学的知見に基づく指導が法律に明記されました。これは、薬剤師がその職能を発揮するための具体的な行動規範を示したもので、これら法改正の趣旨を十分に認識して、適切な医薬品販売並びに提供体制確立に向けた対応を、より一層徹底していくことが重要と考えています。

また、「日本再興戦略」においては、「セルフメディケーション推進」のため薬局を地域に密着した健康情報の拠点として位置付け、薬局・薬剤師の活用を促進することが盛り込まれ、厚生労働省予算により、平成26年度から全国各地で地域の医師会や医療機関の理解・協力を得ながら事業が進められています。平成27年度についても、同モデル事業の継続と拠点薬局の基準の作成等を行う予算を要求しています。地域に密着した薬局・薬剤師を活用することは、医療・介護の提供体制の確保と地域包括ケアシステムの構築を進めていく上でも重要なことです。地域における「チーム医療」の一員として、地域医師会・医療機関と密接な連携の下で「かかりつけ薬局」としての機能を着実に発揮し、在宅医療への積極的な参画や介護・認知症の初期相談、ジェネリック医薬品の使用促進、危険ドラッグの啓発活動など、薬や健康のことなら何でも気軽に相談できる薬局・薬剤師としての役割を十分発揮していただきたいと考えます。

消費税については、本年10月に予定されていた引き上げが延期されることとなりました。本会としては、社会保障制度改革に影響を及ぼすことのないこと、特に、来年度予定されている診療報酬・調剤報酬の改定に必要な財源の確保と医療・介護に関する基金の継続を要望していきたいと考えます。また、保険調剤に関わる消費税については、仕入れ税額控除が可能となる制度に変更することを引き続き求めてまいります。

皆様におかれましては、地域における医療・介護サービス提供体制の充実に向けて、より効率的かつ効果的な取り組みを推進するとともに、薬剤師として地域住民の健康づくりに一層の役割を果たしていただくことをお願い申し上げます。

末筆ではありますが、皆様のますますのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げますとともに、本会事業に今後も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶といたします。





新年のあいさつ

沖縄県保健医療部長
仲本朝久



平成27年の新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。

沖縄県薬剤師会の皆様には、日頃から本県の薬務行政の推進に格別の御支援と御協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

近年、健康に対する意識の高まりを背景に、国民の医薬品等に対する関心はますます高くなっております。同時に、急速な少子高齢化の進行、医療技術の高度化等、薬剤師を取り巻く環境が変化している中で、最適な薬物療法の提供や医療安全対策等、幅広い分野において、医療の担い手としての役割を果たすことが、薬剤師に対してより一層求められております。

さて、去年は一般用医薬品のインターネット販売が可能となったのをはじめ、薬事法の大幅な改正が行われたことから、県においては、厚生労働省、各都道府県と連携し、医薬品の監視及び正しい知識の普及啓発に取り組んでいるところです。薬剤師会会員の皆様におかれましても、インターネット販売での適切な取扱いのみならず、医薬品の適正な使用を推進することにより、地域保健の向上に貢献されることを期待いたします。

また、去年は、昭和23年制定以来60年以上の歴史のある「薬事法」の名称も「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に改められました。このように、薬事衛生を取り巻く環境は年々大きく変化していることから、県としましては、医薬品等の安全性の確保のため各施策を展開し、県民の保健衛生の向上に努めてまいりますので、皆様方におかれましても引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

薬物乱用防止対策につきましては、本県の薬物事犯による検挙人員は増加傾向にあり、予断を許さない状況が続いております。特に昨今においては、麻薬、覚せい剤、大麻など従前からの規制薬物の他、危険ドラッグと呼ばれる薬物の乱用が県内においても大きな社会問題となっております。県としましては、県警等関係機関と連携し危険ドラッグ販売店舗への合同立入検査の実施など、監視・指導に努めてきたところですが、その甲斐あって、昨年12月をもって、県内の危険ドラッグ販売店舗数は0（ゼロ）となりました。県では、引き続き、薬物乱用防止対策に努めてまいりますので、皆様におかれましても、薬の専門家である薬剤師として、医薬品の適正使用と併せて、今後とも、薬物乱用防止対策に一層の御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

皆様には、県民の意識や生活スタイル、医療の要請が絶えず変化していることを踏まえつつ、自らも時代に即して、県民が期待する社会的使命を果たされますよう、今後とも、地域住民あるいは医療関係者から信頼され、保健医療に貢献できる薬剤師を目指し、不断の研鑽に努めていただきたいと思います。

医薬品の安定供給や適正使用の推進等を通じ、県民の健康増進に御尽力を賜りますとともに、薬務行政の円滑な推進につきましては、今後とも変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、沖縄県薬剤師会の限りない御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。



年頭にあたって

文部科学副大臣・参議院議員
藤井基之



新年明けましておめでとうございます。薬剤師会の会員の皆様には、お健やかに輝かしい新たな年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年秋の第二次安倍改造内閣において、文部科学副大臣を拝命致しました。これも一重に皆様方のご支援の賜と感謝申し上げます。文部科学省とは薬学教育6年制の実現に向けて熱心に議論したことを思い起こされます。6年制教育はすっかり社会に定着し、実務教育を受けた薬剤師の先生方が病院や薬局で大いなる活躍をしている姿には、先輩薬剤師として頼もしく感じられます。

さて、政府は団塊の世代が75歳を迎える2025年の本格的な超高齢化社会を控え、社会保障の充実と安定化、そのための安定した財源確保と財政の健全化を同時に達成することを目指し、社会保障と税の一体改革を推し進めています。

医療・介護の分野では、昨年6月に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」いわゆる「医療介護総合確保推進法」が成立しました。一昨年の社会保障制度改革国民会議の報告書に示された、病床の機能分化・連携、在宅医療の推進、医療と介護が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築など、都道府県及び市町村において、「医療及び介護を総合的に確保するための基本的な方針」（総合確保方針）に基づき、地域の実情も踏まえた計画策定が進められています。

また、薬剤師は、自らの専門性を活かした

地域住民とのコミュニケーションにより、多様な健康関連情報を提供し、地域住民、地域社会の健康の維持・増進に寄与することが求められています。薬局・薬剤師を活用した健康情報の拠点の推進や在宅医療に関するモデル事業も本年度からスタートしました。一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談などのセルフメディケーションの推進、地域住民の疾病予防、早期発見など、在宅医療、介護における薬局、薬剤師への期待は益々大きいものとなっています。医薬分業は70%にまで達し、薬局での処方箋調剤の占める割合は高くなっていますが、それぞれの地域において、医療提供者として、その役割を十分に果たし、住民の要請に確りと応えて信頼を得ていくことが、これまでも増して大切になるものと思われまます。

一方、社会保障の充実と安定化に向けて昨年4月に消費税を5%から8%に引き上げ、本年10月には10%に引き上げることとしていましたが、昨年末の経済情勢を踏まえ、一年半先送りすることを決めました。高齢化により社会保障費が確実に伸び続ける状況において、その財源を確保することは不可避ではありますが、社会保障制度の効率的・効果的な運用による費用増加の抑制も必要と思われまます。安定した社会保障制度を維持するため、その改革に引き続き努力してまいり所存であります。

最後に、本年が皆様にとって、素晴らしい一年となりますことを祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。本年もよろしくお願い致します。



新年のご挨拶

自由民主党政調会長代理
衆議院議員 松本 純



新年明けましておめでとうございます。神村武之会長はじめ一般社団法人沖縄県薬剤師会および沖縄県薬剤師連盟の役員並びに会員の皆様方には、お健やかに平成27年の初春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は大変お世話になり誠にありがとうございました。昨年9月3日に発足した第2次安倍晋三改造内閣のもと、お陰様で自由民主党では政務調査会長代理、副幹事長、衆議院では厚生労働委員会委員という役割を頂き、一所懸命に取り組みました。

2年前の政権復帰時に、強い経済を取り戻すために、三本の矢の政策を打ち続けた結果、雇用は100万人以上増え、一昨年の春は、過去15年間で最高の賃上げが実現しました。

私の5期目は、政権復帰後の一昨年12月27日に衆議院厚生労働委員長に就任し、多くの法律案を成立させ、引き続き、自民党の国会対策委員会筆頭副委員長、政調副会長に就任、景気の着実な回復に尽力致しました。また、政調会長代理、公約責任者として、此の度の第47回衆議院総選挙のわが党の選挙公約「政権公約J-ファイル2014」の作成に係わり、薬剤師に関して、「薬局・医療機関の薬剤師の機能、役割の拡充と積極的活用」の項目で、「国民医療の向上と健康づくり推進のため、地域の薬局（全国に約57,000軒）・薬剤師の積極的活用を図ります。医薬品安全対策および適正使用強化の一環として医薬分業の推進、チーム医療における薬剤師の業務の拡充と医療機関における

薬剤師配置を推進します。薬剤師の卒後研修の制度化を検討します。また、患者とともに適切な服薬を推進するため、災害時にも役立つ「電子お薬手帳」の普及を強力に進めます。さらに、日本再興戦略等に基づき、医薬品（検査薬を含む）の医療用から一般用への転用（スイッチOTC）を進めます。」という内容を、また、「薬物の乱用防止の総合的推進」の項目では、「啓発、取り締まり、薬物依存者の治療・社会復帰の支援など薬物乱用防止対策を総合的かつ有機的に推進し、乱用防止対策を一層効果的に実施します。心身に重大な悪影響を及ぼし、幼い子供などが犠牲者となる悲惨な事故を引き起こす危険ドラッグを一刻も早く根絶するため、麻薬取締官及び税関職員の増員や検査体制の拡充を図るとともに、議員立法として成立した『医薬品医療機器等法（旧薬事法）』を最大限活用します。この法律に基づき、危険ドラッグ全般に対する検査命令、全国的な販売停止命令、プロバイダに対する削除要請等のインターネット販売対策、水際対策を実施し、実効ある取締りを強化します。また、啓発、取り締まり、薬物依存者の治療・社会復帰の支援など薬物乱用防止対策を総合的かつ有機的に推進し、乱用防止対策を一層効果的に実施します。」という内容で、さらに、「安心安全な一般用医薬品および一般用検査薬の適正な使用」の項目では、「一般用医薬品のインターネット販売に関する新たなルールが遵守され、また、違法なインターネット販売が行われることが

ないよう、これまで以上に国や自治体による監視指導を徹底するとともに、国民に対する周知の徹底や注意喚起に努めます。また、セルフケアから医療へ適切につなげられるよう、一般用医薬品及び一般用検査薬の消費者への適切な情報提供を促進します。」等盛り込むことができました。

また、衆議院が昨年末解散され、12月14日投開票で総選挙が行われました。政府が成長戦略を力強く実施する中であって、国

民全体の所得をしっかりと押し上げ、地方経済にも景気回復の効果を十分に波及させていくために、皆さま方のご理解、ご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

6期目に当たり、責任の重さに身の引き締まる思いです。本年も皆様と共に頑張ってお参ります。皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。本年もさらに良い年でありますよう祈念し新年のご挨拶と致します。



日本の医療のあり方を変える 政策に取り組んでいきます！



自民党副幹事長・衆議院議員・薬剤師
とかしき なおみ



明けましておめでとうございます。昨年末は、まるで不意打ちテストの様な総選挙となっ
てしまい、師走の折に大変お騒がせ致しまし
た。小選挙区で3期目の当選させて頂きまし
たので、これからも道半ばであるアベノミク
スの推進に邁進して参ります。

今回の選挙で私は、厚生労働を専門とする
薬剤師議員として「世界で初めての、循環器
の病を減らす街づくり」を大阪府吹田市と摂
津市に4年後完成に向けて挑戦する！と公約
を掲げ戦いました。今までのわが国は、製造
業を主体として、いわばモノを作って世界に
売ることにより経済の発展を遂げました。し
かし社会情勢も大幅に変化し、超高齢社会を
控え成熟社会を迎えた現在の日本においては
産業転化を図るべきと考えました。そこで注
目したのが、「情報」です。そして思い出し
たのは昨年夏に訪れた世界保健機構（WHO）
幹部とのやり取りでした。「何か日本に学び
たいことはありますか？」との私の問いに
「なぜ日本人は健康で長生きなのか、その秘
密がぜひ知りたい」と即答されました。これ
を聞いた瞬間、我が国は世界一の高齢社会を
実現した国なので、この情報にはビジネスチャ
ンスがある！と確信しました。

健康で長生きするには、循環器の病になら
ないようにすることが重要です。

循環器の病とは、主に心臓や脳などの血管
の損傷によって起こる病です。日本人の死亡

原因（H25年厚労省調べ）は、ガンが約
28%と1位ですが、循環器の病（心疾患・
脳血管疾患）は約25%と殆ど変わりません。
しかし、大きく変わるのは、年間に掛かる医
療費でガンは3.4兆円ですが、循環器の病
は5.4兆円。さらに、寝たきりになる原因
の52%が循環器の病が引き金になっていま
す。逆を言えば、循環器の病にならなければ、
寝たきりになる確率を半分以下に減らせます。
ガンとは異なり、「食事と運動のバランス」
さえ取れば循環器の病は予防が出来るので
す。この情報を世界に売っていく街を創ろう！
国立循環器病研究センターが移転する吹田市
と摂津市に、平成30年に完成させる！これ
を、私の公約にしました。

循環器の病にならない情報売る役割を担っ
て頂くのは、医療従事者&市民の皆さんです。
まずは、医療従事者から学んで頂き、あるレ
ベルに達した方のみ、世界から訪れる観光客
に情報発信をして頂きます。そしてその場合
は、きちんと収入が得られる仕組みを作りま
す。そして約束事として、得た収入の半分は
自分の健康維持の為に、地元の医療機関（病
院、歯科医院、薬局、整骨院等々）にお金を
払って健康管理をして貰うように勧めます。

吹田・摂津市の地域医療は、病気にならな
いように健康管理するのも仕事、と定義を変
えて取り組んで頂きます。

これが「世界で初めての、循環器の病を減らす街づくり」の概要です。今までの健康管理は、モラルに訴える部分が多かったのですが、ここでは経済性を持たせてインセンティブを高めようとする政策としました。目指せ、世界に向けた観光地！これは、アベノミクスの成長戦略の一つになります。

夢を実現するのが、政治家の仕事です。選挙でした公約を違えれば政治家失格です。それぐらいの崖っぷちに立って、日本の医療のあり方を変える政策に、私は取り組んで行こうと思っています。今年も変わらぬ応援、どうかよろしくお願い致します。





新年のご挨拶

衆議院議員（沖縄1区）
國場 幸之助



新年あけましておめでとうございます。
神村武之会長をはじめ、沖縄県薬剤師会会員ならびに関係者の皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

そして、平素より格別なるご指導ご支援を賜りまして、私は衆議院議員として2期目の活動に専念させていただくことができ、2014年末より沖縄関連税制改正や、次年度予算編成に向け、早速沖縄と国家国民のために頑張らせて頂いております。自公連立政権が維持され、景気回復の恩恵を地域の隅々にまで届ける地方創生をはじめ、本格的な国づくりに向け、与党の一翼として精一杯頑張る所存でございますので、これからも変わらぬご指導をよろしくお願い致します。

現在、我が国では、少子高齢化が急速に進んでおり、平成37年（2025年）にいわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢社会を迎えるといわれております。そのため国民の医療や介護の需要増加が見込まれ、国民一人一人が、医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続することができる環境を整備していくことは喫緊の課題であります。そのため、地域における医療および介護を総合的に確保するための基本的な方針が示され、社会保障制度改革の取り組みは本格化しております。そのため地域における医療・介護サービスの体制として、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の5つのサービスが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」構想が示されました。

薬剤師の皆様方には、医師、看護師、介護支援専門員などの多職種と連携して、入院か

ら地域・在宅へと切れ目のない医療・介護提供体制の確保を推進するとともに、医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う役割を担われていることと存じておりますが、医師や看護師と連携した「チーム医療」の一員としての役割や重要性が増していくなか、地域医療の担い手としても、私たち地域住民にとって「一番身近な医療人」であり、医療現場においても、在宅医療やセルフメディケーションの推進においても、皆様の果たされる役割と存在は大変重要なものであります。

薬局を地域に密着した健康情報の拠点として位置づけ、薬局・薬剤師の活用を促進するとして、厚生労働省予算にて全国的に事業が進められることとなりました。「かかりつけ薬局」として、健康相談をはじめ、在宅医療への積極的な参画や介護・認知症の初期相談、残薬の確認や適切な服薬指導、危険ドラッグの啓発活動、スポーツにおけるアンチドーピングの啓発など、薬や健康のことなら何でも相談できる薬剤師として、その果たす役割はますます重要になってくると存じますが、長寿県沖縄の復活と地域住民の健康維持のため、最も身近で最も信頼のおける存在としてその職責を果たされますようご期待申し上げますとともに、私も皆様と一緒に取り組んでいく所存でございます。

本年は未年ですが、ひつじは群れをなすところから「家族の安泰」を表すとされ、いつまでも「平和」に暮らすことを意味するという説があります。医療の現場から家族の安泰を支える皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

衆議院議員（沖縄2区）
宮崎 政久



新年あけましておめでとうございます。
沖縄県薬剤師会の皆様には新たな年を迎えられ、一年の計を目指してご尽力のことと存じます。

改めまして、神村会長をはじめとする沖縄県薬剤師会会員の皆様、そして関係者の皆様におかれましては、日頃より県民の健康を守り、県民の健康維持増進にむけて、様々にご尽力頂いておりますことに心より感謝申し上げます。

旧年中は、沖縄県薬剤師会ならびにご関係の皆様からひとかたならぬご支援ご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

とりわけ昨年末の衆議院選挙においては大変に大きなお力を賜り、厳しい選挙戦の中であったにもかかわらず、再び国政の場に送って頂きました。すべては皆様のご支援のおかげです。本当にありがとうございました。

今回も皆様からの大きな付託を頂きました。薬剤師会の皆様のご要望を実現することは、私にとって最も大切な課題のひとつです。皆様から沖縄県第2選挙区で宮崎政久に託してよかったと思って頂けるよう行動して参ります。

沖縄の将来は安心して暮らせる社会の実現にかかっています。国民誰もが安心して暮らせる社会の実現は、あらためて申すまでもなく、政治が確実に実現しなければならない基本的使命です。

私は、薬剤師会の皆様と一緒に暮らしやすい社会、不安のない社会を目指してこれからも努力して参ります。どうかこれからも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

沖縄県薬剤師会のますますのご発展と関係者の皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

本年もどうぞよろしくようお願い申し上げます。





新年を迎えて

衆議院議員（沖縄3区）
比嘉奈津美



沖縄県薬剤師会の皆様には、輝かしい新年をお健やかに迎えられました事とお慶び申し上げます。また、第47回衆議院総選挙に際しましては、力強いご推薦とご支援を賜り、お蔭様で引き続き議席をお与え頂き、心から感謝を申し上げます。

現政権は国民の皆様から大きな信任を得て安定した政権基盤を与えて頂きました。積年のデフレからの脱却、経済再生、停滞から前進の歩みに停滞は許されないのは勿論、税・社会保障の一体改革、外交安全保障等、政治的課題は山積しております。ふるさと沖縄に関しても、私は常々「前進する沖縄の姿を世界に発信」「沖縄の可能性に挑戦」と申し上げておりますが、政権党の議員としてその思いを沖縄の思いとして、努力して参ります。また、私は皆様と同じ医療人として歩み、医療・福祉の現場で培った感覚、問題意識を基に政治の世界に進みました。薬剤師の皆様とは「街の医療人」として共に歩んだ同士であり、初心は些かも変わりはありません。今後とも折に触れて親しく意見の交換、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

医学・薬学の進歩は日進月歩、寿命の伸びが示す通り恩恵を与えておりますが、少子化・超高齢化社会の到来は社会のあり方も変えております。市民生活は様々な情報で溢れ、取捨選択によっては速やかに望ましい結果に到達出来るでしょうが、日常生活に不便をきたす高齢者、社会的弱者は取り残されてしまう現実もあります。様々な新しいシステムが構築されても、医療の基本は如何に市民に寄り

添い、心の通ったケアを提供出来るかという点に帰結します。薬剤師の皆様が身近な街の医療人として実践されている事、かかりつけ薬局として個人のデータ管理に基づく適正な服薬指導、市販薬購入に際してのアドヴァイス、受診勧奨等プライマリー・ケアに大きく貢献していますが、これは市民との直接の対応から生まれるものです。医薬分業も定着して参りましたが、最小限の薬剤で最大の効果を生むことは、益々増大する医療費の抑制に寄与するものであり、喜ばしい事です。先延ばしされた消費増税を見据えながら診療報酬・調剤報酬改定に対峙することも責務と心得ておりますので、同志国会議員はもとより中央団体とも緊密に連携を取って参りますのでよろしくお願いを申し上げます。

昨年は、いわゆる「危険ドラッグ」に起因する重大な事案が多発し、大きな社会問題になりました。蔓延根絶の法体系整備も急がれますが、青少年の薬害防止対策同様、行政や教育機関と連携しながら、薬剤師会の皆様にもさらにお力を頂戴するところです。

昨年は、沖縄県口腔保健医療センターが南風原新川に移転し、医師会、薬剤師会共々地域医療の拠点として全国に誇れる理想的な環境が整いました。健康長寿の沖縄の復活のために医療業界が先頭になって牽引しなければなりません。本年がまた力強く前進する年になること、沖縄県薬剤師会の発展と会員皆様のご健康とご繁栄を心からご祈念申し上げまして年頭のお祝いのご挨拶と致します。



年頭にあたり

総務副大臣・衆議院議員（沖縄4区）
西銘恒三郎



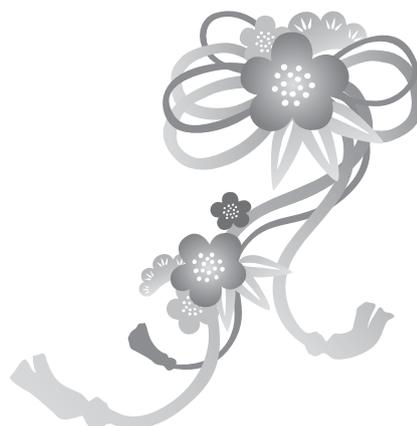
謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、皆様の多大なご支援のおかげを持ちまして四期目の当選を果たす事が出来ました。厚くお礼申し上げます。

さて、少子高齢化が急速に進む地域における医療・介護体制の充実が求められていることから、昨年6月に成立した『医療介護総合確保推進法』に基づき、効率かつ質の高い医療提供体制や地域包括ケアシステムの構築に関する取り組みが本格化しているところです。その中で、地域に密着した薬局・薬剤師が、医療や介護と連携し「チーム医療」の一員として活躍すること等、「かかりつけ薬局」機能の充実強化を図り、セルフメディケーション（自己健康管理：政策集2014J-ファイル／平成27年度予算約2.5億円）を推進することが必要不可欠になっています。対応策に、チーム医療における薬剤師の業務の拡充及び医療機関における薬剤師配置を推進。薬剤師の資質向上を図る、卒後研修制度化を検討。①調剤報酬に関する損税の問題については、消費税率の10%引き上げに併せて総合的検討する（平成27年度税制改正大綱）。

②持続可能な医療保険制度の構築は、将来に渡ってわが国が誇る『国民皆保険制度』を堅持することができるよう運営の安定化等を内容とした『国民皆保険制度改革』を本年度実施する予定です。③消費税率の引き上げ延期。④薬価の毎年改定に関する問題等、社会保障充実・安定化のための財源確保を目的とするものであり、全額を社会保障に充てることとされています。薬価改定については、経済財政諮問会議等の毎年改定することの検討を求められていることに厚生労働省は慎重な立場であります。難題に怯むことなく国民健康保持の為、最大の努力を傾注してまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

沖縄県薬剤師会の皆様のご健勝ご活躍を心から祈念申し上げます。





新年のご挨拶

参議院環境委員長
島尻 安伊子



平成27年の新春を寿ぎ、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。神村武之会長はじめ会員の皆様方には、平素より心あたたまご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。新しい「未年」が皆様にとって平穏で実り多き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

今年は戦後70年という節目の年に当たります。わが国は先の大戦の深い反省の下、自由と民主主義を旗印に平和国家としての道をひたすら歩み続けて参りました。

また、今年で阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災からまもなく4年の歳月が経とうとしています。昨年は集中豪雨など自然災害も多発し、列島に大きな爪痕を残しました。「安心・安全」が当たり前と思っていた誤った常識、安全神話はもろくも崩れ去ったのです。大災害は必ずやって来る、その心構えと災害避難訓練が命を守る第一歩となるのです。そして、特にこのような大規模な災害医療現場では、医師や看護師と連携した“チーム医療”の一員である「薬剤師」の重要度がますます高まってきています。医療技術や医療機械の高度化に伴い、医薬品も高度化され治療薬の効能や副作用も複雑化してきている中で、薬の専門家としての薬剤師の果たすべき役割は今後一層多様化し、活躍の場は広がってゆくことでしょう。

さらに、超高齢化社会におけるこれからの

薬剤師には、患者と医師をつなぐパイプ役だけではなく、むしろ医師をリードするくらいの知識と判断力を兼ね備えた人材が求められてくると思います。命の危険にさらされたとき、頼りになるのはやはり“人”であり“助け合いの心”です。その意味でも医療・医薬のスペシャリストである薬剤師に対する社会の期待はきわめて大きいと言えるのです。

一方、地域医療の担い手として、地域住民の健康づくりの拠点となっている薬局や薬剤師、つまり私たちにいちばん身近な存在の街の薬屋さんの活動も注目されてきています。患者宅を訪問し、服薬を指導し管理する「訪問薬剤師」の取り組みも広がってきています。患者さんの薬に対する不安などに対し、じっくり話を聞きながら信頼関係を築き、きめ細やかな服薬指導と管理を行うことで、在宅医療・在宅介護を支える一助となっているのです。

薬剤師綱領には、薬剤師は「医療水準の向上に資する」「国民の健康増進に寄与する」と同時に「人類の福祉に貢献する」という非常に高い理想が掲げられています。これらの精神を次代の薬剤師の皆さんがしっかりと受け継ぎ、その職責を果たされますようご期待申し上げますと共に、貴会のますますのご発展と、薬剤師の先生方の幅広いご活躍を心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

迎春

昨年では会運営にご理解ご協力を賜わりお礼申し上げます。
皆様のご健康とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

社一般
法人団

沖縄県薬剤師会

顧問 金城保景 新垣正次

我喜屋 宏

監事 大城桂子 伊敷幸太郎

会長 神村武之

副会長 松山朝雄 吉田洋史

専務理事 田場英治

常務理事 江夏京子 宮城敦子

亀谷浩昌 前濱朋子

山里 勇

理事 外間惟夫 笠原大吾

村田美智子 我喜屋美香

川上善久 石川恵市

玉城 純 姫野耕一

新垣秀幸 下地 仁

幸地良信

薬事情報
センター
吉田典子

会外薬局
うえはら
仲真良重

会管薬局
とよみ
島袋陽子

会管薬局
医療センター
城間盛光 他職員一同

沖縄県薬剤師連盟

沖縄県藤井もとゆき薬剤師後援会

会長 神村武之

幹事長 吉田久子 他幹事一同

平成26年度

薬事功労受賞者



(後列) 左より 下地 仁氏、橋本孝夫氏、我喜屋美香氏、村田美智子氏、狩俣イソ氏、瑞慶山純子氏、前原信照氏、砂川裕美子氏
(前列) 左より 仲真良重氏、太田節子氏、吉田久子氏、松山朝雄氏、大浜貴子氏、伊佐常隆氏、筋 初子氏

平成27年1月18日(日)午後6時より、沖縄都ホテル綾羽の間において、沖縄県薬業連合会主催の平成26年度薬事功労受賞者合同祝賀会・新年会(以下、祝賀会)が開催された。

祝賀会には多数の関係者および招待者が出席され、200余名の盛大な宴となった。薬事功労表彰の栄に浴されたのは、日本薬剤師会功労賞受賞の松山朝雄氏をはじめとする23名の先生方である。

祝賀会のオープニングセレモニーでは、本会薬事情報センター関係者による琉球舞踊(かぎやで風)が披露された。琉球舞踊の師範でもある皆川律子氏と孤島丘奈氏の見事な舞踊は、会場を華やかな雰囲気にした。一旦、幕が閉じ、本会広報委員会の砂川智子氏により司会進行がなされたが、再び幕が上がった壇上には受賞者が着席されており、大きな拍手が湧き上がった。

平野和之沖縄県薬業連合会副会長による開会のことばの後、主催者の神村武之沖縄県薬業連合会会長が、受賞者のこれまでの労をねぎらうと共に今回の栄誉を祝福した。その挨拶の中で、「年の暮れは、沖縄県知事選挙、突然の衆議院解散に伴う選挙と慌ただしかったが、沖縄県においては難題、課題が山積し

ており、真の沖縄のための政治折衝、解決を願うものである。」「急速な少子、高齢化社会において医療、介護、予防、在宅における地域包括ケアシステムにおいて医療関係団体の連携が重要であり、その中で我々薬業界が果たす役割も大きい。また、安全・安心な医薬品供給に務め県民からより厚い信頼が得られるよう自覚と責任を持って務めていきたい。」ことなどが述べられ、医療・薬業界にとって課題も山積しているが、これらの諸課題は薬業連合会関係各位のご支援、ご協力、そして政治力も必要であり、一丸となって諸事業を積極的に取り組んでいきたいと述べられた。

司会より受賞者一人一人が紹介された後、翁長雄志沖縄県知事の祝辞が浦崎唯昭沖縄県副知事により代読され、続いて宮城信雄沖縄県医師会長からもご挨拶をいただいた。ご臨席いただいている来賓の方々の紹介があり、その中で公務のため先に退出する島尻安伊子参議院議員からご挨拶をいただいた。

次に、受賞者が舞台一列に並ばれ花束の贈呈がなされた。会場からのカメラのフラッシュと拍手で一層華やかになった。受賞者を代表して、松山朝雄氏より、「薬剤師としての仕事・領域は多岐にわたる。1つは処方に従って薬剤を投与する際、あるいはセルフメディ

合同祝賀会開催

祝賀式典

会期：平成27年1月18日(日) 午後6時～
会場：沖縄都ホテル 綾羽の間(2F)

司会 沖縄県薬剤師会広報委員
砂川 智子

1. 幕開け ～受賞者登壇～
2. 開会のことば 沖縄県薬業連合会副会長
平野 和之
3. 主催者あいさつ 沖縄県薬業連合会会長
神村 武之
4. 受賞者紹介
5. 来賓あいさつ 沖縄県知事 翁長 雄志
沖縄県医師会会長 宮城 信雄
6. 花束贈呈
7. 受賞者代表挨拶 松山 朝雄
8. 乾杯 沖縄県歯科医師会会長
比嘉 良喬

懇談

1. 余興
2. 閉会のことば 沖縄県薬業連合会理事
米村 一成

◆◆◆受賞者◆◆◆

- 【日本薬剤師会功労賞】
松山 朝雄
- 【那覇市政功労賞】
吉田 久子
- 【日本薬剤師会学校薬剤師賞】
大浜 貴子
- 【日本薬剤師会有功賞】
太田節子 嘉陽マツエ 津波高德
- 【九州山口薬剤師会会長賞】
仲 真良重
- 【学校薬剤師制度創設60周年記念文部科学大臣表彰】
與那嶺朝子 伊佐常隆 蒔 初子
- 【学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰】
砂川 裕美子
- 【沖縄県薬事功労者知事表彰】
下地 仁 橋本孝夫
- 【公衆衛生事業特別功労者沖縄県知事表彰】
神里 まり子
- 【沖縄県学校保健会長表彰】
新川重一 平良初枝 當山住子
- 【沖縄県公衆衛生大会会長表彰】
瑞慶山 純子
- 【那覇地区学校保健功労者表彰】
村田 美智子
- 【沖縄県薬剤師会長表彰】
前原信照 村田美智子 平良由紀子
狩俣イソ 我喜屋美香

ケーションの場面でいろいろなものを提供する際、それが正しく適正に使用されるよう積極的に支援をすることである。もう1つは健康保持増進のため、様々な物質を避けるよう助言すること、または勧めないということも仕事の一つである。このような仕事をとおして、環境衛生を含めてそれぞれの分野でささやかであるが、取り組んだことが評価されたものと思っている。これからも更に精進し、受賞に恥じないよう、微力ではあるが薬事衛生の向上、県民の健康増進に努力したいと思っている。そのためにはまず受賞者一同が健康長寿を目指すということを誓い、はなはだ粗辞ではあるが、御礼の言葉とします。」と、謝辞と共に今後の抱負も語られた。

沖縄県歯科医師会会長の比嘉良喬氏の乾杯のご発声にて祝宴に入った。盛り上がる歓談のひとつとき、お祝いに駆けつけた方々が受賞

者と握手を交わす姿や写真撮影を行なう姿も多く見られ、会場は和やかな雰囲気にも包まれた。会場には受賞者の賞状と記念品が展示され、大勢の方が鑑賞された。

会も半ば、司会より多数の祝電が入っていることが告げられ、続けてご臨席いただいている西銘恒三郎、比嘉奈津美両衆議院議員から挨拶を賜った。賑わいをみせる中、余興に入った。本会ホームページの開設、更新等にご協力いただいている赤嶺朝健氏が所属するJAZZバンドが、プロフェッショナルな演奏で魅了し、祝宴に花を添えた。再び受賞者が登壇し、記念撮影が行われ、会場から一斉にフラッシュが焚かれた。

和やかな歓談の一時も過ぎ、沖縄県薬業連合会理事の米村一成氏の挨拶で幕となった。

(文：沖縄県薬剤師会事務局 大城 喜仁)

祝賀会スナップ写真



華やかに開幕



開会のことば
平野 和之氏



主催者あいさつ
神村 武之会長



来賓あいさつ
浦崎 唯昭氏



来賓あいさつ
宮城 信雄氏



司会
砂川 智子氏



来賓あいさつ
島尻 安伊子氏



来賓あいさつ
西銘 恒三郎氏



来賓あいさつ
比嘉 奈津美氏



乾杯
比嘉 良喬氏



閉会のことば
米村 一成氏



花束贈呈後、受賞者代表謝辞をする 松山 朝雄氏

祝賀会スナップ写真



余興にはプロフェッショナルな JAZZ 演奏



中部地区関係者



宮古地区関係者



病薬関係者



元会長らと賑やかにポーズ



学校薬剤師関係者

祝賀会

受賞者プロフィール

〔日本薬剤師会功労賞〕

まつ やま あさ お
松 山 朝 雄

長年にわたって沖縄県薬剤師会副会長ならびに沖縄県病院薬剤師会副会長を務め、組織の発展・強化、会員の資質向上及び分業の先がけとなった県立病院からの院外処方せん発行等に多大な貢献をした。医薬分業の進展に伴い、調剤事故・過誤の問題が取りざたされる中、県薬主催の講演会において、調剤事故防止や調剤過誤時の対応等について講演し、県内薬剤師の資質向上に尽力した。

〔那覇市政功労賞〕

よし だ ひさ こ
吉 田 久 子

昭和51年から38年間にわたり学校薬剤師として、各学校の環境衛生の維持・向上に尽力。また昭和56年からは沖縄県学校薬剤師会（旧名）書記、会計を兼務し、さらに昭和52年に副会長に就任、その責務を全うした実績が認められ昭和62年に会長に就任された。平成9年の退任までの10年間の長期にわたり学校薬剤師の資質向上と学校環境衛生の普及に大きく尽力した。

〔日本薬剤師会学校薬剤師賞〕

おお はま たか こ
大 浜 貴 子

学校薬剤師会八重山支部長を長年にわたり務め、離島を含む地区の問題を改善してきた。かつて航路移動中に事故が発生し薬剤師の健康被害を生じたこともあり、地区で保険に加入する等、離島県ならではの問題にいち早く対応された。また、「遠隔地であるが故の情報不足」、「環境衛生がなされない等の不利益が生じてはならない」、「児童生徒はどこにいても同じ恩恵を受けるべき」という理念のもと、薬剤師不在の島への薬剤師の派遣などに尽力されている。

〔九州山口薬剤師会会長賞〕

なか ま よし しげ
仲 真 良 重

平成11年4月沖縄県薬剤師会会営薬局うえはらの薬局長に就任し、会営薬局の運営に多大な貢献をしている。平成13年に沖縄県薬剤師会常任理事に就任し、会長、副会長を補佐し実務的に行動した。その後8年にわたり組織強化と会員の資質の向上に尽力した。また、保険薬局の指導助言を積極的に行い、薬剤師の社会的地位の向上と沖縄県の保険医療等の充実発展に尽力している。

受賞者プロフィール

〔日本薬剤師会有功賞〕

おお た せつ こ
太 田 節 子

那覇市内にて薬局を経営し、長年にわたり地域の健康相談薬局として健康面のみならず生活全般の相談にもあずかり、近隣住民の信望もきわめて厚く、地域医療に大きく貢献した。

か よう
嘉 陽 マツエ

長年にわたり、診療所の薬剤師として、福祉分野に尽力するとともに、医薬品の安全な使用、医薬品の正しい情報提供を行い、地域住民の健康増進に尽力した。

つ は こう とく
津 波 高 徳

那覇市内にて薬局を経営し、長年にわたり地域の健康相談薬局として健康面のみならず生活全般の相談にもあずかり、近隣住民の信望もきわめて厚く、地域医療に大きく貢献している。

〔学校薬剤師制度創設60周年記念文部科学大臣表彰〕

よ なみね とも こ
與那嶺 朝 子

地域に根差した薬局経営の傍ら、長年、学校薬剤師として地域の複数校を担当し、薬物乱用防止教室、環境衛生検査などを実施し、学校保健活動の向上に貢献している。また、若手学校薬剤師の発掘と育成、教育委員会との交渉、学校薬剤師の地区研修会の実施にあたるなど、資質向上に貢献している。

い さ つね たか
伊 佐 常 隆

地域に根差した薬局経営の傍ら、学校薬剤師として複数校を担当し、薬物乱用防止教室、環境衛生検査などを実施し、学校保健活動の向上に貢献している。

また長年、学校薬剤師会支部長を務め、沖縄県薬剤師会とのパイプ役となる一方、担当地区教育委員会との交渉、学校薬剤師の地区研修会の実施など、資質向上に貢献している。

あごみ はつ こ
蒔 初 子

地域に根差した薬局経営の傍ら、学校薬剤師として複数校を担当し、薬物乱用防止教室、環境衛生検査などを実施し、学校保健活動の向上に貢献している。

また、若手学校薬剤師の発掘、育成にも積極的に取り組み、新人学校薬剤師のサポートにあたりと共に、実務実習生の学校薬剤師研修受け入れにも積極的に協力している。

受賞者プロフィール

〔学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰〕

すな がわ ゆみ こ
砂 川 裕美子

昭和50年より学校薬剤師に委嘱され、以来複数校を担当し、宮古本島のみならず、交通の不便な離島の学校薬剤師としても積極的に活動し、学校環境衛生検査の実施、指導助言を行い、児童生徒の健康増進に貢献した。学校薬剤師会支部長として長年活動し、支部組織の強化、地区研修会を開催し会員の資質の向上、宮古地区における新人学校薬剤師の発掘、遠隔地・離島への学校薬剤師の配置に貢献した。また研修会にて自己研鑽に努めるほか、支部での伝達講習などを通し、情報の伝達を積極的に行っている。

〔沖縄県薬事功労者知事表彰〕

しも じ ひとし
下 地 仁

昭和56年宮古シモジ薬局開局。地域住民へ医薬品供給、健康情報の提供に努める。

平成8年より宮古地区薬剤師会役員として就任し、平成11年宮古地区医薬分業開始と同時に、宮古地区の医薬分業のスムーズな移行に貢献した。また、分業に関する県、市への要望、医薬品情報の収集、県立病院との折衝、地域住民への啓蒙活動など宮古地区医薬分業推進へ大きく貢献した。平成19年からは沖縄県薬剤師会理事として会運営に携わり同時に地区薬剤師会と県薬剤師会とのパイプ役に貢献している。

はし もと たか お
橋 本 孝 夫

平成10年4月に友愛会豊見城中央病院入職を皮切りに平成26年7月現在に至るまで、民間病院薬剤師として病棟における薬剤業務活動を活発に展開し、入院患者の薬物療法の支援に尽力した。平成16年から沖縄県病院薬剤師会理事、平成23年には沖縄県病院薬剤師会副会長に就任し、病院薬剤師会や地域医療に貢献した。

平成22年には沖縄県病院薬剤師会・妊婦・授乳婦の代表世話役として県内の若手薬剤師の勉強会や情報交換会を活発に企画し、薬剤師への啓蒙活動を積極的に推し進めた。

〔公衆衛生事業特別功労者沖縄県知事表彰〕

かみ ごと こ
神 里 まり子

平成2年から県内の幼稚園・小学校・高等学校4校の学校薬剤師に委嘱され、学校保健、学校環境衛生に関する指導助言を行い、公衆衛生の向上に貢献している。平成6年より沖縄県立美里工業高等学校調理科の講師を務め、食品衛生・公衆衛生の面でも幅広く活躍した。学校の飲料水、水泳プールの調査結果を学術大会等で発表する等して公衆衛生の普及向上に貢献した。

受賞者プロフィール

〔沖縄県学校保健会長表彰〕

しん かわ しげ かず
新 川 重 一

昭和47年から宜野湾小学校、中学校の学校薬剤師として委嘱され、現在は、宜野湾小学校、長田小学校、北中城小学校・中学校、森川特別支援学校を担当し、専門的な立場から、学校環境衛生の検査等を通して、学校長、養護教諭との連携を密にして、学校環境衛生の改善、健康教育に関する指導助言、講話等を行って学校保健活動の向上に貢献している。

たい ら はつ え
平 良 初 枝

昭和47年から平成25年3月まで北玉幼稚園・小学校、北谷高等学校の学校薬剤師として委嘱され、専門的な立場から、学校環境衛生の検査等を通して、学校長、養護教諭との連携を密にして、学校環境衛生の改善につなげ、健康教育に関する指導助言、資料提供等を行い、快適な学校環境づくり、学校保健活動の向上に貢献した。

とう やま すみ こ
當 山 住 子

昭和52年に古蔵小学校の学校薬剤師として委嘱され、現在は地元南城市立玉城小学校他、複数校を担当している。学校薬剤師として専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭との連携を密にして、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、資料提供を行い、学校保健活動の向上、発展に貢献した。

〔沖縄県公衆衛生大会長表彰〕

ず け やま じゅん こ
瑞慶山 純 子

昭和63年から27年間、県内の幼稚園・小学校・中学校の学校薬剤師に委嘱され、学校保健、学校環境衛生に関する指導助言を行い、公衆衛生の向上に貢献している。市町村教育委員会などの外部機関へ働きかけ、検査機器など学校環境衛生検査の在り方等を学校薬剤師の立場からアドバイスをを行い、学校での公衆衛生活動の向上に努めている。

〔那覇地区学校保健功労者表彰〕

むら た みちこ
村 田 美智子

平成13年から那覇市立安岡中学校の学校薬剤師として委嘱され、現在は学校薬剤師として専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭との連携を密にして、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、種々の資料提供を行い、学校保健活動の向上に貢献した。また、学校保健委員会を通して学校環境衛生の重要性を説き、特に日常検査が大切であることを指導助言し、学校保健の発展に寄与した。

受賞者プロフィール

〔沖縄県薬剤師会会長表彰〕

まえ はら のぶ てる
前 原 信 照

沖縄県薬剤師会理事、会営薬局うえはらの初代薬局長として、また各委員会委員として、会の資質向上、運営発展に積極的に取り組んだ。現在は中部地区薬剤師会会長として、会の組織の強化や運営に尽力している。中部地区病院、中部地区薬剤師会との薬薬連携を行っている。また、各種協議会委員として積極的に協力し、発展、向上に尽くしている。

むら た みちこ
村 田 美智子

沖縄県病院薬剤師会精神科分科会の活動に積極的に関わり、特に平成20年世話役を引き受けて以来、精神科薬物療法薬剤師の資格取得に向けて、県外研修に出向くことの困難な沖縄県でも単位が取得できるよう、研修会開催を増やす等尽力した。会員の資質向上に向けて、研修会等を開催する等、貢献している。沖縄県病院薬剤師会監事を務め、常任理事として会全体の組織運営にも尽力している。

たい ら ゆきこ
平 良 由紀子

昭和58年薬局開設し、薬局数の少ない地域で住民のセルフメディケーションに積極的に取り組んできた。昭和60年からは学校薬剤師として学校施設の管理及び整備に薬剤師として専門的な立場から助言し、子供たちの学習環境の向上に寄与してきた。現在、地区の薬剤師は調剤業務に追われ学校薬剤師の仕事を続けるのは非常に困難であるが、その中であって複数校の学校薬剤師を引き受け地区薬剤師会の責務を果たした。

かり また
狩 俣 イ ソ

平成22年より沖縄県女性薬剤師部会副会長として、会員の資質向上の活動に多大な貢献をしている。第73回九州山口薬学大会で実行委員として運営に携わり成功裏に導いた。その際取り組んだ沖縄の薬草18種の冊子を作成し「沖縄県の身近な薬草」として発表した。平成24年より、沖縄県病院薬剤師会「妊婦授乳婦分科会」と協力して、「妊婦、授乳婦と薬」の勉強会を実施している。

がきや み か
我喜屋 美 香

平成23年より沖縄県薬剤師会理事として就任、保健福祉委員会委員として、お薬相談会、県民健康フェア等を担当した。禁煙関連では平成24年度に西原町の禁煙教室に協力した。また、禁煙関連講師として県外へ派遣。薬学生実務実習受入委員会委員長として、薬学生の受入に積極的に取り組んだ。学校薬剤師として、薬剤師の立場から、児童・生徒、又は地域の方に対し、公衆衛生、薬物乱用防止、禁煙等の講話を行っている。

研修会

医薬品事故・過誤対策委員会主催
平成26年度 医療安全講習会報告

日時：平成26年2月1日(日) 13:00～14:45
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜式次第＞	司会： 医薬品事故・過誤対策委員会 平良 栄子
○あいさつ	沖縄県薬剤師会 会長 神村 武之
研修1 『「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」紹介』	講師： 医薬品事故・過誤対策委員会 中尾 滋久
研修2 『医療安全に関するトピックス ～いまだから知っておきたいこと、考えておきたいこと～』	講師： 九州大学大学院 医学研究院 医療経営・管理学講座 准教授 鮎澤 純子
	座長： 医薬品事故・過誤対策委員会 糸嶺 達
○質疑応答	
○閉会のあいさつ	医薬品事故・過誤対策委員会 委員長 亀谷 浩昌



平成26年度医療安全講習会が開催され、過去最多となる130名が受講しました。

医薬品事故・過誤対策委員会
吉富 弓江

研修1

「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」紹介
医療事故・過誤対策委員会 中尾 滋久

「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」は、日本薬剤師会が作成した同マニュアルを沖縄県用に一部修正し、平成26年10月に沖縄県薬剤師会が公表しました。[県薬HP(会員のページ)に掲載。]

中尾氏は、同マニュアルは普段使うものではないが、いざという時に慌てずに済むように準備をしておくことが必要。特に、3頁の「対応例(全体像)」に則り、事故処理過程を可能な限り詳細かつ客観的に記録する。13頁の「別紙1 患者等から問い合わせがあった際に利用するメモ用紙例」は各薬局で使いやすよう工夫し、日常的な問い合わせに対しても利用するなどして慣れておくとよい。普段から利用している様式がある薬局については、わざわざ様式を合わせる必要はないが、項目に不足がないことを確認しておく必要がある。いずれにしても、「HPに掲載されて

いるから見ておいて」ではなく、職員に配付して内容を確認し合ってほしいと日頃の準備の必要性を強調していました。

また、研修2の演者である鮎沢氏は、同マニュアルの重要性を重視し是非次の4項目を実施してほしいと、本題に入る前に確認しました。

1. 職員に配付し、皆で読み合わせを行う(内容の確認)
2. 自局とマニュアルの整合性を確認する(地域によっては連絡網が異なる場合がある)
3. 見直す機会をつくる(公表されている事例などを参考にするとよい)
4. 医療機関とのコミュニケーションをとっておく(事例が発生した際、速やかに情報交換できる体制づくりをししておく)



講師
中尾 滋久 委員



講師
鮎沢 純子氏



今年も多くの会員が参加した



座長
糸嶺 達委員

研修 2

「医療安全に関するトピックス」～いまだから知っておきたいこと、考えておきたいこと～

九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 准教授 鮎沢 純子

本研修では、医療安全に役立つ情報源を多く紹介しながら医療安全に関するトピックスを紹介していただきました。

(1) 事故発生時に関するトピックス：「第三者機関」と「院内医療事故調査」

平成27年10月1日施行される新しい制度では、医療事故が発生した医療機関は、院内調査を実施し、その調査報告書を民間の第三者機関（医療事故調査・支援センター）に提出。第三者機関は報告された事例を収集・分析することで、再発防止につなげるための医療事故に係る調査の仕組み等を、医療法に位置づけ、医療の安全を確保するものです。

支援センターへの届出義務は、「当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる（以下省略）」となっているが、薬局で医療事故が発生した場合は、薬局も調査の対象となり得る。

一般社団法人日本医療安全調査機構¹⁾は、2005年から診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業を行っており、既に国の制度として動き始めている。

事故調査における目的は、原因分析（原因究明、真相究明）と再発防止であり、個人等の法的責任を追及するものではない。ただし、「なぜ起きたのか」の前に「何が起きたのか」を把握する必要がある。その

ために、まずは患者の安全を確保し、記録を保管する必要がある。医療は現場の保存ができない特殊な業種なので写真等を利用し、メモを含めた記録には「時刻」を忘れずに記入する。

(2) 医療安全に関するトピックスとして：体系化されつつある医療安全教育

WHOは全ての職種を対象とした「WHO患者安全カリキュラムガイド」を2011年に公表している。東京医科大学医学教育講座²⁾がHPに日本語版を掲載しており、ダウンロード可能である。

医療先進国では「患者参加の医療安全」も進んでいる。AHRQ（医療分野の研究と質向上を支援する部門／米国厚生省の下部組織）は2000年4月、「20 Tips to Help Prevent Medical Errors」（医療事故を防ぐための20のヒント³⁾）を発表している。これは、医療ミスを防ぐために患者の立場からできることを示したものであるが、患者だけでなく医療従事者側にも参考になると思われる。また、JC（米国の認定機関）は、「Speak Up」（質問があったら、気になることがあったら、おかしいと思ったら、声に出そう）というキャンペーンを展開している。

船橋市立医療センター医療安全管理室⁴⁾では、病院オリジナルの「患者・家族の安全対策20か条」を作成するなど、患者・

家族参加型で目に見えるリスクマネジメントを行うための工夫をしている。センターのHPには作成された資料が掲載されており、ダウンロードすることができる。

(3) 重要な課題として：ヒヤリハット事例の活用～再発防止に活かす～

ヒューマンエラーは、広くは「人間のエラー」と捉えられるが、「本来人間が持っている特性と、人間を取り巻く環境がうまく合致していないために引き起こされるもの」で、エラーを引き起こしやすい環境要因が人間のエラーを誘発する。ヒューマンエラーは原因でもあり結果でもあるといえる。そのヒューマンエラーを減らす方法としてチェックリスト⁵⁾を使用することをお勧めする。

小さな施設では、「事故がたびたび起き

るわけでもなく、いろいろなことが起きるわけでもなく、深刻なことが起きるわけではない」と思われがちであるが本当だろうか。また、医療安全対策を万全に行っている施設ほど、いくつもの安全策が機能して「事故」を経験する機会がなくなっていく。だからこそ「他の施設の事例」を活用して医療安全に取り組むべきである。

他の施設の事例の入手先として、日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業⁶⁾、医薬品医療機器総合機構のPMDA医療安全情報⁷⁾、日本医療安全調査機構の警鐘事例～事例から学ぶ～⁸⁾を知っておいてほしい。また、日本医療機能評価機構では薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業⁹⁾も行っている。

- 1) <http://www.medsafe.jp/index.html>
- 2) <http://meded.tokyo-med.ac.jp/>
- 3) <http://www.medsafe.net/contents/hot/12tips.html>
- 4) <http://www.mmc.funabashi.chiba.jp/safety/index.html>
- 5) 「アナタはなぜチェックリストを使わないのか？」
著：アトール・ガワンデ
- 6) <http://www.med-safe.jp/>
- 7) http://www.info.pmda.go.jp/anzen_pmda/iryo_anzen.html
- 8) http://www.medsafe.jp/activ_alarm.html
- 9) <http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>



司会
平良 栄子 委員



閉会のあいさつ
亀谷 浩昌 委員長

＜おわりに＞

鮎沢氏は研修の初めにある動画を見せました。「白チームがパスを何回しているか数えましょう」というものです。私は見たことのある動画だったのでその意図が予測できましたし、結果、その通りでした。まずは「バスケット ゴリラ」でネット検索して実際に数えてみてください。そのあとで「バスケット ゴリラ 意図」で検索してその意図を確認してみてください。

今回の研修では、多くのリソース（目的を達するために役立つ、あるいは必要となる要素）を提供していただきました。私もこの報告書を書きながら閲覧していたのですが、船橋市立医療センターの資料は興味深い内容の

ものが多く、しかも惜しげもなくHPに掲載していることに驚きました。

最後に、「他の施設の事例」を活用して医療安全に取り組んでいただくためには、事例の収集が必要です。是非、日本医療機能評価機構（PMDA）の薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業への登録、事例報告にご協力ください。なお、登録方法については下記までお問い合わせください。

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

TEL：03-5217-0281（直通）

E-mail：

ph-info@yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp

研修会

医薬分業対策委員会主催研修会報告

日時：平成26年11月30日(日) 14:00～16:30
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール



医薬分業対策委員会
西川 裕

去る11月30日(日) 医薬分業対策委員会主催研修会「SGD」が開催された。宮古地区や八重山地区など遠方からの参加者を含め、若手からベテランまで幅広い年齢層の20余名の参加者が集った。

開会あいさつとして神村会長からは、「日曜の忙しい時間に集まっていたことに感謝の意と、医薬分業に関しては、医療費高騰の背景の中、一部の調剤薬局チェーンが利益を上げすぎている事実もあり、医師会からのバッシングもある。沖縄県は後発医薬品使用率は高いが、基準調剤加算の算定要件を満たさない薬局が多いのが現状である。24時間の調剤対応や医薬品の備蓄などにも力を入れてほしい。医師や患者に対し薬剤師として「倍返し」できるように医薬分業の質を高めてもらいたい」と期待を込めた挨拶をいただいた。

また、面での処方箋応需とOTCによるセルフメディケーションで地域密着型の薬局として活躍されている、いは薬局の伊波重宏氏より「調剤とOTC」のタイトルで御講演頂いた。お話を伺って、利用者目線で作られた薬局店舗内、定期的に行うイベント(18日はイハの日・年末くじ)等々、どうしてもは薬局が「地域の方々に長く愛され貢献し続け

る薬局」になることが出来たのか知り、私自身も目指している「地域に根差した理想の薬局の姿」を感じた。すばらしいお話しに改めてこの場をお借りして、御礼申し上げます。

講演の後は、この研修会の目的である『地域密着型の薬局を目指して』をテーマに、1グループ10名程に分かれKJ法を用いてスモールグループディスカッションを行った。ディスカッションは伊波氏の講演の後もあって、盛り上がりすぎて、時間内に意見がまとまらないなどのハプニングもあったが、活発な意見が沢山出て若手薬剤師の交流の場にもなった。

また、現在薬剤師会では、薬局が「健康づくりに関して身近で気軽に専門的な支援が受けられる拠点」として機能していくため、薬局薬剤師が地域住民の健康支援・相談を行うことによる地域住民の健康増進と、地域医療との連携促進を目的として、「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」を県から委託を受けて実施しております。このような活動を通じて、更に地域密着型の薬局を目指していければと感じました。

最後に出席者の皆様、多数のご参加に改めてお御礼申し上げます。委員会の皆様大変お疲れ様でした。



『調剤とOTC』 いは薬局 伊波 重宏氏



Aグループ発表 新垣 慶朗氏



Bグループ発表 安次富 唯氏

＜医薬分業対策委員会主催研修会次第＞

1. 会長あいさつ
2. いは薬局「調剤とOTC」
3. SGD（スモール・グループ・ディスカッション）
テーマ「地域密着型の薬局」を目指して

司会 医薬分業対策委員会委員 川上雄一郎
 沖縄県薬剤師会会長 神村 武之
 いは薬局 伊波 重宏

4. 各グループからの報告（各グループ5分程度）及び質問
5. 閉会のあいさつ

進行 医薬分業対策委員会委員長 池間 記世
 医薬分業対策委員会 西川 裕

＜SGD報告内容＞

A
グループ

健康を維持する！

代表的なカードの内容

地域住民のセルフメディケーションを支える！

- ・ 血圧測定、体脂肪測定などの機器を備える
 - ・ 健康と保健をテーマに指導ができる薬剤師
 - ・ 備蓄数を増やす、24H対応、基準調剤薬局
 - ・ 地域の取り組みに積極的に参加する
- 例) 産業祭り

実現のための方策（アクションプラン）

- ・ 支部・地域開催の健康相談会（おくすり相談会・健康イベント）には必ず参加する。
- ・ 知識取得に努める
→薬剤師自ら勉強会を開催する
- ・ OTCラインナップを見直す



B
グループ

地域密着型の薬局とは？

- ・ 在宅 ・ 宅配（体の不自由な方へのサービス）
- ・ 健康教室 ・ 血圧・血糖測定 ・ イベント
- ・ 地域のまつりなどに参加 ・ 地域でお薬の説明会を
- ・ 薬業連携（より専門性の高い薬局を紹介）
- ・ 薬局間の連携 ・ 他職種との連携 ・ お薬の管理
- ・ 残薬調査 ・ お薬手帳の活用
- ・ 処方せんがなくても入れる薬局
- ・ 365日・24時間患者に対応出来る薬局
- ・ 地域の医療機関の把握
- ・ 顧客管理、患者様のバックグラウンドの把握、DM
- ・ 「ゆんたく」できる薬局
- ・ 門前医院との連携（患者の情報）
- ・ 患者だけでなく家族を含めた健康管理
- ・ セルフメディケーションへのアドバイス
- ・ 特定健診（予防治療）に積極的に関与
- ・ 門前から面分業へ
- ・ 薬剤師綱領

相談しやすい薬局になるには

- ・ OTC（第一類医薬品も）を置く
- ・ 喫茶コーナーを置く
- ・ テーブルや無料のマッサージチェアを置く
- ・ 名前を覚える
- ・ 1人薬剤師でも在宅を
- ・ 価格で勝負でなく、顧客満足度で勝負
- ・ 直販メーカーを利用する、PB商品



〔医薬分業対策委員会主催研修会〕
SGD参加印象記



すこやか薬局 みどり町店
安次富 唯

医薬分業対策委員会主催研修会では「地域密着型の薬局を目指して」をテーマにSGDを行いました。私達のグループでは、「気軽に来局できる薬局、何でも相談できるような薬局」を大きなテーマとして話し合いました。

気軽に来局していただくためには、「薬剤師がもっと外に出るべきではないか」という意見が多数ありました。お薬相談会や地域のイベントなど薬剤師がやれる事は多い気がします。また、沖縄県は全国的に在宅があまり進んでいない現状があるようです。そういう意味でも地域との関わりが大切だと思いました。

普段はあまり関わる事のない薬局薬剤師の先生方とお話しが出来て大変勉強になり、自店ではどのような取り組みをしているのかなども大変参考になりました。

日々の業務が忙しく患者さんと多く話せない時もありますが、投薬中心ではなく、患者さんやその家族の方との関わりが大切だと改めて思いました。患者さんがお帰りになる時には、ここを選んで良かったと思えるような薬局を目指していきたいです。

＜SGD構成メンバー＞

Aグループ

- 中部地区 ○新垣 慶朗 (にしばる薬局)
- 新川 重一 (新川薬局)
- 池間 記世 (やまうち薬局)
- 仲真 良重 (会営薬局うえはら)
- 那覇地区 ○伊波 重宏 (いは薬局)
- 親川 智史 (ゆい安里薬局)
- 永迫 洋子
- 西川 裕 (そうごう薬局 壺川店)
- 南部地区 ○川上雄一朗 ((株)アトル沖縄営業部)
- 宮古地区 ○下地 仁 (シモジ薬局)

Bグループ

- 中部地区 ○安次富 唯 (すこやか薬局みどり町店)
- 仲座 方利 (ひかり薬局 宜野湾店)
- 江夏 京子 (あかみち薬局 あげな店)
- 神里よし子 (よつば薬局)
- 那覇地区 ○山道 峻也 (ひまわり薬局 天久店)
- 石川 恵市 (ミント薬局 泉崎店)
- 吉田 洋史 (吉田薬局 はんたがわ店)
- 伊波恵美子 (いは薬局)
- 普天間公子 (はづき薬局)
- 宮古地区 ○山崎今日太 (ミント薬局 腰原店)
- 八重山地区 ○宮良 長博 (なみき薬局)

研修会

平成26年度 高度管理医療機器継続研修会報告

医療機器販売業等営業管理者の継続研修
医療機器の修理業責任技術者の継続研修

日時：平成26年11月16日(日) 13:00～15:00
会場：沖縄県薬剤師会館ホール



すこやか薬局 よみたん店
村田 成夫

去る平成26年11月16日(日)に沖縄県薬剤師会館に於いて平成26年度高度管理医療機器継続研修が開催された。

平成14年の薬事法改正(平成17年4月1日施行)に於いて、それまで「医療用具」と呼ばれていたものが「医療機器」として定義され、リスクに応じて分類が行なわれました。所謂、薬事法上のリスクに基づく分類とそれに対応したクラス分類である。これら医療機器を販売するにあたり、中でも高度管理医療機器の販売にあっては店舗ごとに営業管理者を配置し、毎年度研修を受講することが義務づけられており、販売業許可証の更新時には受講修了証をもって行う。又、今回は「薬事法等の一部を改正する法律」もあってホールは満席で、継続研修テキストに基づき以下のプログラムに沿って行われ簡単ではあるがその報告を行う。

- (1) 薬事法その他薬事に関する法令
～医療機器販売業及び修理業の遵守事項～
講師：沖縄県薬剤師会副会長 吉田 洋史
- (2) 医療機器の品質管理
- (3) 医療機器の不具合報告及び回収報告
- (4) 医療機器の情報提供
- (5) 最近の話題
講師：ニプロ(株)本社
信頼性保証部
安全管理課
課長 須見 健一



<今回の薬事法改正法の目的>

- ① 医薬品や医療機器等にかかる安全対策の強化
 - ② 医療機器の特性を踏まえた規制の構築。
 - ③ 再生医療等製品の特性を踏まえた規制の構築
- 以上3つが目的とされています。

「薬事法等の一部を改正する法律」(2013年11月27日法律第84号)により薬事法の名称が、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(略称：医薬品医療機器等法)」に変更された。(施行日2014年11月25日)

本研修が行なわれる時点では、医薬品医療機器等法に対応した政省令案の詳細が明らかになっておらず、明らかになっている点のみの報告がされました。

- ① 「薬事法」→「略称：医薬品医療機器等法」へと名称変更が行われる。
- ② 薬事法(医薬品と医療機器を同等扱い)と記載されていた。⇒ 医薬品医療機器等法(医薬品と医療機器が独立した別々の章の扱い)と記載され又、医療機器の範囲や承認方法等が変更された。
- ③ 「再生医療等製品」という製品区分が新設された。
- ④ 疾病の診断・治療・予防に用いるプログラム(ソフトウェア)単体でも医療機器として取り扱う等である。(テキスト第2章を参照) 次回の継続研修会では改正された内容の詳細が明らかにされると思われる。

私事ではあるが、今回の改正は、平成18年以来の抜本的な改正であり、旧薬事法以来60年の歴史のある「薬事法」の名称が変わることに一抹の寂しさを感じる。薬局・薬剤師を取り巻く環境は、平成18年6月の薬事法改正、医療法改正など、関係する法制度が急速に変化しており、医薬品のみならず、医療機器等の販売取り扱いについても適切に対応していかなければならなくなっている。この継続研修を今後の業務に活かさなければと思っている矢先に、年の暮れも押し迫る12月24日、薬事監視の方が突然お見えになり、

薬局の営業許可証の更新にあたり高度管理医療機器の商品、保管場所及び販売記録等をしっかりとチェックしていった。関係する研修資料、研修修了証及び販売記録等はすぐに出せるところに置き、しっかりと記録しておきましょう。研修後にファイルを整理していたことが、早速、活かされたことに胸をなでおろした思いであった。

最後になるが、この場を借りて講師のお二人にお礼を申し上げ、私の研修会報告とさせていただきます。

お知らせ

J P A L S クリニカルラダーレベル5更新に向けてのご案内

「過渡的認定」を申請され、現在クリニカルラダーレベル5の方へ まもなく更新時期です！！

<CLレベル5の更新>

認定期間の平成24年4月1日～27年3月31日の間に、トータルで実践記録18本以上を日本薬剤師会に提出していること。(年度ごとに6本以上等の提出本数の縛りはありません)

◆実践記録18本以上のご提出要件を満たされた方：

平成27年3～4月にかけて、システム上で更新手続き（申請および申請料のお支払）をしていただきます。

過渡的認定申請時と同等の費用が必要となります。

更新手続きを期日（詳細未定）までに完了されない場合、自動的にCLレベル4に降格となります。

会員：5,000円（税別） 非会員：20,000円（税別）

◆実践記録18本以上のご提出がない場合、自動的にCLレベル4に降格となります。

降格された場合は、年度内に実践記録6本以上を提出の上、年度末に実施するCLレベル5への昇格テストを受験し合格すればCLレベル5に昇格できます。

本件に関する問い合わせ先：日本薬剤師会 J P A L S サポート係

jpals-support@nichiyaku.or.jp

啓蒙・普及活動

Uターン・Iターン就職希望薬学部生との相談会報告

青年部会活動の一つとして、一昨年度より、薬剤師無料職業紹介所及び広報委員会とのタイアップで薬剤師職能のPR、特に学生を対象とした薬剤師職に関する啓蒙活動を掲げています。

去る平成26年11月28日から30日の2泊3日で、薬剤師無料職業紹介所の責任者である事務局の大城喜仁氏と私の出身大学である北陸大学に赴き、薬学生を対象としたUターン・Iターンの広報活動を行ってきました。北陸大学は、沖縄県出身学生が87名と多数在学し、その大多数が薬学部生であるということです。

相談会は、13名の沖縄出身の薬学生（2～5年次生）とディスカッションをすることができました。出身高校を尋ねると県内各地から入学しており、近年の薬剤師職の人気を実感しました。ディスカッションの内容は、沖縄では薬剤師が不足している状況を話し、是非Uターンして、沖縄県の医療の充実を図るために共に働いて欲しいと話してきました。沖縄で就職する不安要素を解消してもらうために、比較表を用いて研修会等の開催が他府県よりも多いこと、沖縄でも十分研鑽できることを伝え、さらに沖縄県薬剤師会でも新人・新任研修会や学術大会、青年部会活動をとおして研修や発表する場があることを説明してきました。

今回の相談会に参加した薬学生の多くが、沖縄に戻ったら就職先があるのか不安であるとの相談が多く、これに対しては無料職業紹介所に登録されている求人社数や求人内容を



青年部会
川満 直紀

説明し、登録されている求人情報をいつでも、何度でも閲覧することができる旨を話し、不安の解消をしていただきました。2年前の相談会では病院就職希望がほとんどでしたが、今回の参加者は薬局就職を希望されている方が多いことに驚かされました。しかし、就職活動の時に自分の意にあった薬局を決める情報源がパンフレットやホームページであり、沖縄の薬局もこれらの情報源を工夫するなど力を入れて充実して欲しいとありました。これに関しては、各薬局でパンフレットやホームページ等を作成し情報発信しているところもありますが、まだ薬学生までには浸透していないことを実感しました。

今回、薬学生と話して、薬学生の薬剤師に対する意識の高さと意欲を強く感じました。沖縄に帰ってきて、これからの沖縄の医療に貢献してほしいと思いました。

最後に、この誌面をお借りしてのお礼となりますが、北陸大学薬学生とのディスカッションが有意義に開催することができたのは、この企画をご理解いただき、ご快諾いただきました小倉勤理事長、三浦雅一薬学部長をはじめとする諸先生方のご厚情によるものです。特に、同企画の相談にご尽力いただきました同大学学務部の山澤千尋氏に厚く感謝申し上げます。



啓蒙・普及活動

北海道医療大学における学内合同就職相談会への参加報告

平成26年12月3日、表題の件で行ってまいりました北海道は札幌市！！（ベタな書き出しでスママセン）。しかし・・・寒い、寒すぎる。沖縄の気候に慣れてしまった私の体は、おやし譲りの毛深さを持ってしても、凍てつく空気にブルブルしている始末。誰かと寄り添って歩きたいところですが、隣にいるゴリ・・・いや、石川恵市理事との抱擁は雪山遭難時以外お互いに勘弁なので、我慢するほかありません。

今回の我々のミッションは、「北海道医療大学の在校生（ほぼ地元出身者）に沖縄の魅力を存分にアピールし、卒業後の就職先として沖縄という土地を選んで頂くきっかけを作る！」という事です。（通常、地方の大学による合同企業説明会は、地元の医療機関や企業が優先となる為、なかなか他県からの新規での参加は難しいのですが、石川理事を初めとしたOBの方々のご尽力により、今回初めて沖縄から参加することができた経緯があります。）

対象学年は4・5・6年生ですが、ほぼ平成28年度卒業予定（5年生）の学生さんがメインでした。参加団体は約130団体、体育館を埋め尽くす光景は圧巻です。この中で我々は『沖縄県薬剤師会』としてブースを設けたのですが・・・先に結果を記述しますと、我々のブースに来られた在校生はなんと全体で3番目に多い人数でした。（後日談ですが、我々のブースには常に人が居た為、話を聞きたくても聞けない学生が更に居たとの事。）私は他大学の合同企業説明会に参加した経験が少々ありますが、地元の方がここまで沖縄に興味を持って集まった記憶はございません。北海道の土地柄なのでしょうが、「沖縄が大好きだ」と言う方が多いです。事は特筆すべき点だと思われ

ます。ところで、学生の皆様には



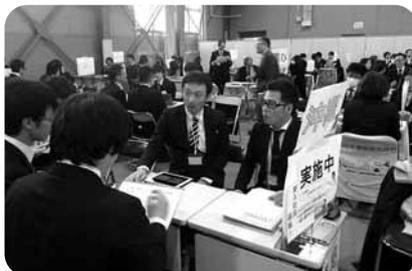
青年部会
牧野 唯右

『沖縄県薬剤師会』を通してもらうことで次にあげるメリットがあることを説明しました。

- ① 通常の紹介会社を通すよりも沖縄の医療機関に当然詳しい為、希望に沿った就職口を紹介することができる事。
- ② 信用できる医療機関を紹介する為、就職後に失敗したと思わせるようなことは少ない事。
- ③ 薬剤師会としての研修内容は充実している為、就職後の知識向上の為のバックアップを責任持って行う事。（就職後の研修について質問してくる学生は多い。）

つまり、彼らは信用し希望を持って沖縄に来ます。受け入れる医療機関側は「信用される職場作りをしなければならない」という事でもあります。ある一個人の人生を左右する活動なのです。我々も十分に責任を持たなければなりません。襟を正さなければと、私自身も身の引き締まる思いとなりました。

さて前述した通り、今回予想以上に多くの学生がブースに訪れました。沖縄の魅力を十分に伝えられたのかどうか正直不安な部分もあります。しかしながらやるだけのことはやった、次に繋がるノウハウも確立できたという充実感から、帰り際に思わず石川理事と「お疲れさん」の抱擁を交わしてしまいました。ま、雪山遭難時以外にもこんなこともあるという事で。（終）



啓蒙・普及活動

薬局等における「お薬手帳活用促進DVD」での 県民向け広報について



広報担当理事
宮城 敦子

当会におきましては、県民の健康な生活に寄与するため、薬剤師の幅広い職能活動を広く県民に啓発することを目的として多種多様な広報活動を実施しています。10月の「薬と健康の週間」等にて地元紙2社へ広告掲載ならびに論壇投稿等を実施し、「薬の正しい使い方」などを中心に、これまで時宜に応じたテーマでPRして参りました。

一昨年、当会独自で制作した「薬局等における対面販売強化のための行動に関するテレビコマーシャル」を昨年も琉球放送より放送し、更には「お薬手帳活用促進に関するプロモーション映像」を当会独自で制作し、去る10月の薬と健康の週間中に開催した県民公開講演会にて来場者へ視聴していただきました。

この「お薬手帳活用促進プロモーション映像」は、アットホームで分かり易い内容に仕上がっており、ぜひ薬局等において県民向け

に広報していただけるよう、DVDにてパッケージし会員の薬局等へ配布致しました。

同映像は、社会（県民）に対して薬剤師の職能と責任を証明するものであり、当会の重要な資財として今後の薬剤師職能PR事業に繋がりたいと思います。「お薬手帳活用促進」の広報活動実施につきまして、同DVDを薬局等において放映する等、引き続き会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

会員の皆様におかれましては、事情ご賢察の上、よろしくお取りはからい下さいますよう、重ねましてお願い申し上げます。

尚、当会ホームページからも同映像を閲覧することができることを申し添えます。

「お薬手帳活用促進DVD」を県薬事務局に在庫しております。必要とされる会員はご一報下さい。

<お薬手帳利用促進用映像の内容>

ビジュアル

◆オープニング

タイトル：

「知ってますか？持ってますか？お薬手帳」

背景は青空で爽やかなイメージ



ナレーション

◆ナレーションを担当するキャスターの登場

・宮城麻里子氏(フリーアナウンサー)



皆さんはお薬手帳をご存知ですか？

◆お薬手帳を知っているか？
持っているか？
街頭インタビューの映像



- ・ 一般人役
- 男性：川満琢也氏
(沖縄県看護協会)
- 親子：金城みどり氏
(薬情報センター事務)
- 金城 逞君
- 女性：儀間小夜子氏
(ファミリーハウスがじゅまるの家事務局長)

はい、知っています。
自分は通院をしているので薬をもらうたびに使用しています。

はい、持っています。
子どもが小さいので病院に行くたびに使っています。

はい、持っています。
自分がどういった薬をもらったかわかるので安心してきますね。



(ナレーター)
このお薬手帳が
あなたの健康を守るうえで
大切な役割を果たしています。

◆さまざまなお薬手帳の映像

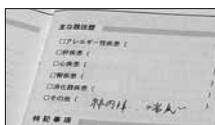
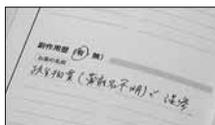


◆薬剤師がお薬手帳の概要や
使用用途を解説
・ 砂川智子氏 (解説役)



(解説)
お薬手帳とは
自分が使っている薬の名前や量、日数、
使用法などを記録できる手帳です。
また副作用歴やアレルギーの有無、
過去にかかった病気、体調の変化などについて
も記入できます。

◆お薬による副作用歴やアレルギー歴、
また主な既往歴が記入された
お薬手帳の解説映像



◆薬剤師が患者さんにお薬手帳を利用して
服薬指導するイメージ映像
・ 薬剤師役 (上地里奈氏)
・ 患者役 (砂川昌代氏)



(解説)
質問や意見、要望などを
書き留めておくことで、
医師、薬剤師との連絡手段にも
活用できます。

◆薬の相互作用 (飲み合わせ) の解説映像
・ テロップ
「薬の相互作用 (飲み合わせ) のチェック」



(解説)
お薬手帳は複数の医療機関に
かかっている場合におこりがちな、
薬の重複投与や薬の相互作用の防止、
飲み合わせもチェックできます。

◆薬剤師が患者さんに薬の重複投与回避の指導映像

・テロップ「薬の重複投与の回避」



(薬剤師)

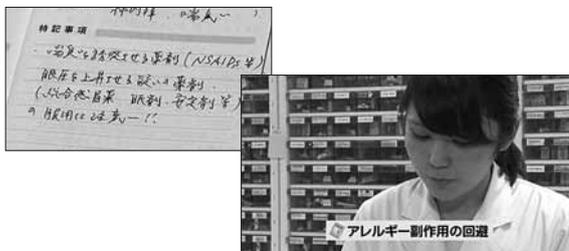
こちらですがお薬が重複しておりますので私の方で先生に連絡しておきましょうね。

(解説)

体に合わなかった薬の記録や他に飲んでいる薬を確認することで、アレルギーや副作用を未然に防ぐことができ、体質に合わない薬の投与を避けることもできます。さらに、市販薬やサプリメントなども記入しておけば、処方薬との飲み合わせをチェックすることができるので、医療機関や薬局へは必ず持っていくようにしましょう。

◆薬剤師によるアレルギー副作用の回避の指導映像

・テロップ「アレルギー副作用の回避」



(解説)

お薬手帳は医師や患者さんの情報を共有し、適切な薬の処方に結び付けています。複数の医療機関で治療するときや、入院時などに特に効果を発揮します。その機能を活かすためには、自分の薬歴を一元管理することが必要になります。

◆一般市販薬の購入時に お薬手帳使用を勧める映像



◆お薬手帳の役割や薬歴の一元管理を勧める解説映像

・テロップ「お薬手帳は医療機関や薬局でお渡ししています」



◆薬剤師が患者さんに複数枚のお薬手帳を一冊にまとめる指導の映像

薬剤師役(佐久川 卓氏)
患者役(赤嶺美樹氏)

・テロップ「お薬手帳は医療機関や薬局でお渡ししています」



(薬剤師) 今日はお薬手帳をお持ちですか？

(患者) はい。

(薬剤師) 三冊もお持ちなんですね。

お薬手帳は一冊にまとめることで管理や飲み合わせなど確認しやすくなりますので、こちらで一冊にまとめてもよろしいですか？

(患者) はい、お願いします。

(解説)

病院や薬局ごとに何冊か手帳をお持ちの方は、一冊にまとめてください。一冊にまとめるときは薬剤師に相談してください。



◆薬剤師がお薬手帳を一冊にまとめることを勧める映像



(解説)

更に災害時に避難した時に、旅行先で急病になったとき、あるいは救急搬送されたときなどお薬手帳があれば、迅速な治療が可能になります。

◆エンディング ナレーターが再登場



(ナレーター)

お薬手帳は私たちと医師や薬剤師を繋ぐ大切なコミュニケーションツール。ご自身の健康を守るために大変役立ちます。是非ご活用ください。

部会だより

時代とともに求められる役割

～青年部会主催講演会報告～

日時：平成26年10月25日(土) 20:00～21:30

会場：(株)アトル 沖縄営業部 2階 研修室



ミドリ薬局 美里店 玉城 武範

昨年10月、北里大学薬学部臨床薬学研究・教育センター臨床薬学(保険薬局学)の有海秀人講師、吉山友二教授による以下の講演が、青年部会主催で開催されました。

演題1「保険薬局における吸入指導～喘息コントロールテストの活用と服薬情報提供～」

演題2「近年の社会情勢を踏まえた薬局の求められる機能とあるべき姿」

保険薬局が地域の中で担うさまざまな役割の中でも、薬剤師による慢性疾患の治療の管理や薬物治療評価に対する取り組みは、本邦における今後の高齢社会では特に重要です。慢性疾患を抱える患者の多くは、医療機関ではない日々の生活の中で治療・管理が行われます。それゆえ患者の日常の生活の観点から、保険薬局において薬物治療の評価・確認が求められる背景があります。今回、慢性疾患への治療の管理について、保険薬局の薬剤師が担える役割の1例として、喘息死への解決に向けた取り組みを紹介いただきました。

喘息死は予防できるものであるにもかかわらず、年間2000人余りの喘息患者が亡くなっています。喘息治療に保険薬局が関わる先の研究では、保険薬局の薬剤師が喘息専門医を受診した患者に吸入チェックシートを用いて吸入指導を行った結果、吸入操作の改善が喘息症状の改善に寄与することが報告されています¹⁾。また、保険薬局の多くの薬剤師が患者主訴のみで喘息症状を把握していたとする調査結果²⁾を踏まえて、保険薬局の薬剤師が日常的に使用する評価方法として扱いやすいと考えられる「日常生活の制限」、「息切れ」等の5項目からなるACT(Asthma

表1

ACT(Asthma Control Test)のメリット

- ・質問が5つなので短時間で行える
- ・喘息専門医の診断と相関性が高い質問項目
- ・質問結果が点数化される
- ・症状や頻度を把握できる
- ・喘息コントロール状況を把握できる

Control Test)の有用性が紹介されました(表1)。

喘息治療においては、外来診療のみの指導より、在宅による生活環境等の整備が喘息症状の改善に有用であることもわかっています³⁾。保険薬局の薬剤師は服薬指導時にACTを活用し、患者の喘息症状や症状を引き起こす問題点などを把握することで、喘息患者の治療に介入し、在宅にて生活環境整備のための指導を行っていく必要性が示されました。

次に近年の社会情勢を踏まえた薬局の求められる機能とあるべき姿の解説がありました。我が国の高齢者人口は増加の一途をたどっています。平成37(2025)年にはいわゆる「団塊の世代」が75歳以上を迎え、現役世代(15～64歳)が減少し、さらには平成47(2035年)には4人に1人が75歳以上の超高齢社会になることが推定され、今以上に社会全体として疾病を多数抱えるリスクが高い高齢者の健康を考えなければならない時代となります。

このような社会情勢を踏まえ、厚生労働省は平成26年にかかりつけ薬局を推進するための指針として「薬局の求められる機能とあるべき姿」を策定しましたと解説がありまし

表2

1. 薬局が備えるべき基本体制について

- ① 薬局が受けるべき許可等
- ② 薬局の開局時間
- ③ 医薬品の備蓄
- ④ 薬局が備えるべき構造・設備
- ⑤ 地域医療における役割
- ⑥ 薬局の人的機能

2. 薬局における薬物療法（薬学的管理）の実施について

- ① 薬学的管理
- ② 在宅医療への取り組み
- ③ 後発医薬品の使用促進
- ④ 健康情報拠点としての役割
- ⑤ その他の備えるべき機能

た⁴⁾(表2)。いずれの項目も、今後達成していかなければならない課題ですが、「⑤地域医療としての薬局の役割」については、平成25年6月に閣議決定された日本再興戦略にも「薬局を地域に密着した健康情報の拠点とし、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する」として盛り込まれています。医療・介護・福祉に加

え、地域住民の生活習慣の改善、疾病の予防に資する取組など、保健分野を一層重視していく方向性を示しているものと考えられました。

薬局は地域住民にとってどのような存在なのでしょう。時代は動いています。地域住民から見た薬局の社会性を紐解くには、これまでの薬局が歩んできた歴史を再び学び、正しく解釈する必要があります。今でこそ当然とされる薬局の様々な役割は、古きを見れば必ず奇異とされた時代があったかと想像されます。今回の講演会を通して、過去から未来にわたる薬局の存在価値は、一定の社会性のみで論じられていないことに気付かされました。現在の薬局機能としての常識に加えて、時代が求めるブラックボックスに対して、私たちは敏感になる必要があります。今でいう“薬局”がいつまで社会の中で闊歩させてもらえるかわかりません。少なくとも地域の中の生命科学の分野において「いつの時代も変わらないもの」を重視して、時代とともに求められる薬局および薬剤師としての役割を探求していく必要性を強く感じさせられた講演会でした。

引用

- 1. 福田早紀子ほか、保険薬局におけるチェックシートを用いた医薬連携による喘息患者の吸入指導の有用性, アレルギー 58, 1521-1529, 2009
- 2. 有海秀人ほか、日本プライマリ・ケア連合学会, 第5回プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 183 (2014)
- 3. 西岡謙二, 生活環境アレルゲンとその回避策, 喘息, 24, 14-20, 2011
- 4. 薬局の求められる機能とあるべき姿, 厚生労働省, http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/yakkyoku_yakuzai/index.html, Accessed January 4, 2015.



演題1
有海 秀人氏



演題2
吉山 友二氏

部会だより

平成26年度 日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会

主催：公益社団法人 日本薬剤師会
日時：平成26年12月8日(月) 13:20～16:40
会場：スクワール麹町5階「芙蓉」(東京都)



(株)スズケン沖縄薬品 中部支店
座波 祥子

去る12月8日(月)東京都にて開催された、卸薬剤師部会研修会に出席させて頂きましたので報告致します。会場は全国からの出席者で満席であり、日本薬剤師会会長山本信夫氏の挨拶を始めに、研修会は執り行われました。

講演1. 「薬剤師会を巡る最近の動き」

薬剤師の懸案として挙げられた中の一部をご紹介します。

【懸案1. 医薬分業の推移と今後】

調剤業務獲得(医薬分業)の歴史を遡ると、処方せん受け取り率が5%にも満たなかった時代の昭和49年に診療報酬の「処方せん料が6点から50点に」引き上げられ、経済的な院外処方の誘導により処方せん発行枚数が徐々に増加し、約30年後の平成15年には医薬分業率が50%を超え、現在は当初の目標であった70%分業に到達しつつあります(現在の全国平均医薬分業率67%、沖縄県72.9%)。また、薬局薬剤師の主な役割である疑義照会等の状況調査結果によると、約60%が疑義照会により処方内容が変更されている結果となりました(平成22年度調査)。しかし、薬剤師の貢献、活躍もさることながら薬剤師法第19条や医師法第22条には「ただし・・・」書きの記載があります。薬剤師自身や分業の為に、ただし書きを削除する必要があるが現実的に法改正とまでいくとなかなか簡単にはいかない事もあり、未だ医薬分業は完成には至っていない状況にある、

日本薬剤師会副会長 石井 甲一
との考えを示されました。「薬剤師法第19条」薬剤師でない者は、販売又は授与の目的で調剤してはならない。ただし、医師若しくは歯科医師が次に掲げる場合において・・・この限りでない。の内容の記載)

【懸案2. 医療提供体制における薬剤師】

医療法において薬局の位置付けは、医療を提供する施設であることが明記されている事もあり、法的な環境整備が来ています。高齢化社会が今後も進行する中で終末ケアを含む在宅医療の連携、いわゆるチーム医療がますます重要となることでしょう。2010年には厚労省によるチーム医療検討会の中で「薬剤師の役割の拡大」①薬剤師業務の明確化②6年制薬剤師の輩出を念頭に、将来的な業務が検討されたとの報告がありました。今年の6月には「骨太の方針2014」が閣議決定され、リフィル制度について医師法との関係に留意しつつ、検討することになりました。処方せんに基づく調剤業務が殆どである薬局の現状を、病院へかかる前の健康情報の拠点となる薬局への推進を2015年も継続する、とお話しがありました。

講演2. 「セルフメディケーション推進と今後の薬局の役割」

日本薬剤師会 藤原 英憲

WHOは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」とセルフメディケーションについて定義しています。

一般用医薬品をめぐる課題として、医薬分業の進展、調剤業務への偏りにより薬剤師による一般用医薬品関与の機会が低下しているように思います。今年は遂に一般用医薬品のインターネット販売が解禁され、法改正の動きも大きい1年となりました。ネット販売解禁になったものの、一般用医薬品の生産金額推移に影響は少なく、医薬品購入者の多くは外国人であり日本国民のセルフメディケーションとしてのOTC薬の活用は低迷している、とのこと。一方で、健康食品は2兆円産業で

あり「健康食品」に関する実態調査でも約60%が利用しているとの結果が得られ、国民の健康への意識や関心が高い事がうかがえます。こうした背景からも、「かかりつけ薬局」を推進するための指針として、厚生労働科学研究事業により「薬局の求められる機能とあるべき姿」がとりまとめられました。薬局・薬剤師に求められる機能に関する基本的な考え方として、内容の一部を抜粋します。「セルフメディケーションの推進のために、地域に密着した健康情報の拠点として積極的な役割を發揮すべき」など。また、最後には「薬局が健康相談拠点として機能していくには、地域で医師会などとの連携も必要だ」との声もあがりました。

講演3. 「薬局・薬剤師の災害対策について」

日本薬剤師会副会長 生出 泉太郎

生管理」「飲料水の水質検査等環境衛生活動」を行っていたそうです。

活動中、特に役に立ったのが「お薬手帳」や処方履歴を記入し繰り返し使用できる「災害対応緊急薬袋」とのことでした。また、3枚複写式の災害時処方箋は保険請求も可能でとても助かった、と話されておりました。

最後には、課題と今後の対応として、医薬品等の供給支援に特化した組織（行政・関連団体・製薬・卸も含む）の設置（厚労省内）と指示系統の整備。そのうえで、全体の災害医療支援体制と連携を取る、とした「医薬品等の供給支援（救援物資）」から、47都道府県薬剤師会に最低2名以上の「災害医療担当薬剤師の育成」等と多岐に渡りお話しして下さりました。

記憶に新しい東日本大震災からもうすぐ4年という月日が経とうとする現在でも、未だ2000人以上が行方不明だそうです。当時、宮城県薬剤師会は12日までにライフラインの関係から、県薬会館での対応が難しいと判断し、急遽会長の生出泉太郎氏宅（おいで薬局仙台店）に緊急対策本部を立ち上げ、情報収集を中心に対応を開始。また、宮城県薬では情報通信環境が非常に不安定なこともあり、既に携帯電話を利用した「災害掲示板」を立ち上げていたそうです。

災害時の医療救護活動のうち救護室では「医薬品使用の助言」「調剤・服薬指導」「医薬品の保管管理」など行い、避難所では「一般用医薬品の管理及び被災者への配布」「医薬品等に関する相談」「トイレの消毒等、衛

最後になりますが、日本薬剤師会としての近況や動向、懸案事項をお聞きすることが出来、大変勉強になりました。このような機会を与えて頂いたことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

部会だより

第12回 日本女性薬剤師会移動セミナー参加報告

〈保健・医療・福祉の架け橋になろう、そして在宅医療・在宅介護への対応〉

生涯を安心して生きる

～多職種との連携による地域包括ケア体制の中で地域医療提供施設としての役割～

日時：平成26年11月3日(祝・月)

会場：国際ファッションセンター KFC Hall(東京都)



女性薬剤師部会
与儀 和子

〈基調講演〉

「幸せに生涯を過ごせる街づくりを市民と共に」

富山県南砺市民病院前院長

南砺市政策参与・地域包括課顧問

南 真司 先生

高齢者率34%、過疎化、超高齢化が進む南砺市での地域医療の取り組みについて話されました。居宅におもむいてはじめてわかることがたくさんあり、患者さんの抱えている問題を明確化し多職種との連携により薬剤師としての職能を発揮できる。

〈講演1〉

「地域医療における医歯薬連携と歯科口腔外科疾病 ～ビスフォスフォネート製剤や経口抗凝固療法・通院化学療法を中心に～」

東邦大学医学部口腔外科

関谷 秀樹 先生

義歯を治すことで寝たきりの人が起き上がった症例を経験して歯科が貢献できるということにめざめた。薬剤においてはビスフォスフォネート系製剤や、ワーファリンの話、さらに科学放射線療法による口腔粘膜炎の発症など薬剤科の協力が不可欠であることを話された。

〈ランチョンセミナー〉

「医療安全における薬剤師の役割

～地域包括ケアシステムを基本として～」

日本病院薬剤師会副会長

土屋 文人 先生

医療安全の確保のために薬剤師がなすべきことは何であろうか、薬学の発展は臨床における薬剤師の必要性を浮き立たせています。医薬品は物質と情報が一体となったものである。薬剤師は患者情報と薬品情報を正しく理解し判断する能力を身につけなければならない。2025年に向かって、今求められているのは「原点に戻って」職能面・教育面から、薬剤師をみつめ直すことだ。

〈特別講演1〉

「薬剤師への期待」

内閣府食品安全委員会事務局評価第一課長

関野 秀人 先生

我が国における医療行政は平成19年の第5次医療改正を契機に「患者本位の医療」を掲げ方向性を明確に示した。今後より一層、地域の実情に応じた体制の整備が図られる。そのため薬剤師は医療の担い手としての自覚を持って医療・介護の連携に積極的に関与すべきである。

＜特別講演2＞

「目指そう!! 足腰丈夫でにこにこ100歳」

金沢先進医学センター理事長・院長

富田 勝郎 先生

100才をめざして生きることは障害物競走とマラソンを組み合わせたようなものであり、背筋、腹筋、大臀筋、大腿四頭筋をしっかりきたえることが大切である。1日7000歩～1万歩歩いて、骨々貯筋!!

＜事例報告＞

1. 協働に活かそう薬剤師のフィジカルアセスメント技能

日本女性薬剤師会副会長

小宮山 貴子 先生

○薬局薬剤師のためのフィジカルアセスメント研修会の企画と実施

○フィジカルアセスメントファシリテーター薬剤師の育成

○フィジカルアセスメント技能を適用した事例報告

2. 在宅医療活動から自然につながった多職種連携と包括ケア

日本女性薬剤師会特命理事

渡辺 悦子 先生

富山県南砺市でのとりくみを話されました。地域連携・多職種協働、実践することはなかなか難しいのが本音、しかし一歩踏み出す努力が大切、薬の専門家として信頼され、認知される夢を叶える行動をしたいと元気にしめくくられた。

3. 地域包括ケア体制での連携について

～訪問看護師の立場から～

田園調布医師会立訪問看護ステーション

田中 千賀子 先生

認知症療養者に対する服薬管理の工夫、独居の方を対応し症状緩和することができた例の報告、また退院前カンファレンスでの薬剤師の関わりについて、連携の大切さを話された。

4. 大災害地福島市でのとりくみ

うさぎ薬局せのうえ店

島貫 英二 先生

地域の薬局同士が連携しあうネットワーク構築セミナーに参加し多くのことを学び、また刺激を受けることができました。在宅医療に関心を持ちながらなかなかできていない現状を反省しつつ現在行っている処方薬の配達、あるいは残薬の確認などを糸口に、一歩でも踏み出せたら、と考えております。

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい!

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。

是非“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します!

寄稿 久米島での産業まつり健康プロジェクトに参加して

日時：平成26年12月14日(日) 9:00～14:00
会場：久米島町具志川農村環境改善センター



(株)たいよう薬局
齊藤 基道

久米島に赴任して早1年が過ぎようとした、平成26年12月14日(日)、久米島病院の看護師の方々との合同で開催された、産業祭り健康プロジェクトに参加させていただきました。

プロジェクトの目的は以下の内容です。

- ① 島民の方々に生活習慣病(糖尿病、高血圧、肥満等)について関心を持ってもらう。
- ② 血糖値、血圧等の基準値を超えた方には健康相談、保健指導を行い、早期受診を促す。
- ③ 食生活の重要性を認識してもらう。

健康プロジェクトはまず、産業祭りが開催される一角にブースを設け、血圧計、体成分分析器、血糖値測定器を設置し、各測定計に担当者を配置することから始まった。会場を訪れた人たちに呼びかけを行いブースへと案内、主に血糖値測定(担当は看護師)→体組成測定→血圧の順に測定を行ってもらった。

血糖測定は気軽に測定が出来ないということもあってか、非常に盛況であり引切り無しの希望者があった。測定は、祭り会場での食事前と後の血糖値をセットで行い、血糖値の変動を記録、そのデータから生活指導等を行うというものであった。来場された島民の方々は非常に健康に対し関心があり、結果の解釈や生活指導等に対し熱心に耳を傾けていた。

訪れた方やブースの前を横切る方々に、事前に用意しておいた生活習慣病による食事についてのパンフレットを配り食生活の重要性を説明した。

そんな中、とても驚いたことがあった。それは、薬局の患者さんでよく来局されている方であったが、その方がある男性を連れてこ

られた。聞いてみると、60代の方であったが一度も健康診断を受けたことがないということであった。血糖測定には待ち時間があつたため、初めに血圧測定を行ってもらったが、基準値よりかなり上の値を示した。すかさず病院受診を提案しながら体組成測定を行ってもらったが、その段階でとても測定を嫌がられ、血糖測定をせずお帰りになってしまった(その後病院を受診されたかは不明)。健康には自信があるようであったので余程ショックであったのか、あるいは、根っからの病院嫌いだったのかはわからないが、今後の健康について考えると残念でならない。定期的な健康診断により常に自らの体調をチェックし、日常生活に気を配ることの重要性を再確認する出来事だった。

プロジェクトに参加する事ができ、とても有意義であったと感じている。特に、日常の一コマでの会話が出来たことは、患者対薬剤師ではなく一人の人間として接することが出来たのではないかと思う。

このプロジェクトに参加することで関わる事が出来たすべての方々には心から感謝を申し上げるとともに、今後の薬剤師業務に真摯に打ち込んで行きたい。



＜相談員＞

- 赤木 宗範 ○笠原 大吾 ○菊井 景子
- 齊藤 基道 ○村上 祐子 ○山城 晶

2015年1・2月号 : Vol.30 No.1

薬事情報おきなわ No.231

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

おくすり相談室 TEL : 098-963-8935



Medical News

●「人食いバクテリア」患者263人…最悪に (読売新聞 12月24日)

「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」の今年の患者数が12月中旬で263人と、1999年以降最悪となった。国立感染症研究所は、激しい喉の痛みや手足の腫れなど、感染が疑われる症状があれば、医療機関を速やかに受診するよう呼びかけている。東京(41人)、神奈川(19人)、愛知(18人)が多い。子どもの咽頭炎やとびひを起こすA群溶連菌などが原因。38度を超える発熱や傷口の激しい痛みや腫れなどの初期症状から急激に悪化し、数日以内にショック症状や多臓器不全などに陥ることがある。抗菌薬による早期治療が重要だが、昨年20人が亡くなった。手足や顔などの筋膜組織が壊死することもあり、「人食いバクテリア」とも呼ばれる。

●インフルエンザワクチン、小児に効果大 流行のA香港型で6割 (毎日新聞 12月25日)

この冬に流行中のA香港型インフルエンザについて、15歳以下の小児でワクチンの効果が予想以上に高いことが、慶応大の研究グループの調べで分かった。接種を受けた小児の約60%に発病を抑える効果が見られるという。

●薬過剰投与で一瞬心肺停止 山梨大病院 (共同通信社12月24日)

山梨大は22日、同大医学部付属病院に入院している高齢女性が、医療用麻薬を含む鎮痛薬を過剰に投与され一瞬心肺停止になる医療事故があったと発表した。女性は心肺蘇生などを受け一命を取り留めたが、低酸素脳症で意識不明の状態が続いている。看護師は13日早朝、鎮痛薬の点滴投与を中止するよう女性から要望され、投与量を調整する機器を停止したが、途中の弁を閉めずに機器を外してしまったため女性の静脈に約10分間、投与されていた。医療用麻薬は痛みを止める効果がある「フェンタニル」。副作用として呼吸を抑制する。毎時2μgを投与する設定だったが、約10分間に約400μgが投与され、呼吸困難になったとみられる。

●後発品知識不足で誤投与～評価機構が報告書 (薬事日報 12月27日)

日本医療機能評価機構は、今年4月から6月までの医療事故情報等の報告書を公表した。後発品に関する知識不足により、救急入院時から持続点滴されていた蛋白分解酵素阻害剤の後発品「ナオタミン」と「ナファモスタットメシル酸塩」が同成分と気づかず、点滴漏れによる皮膚の色調変化に対応が遅れた事例等、2件が報告された。後発品には複数の販売名があったり、薬剤の名称が似ていることから、異なる成分の薬剤を後発品と思い込んでエラーとなった医療事故事例が報告されている。

●アレルギー申告していた患者、投薬ミスで死亡 (読売新聞 12月27日)

高知県立幡多けんみん病院は26日、入院患者の高齢男性にショック症状を引き起こす薬剤を誤って投与し、死亡させたと発表した。男性は薬剤へのアレルギー歴を申告していたが、主治医らがカルテを確認せずに投与した。主治医は今年、男性の感染症治療のため、看護師に抗生物質製剤の点滴を指示。男性は投薬5分後にアレルギー反応が出て心肺停止となり、約1時間40分後に死亡した。同病院は、初めて薬を投与する際にはカルテでアレルギーの有無を確認する決まりだが、主治医らは確認を怠っていたという。

●薬の副作用被害救済、不認定増加…処方など問題 (読売新聞 1月5日)

「医薬品副作用被害救済制度」の支給が認められない事例が目立っている。給付金の請求は増加傾向で、13年度は1371件に達した。一方で、支給が認められない事例も増えており、不支給事例は12年度は215件、13年度は232件。過去5年では全体の1～2割を占める。不適切な薬の処方や患者への説明不足などがあり、厚生労働省は「医師は添付文書を熟読して薬を適切に処方し、患者にも服用法をしっかりと指導してほしい」と呼びかけている。

●筋弛緩剤を誤って投与、患者死亡 大阪府立の医療機関 (朝日新聞 1月1日)

大阪府立急性期・総合医療センターは31日、入院中の60代の男性患者に誤って筋弛緩剤の点滴を投与し、男性が死亡したと発表した。医師から抗生物質の処方を指示された薬剤師が薬剤を取り違え、点滴前に確認した看護師2人も気づかなかつたという。男性患者は抗がん剤治療のために約2週間入院。発熱の症状が出たため29日、主治医が抗生物質「マキシピーム」の点滴を指示したところ、女性薬剤師が薬剤の入った棚から誤って筋弛緩剤「マスキュレート」を取り出し病棟に送った。二つの薬剤は別の棚で保管されており、薬剤師は男性への点滴が始まった約2時間後、別の患者用に「マキシピーム」を取りだそうとして取り違えに気づいたが、男性はすでに心肺停止状態だったという。薬剤師は「抗生物質だと思って筋弛緩剤を出してしまった」、看護師らは「その患者の薬だと思った」と説明しているという。

●薬剤師国試、大学別志願者数を公表 - 合格率操作に一定の歯止め (薬事日報 1月9日)

厚生労働省は、2月28、3月1に行われる第100回薬剤師国家試験から、大学別の出願者数を公表する。大学別の出願者数も明らかにすることで、各大学で実際に何人が受験しなかったのかが把握できるようになる。大学側にとって国試の合格率は、受験生や保護者への大きなアピール材料となるため、一部の大学では国試に受かりそうもない学生を留年させるなどして、合格率を操作しているのではとの疑いがある。今回の措置について厚労省は、「そうした大学にとっては一定の障壁にはなるだろう」としている。



公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業

医療 安全情報

No.98 2015年1月

カリウム製剤の 投与方法間違い

急速静注が禁止されているカリウム製剤を、静脈ラインから急速静注した事例が5件報告されています(集計期間:2011年1月1日~2014年11月30日)。この情報は、第19回報告書「個別のテーマの検討状況」(P71)で取り上げた内容を元に作成しました。

カリウム製剤の急速静注は禁止です。

投与した カリウム製剤	1アンプル 中の量	準備した量	予定した 投与方法	間違えた 投与方法	件数
K.C.L.点滴液15% (40mEq/20mL)	20mL	生理食塩液 (20mL) で希釈 計40mL	シリンジポンプ を用いて 微量持続注入	急速静注	1
KCL補正液 1mEq/mL	20mL	5mL			1
KCL注 20mEqキット*	1キット中 20mL	10mL	点滴内に混注		1
アスパラカリウム注 10mEq	10mL	20mL			2

※プレフィルドシリンジ型製剤から注射器に吸い取り、急速静注した事例です。

◆カリウム製剤の添付文書には、「カリウム製剤を急速静注すると、不整脈、場合によっては心停止を起こすので、点滴静脈内注射のみに使用すること。」と記載されています。

〔カリウム製剤の投与方法間違い〕

事例 1

医師はシリンジポンプで5mL/hで持続投与を意図し、「CV内頸 側管1 K.C.L.点滴液15% (40mEq/20mL)+生理食塩液(20mL)1日3回」と指示したが、投与速度、投与方法の指示はしていなかった。看護師はアンブルに記載してある「点滴専用 薄めて点滴」という表示を見て、指示内容を確認するため手術室に電話した。手術室看護師に「オーダ通りに投与していいか」と手術中の医師に聞いてもらったところ、医師はシリンジポンプを使用すると思っていたため、「いいです」と返答があった。看護師は指示通りに調製し、モニタを見ながら中心静脈ラインの側管からカリウム製剤の調製液を注入した。残量が6mLのところSpO₂低下のアラームが鳴ったため、注入を中止した。

事例 2

上級医は「患者の補液(ソルデム3A)に、KCL 10mL追加」と口頭で指示した。看護師は、KCL注 20mEqキット(プレフィルドシリンジ型製剤)に専用針を付けず、注射器に10mL吸い取って研修医に渡した。研修医は、カリウム製剤の投与は初めてであったため不安になり、上級医に「静注でいいですか」と確認したところ、「やっておいて」と回答があった。研修医は、静脈ラインの側管に注射器を接続し、KCL注10mLの注入を開始した。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・投与指示(投与量、投与方法、投与速度)のルールを守る。
- ・薬剤マスタのカリウム製剤名に「点滴専用」や「要希釈」などと記載する、カリウム製剤の払い出し時に製剤と一緒に「急速静注禁止」の紙を入れる、など注意喚起を行う。
- ・プレフィルドシリンジ型製剤の剤形の目的を理解し、使用時は注射器に吸い取らない。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

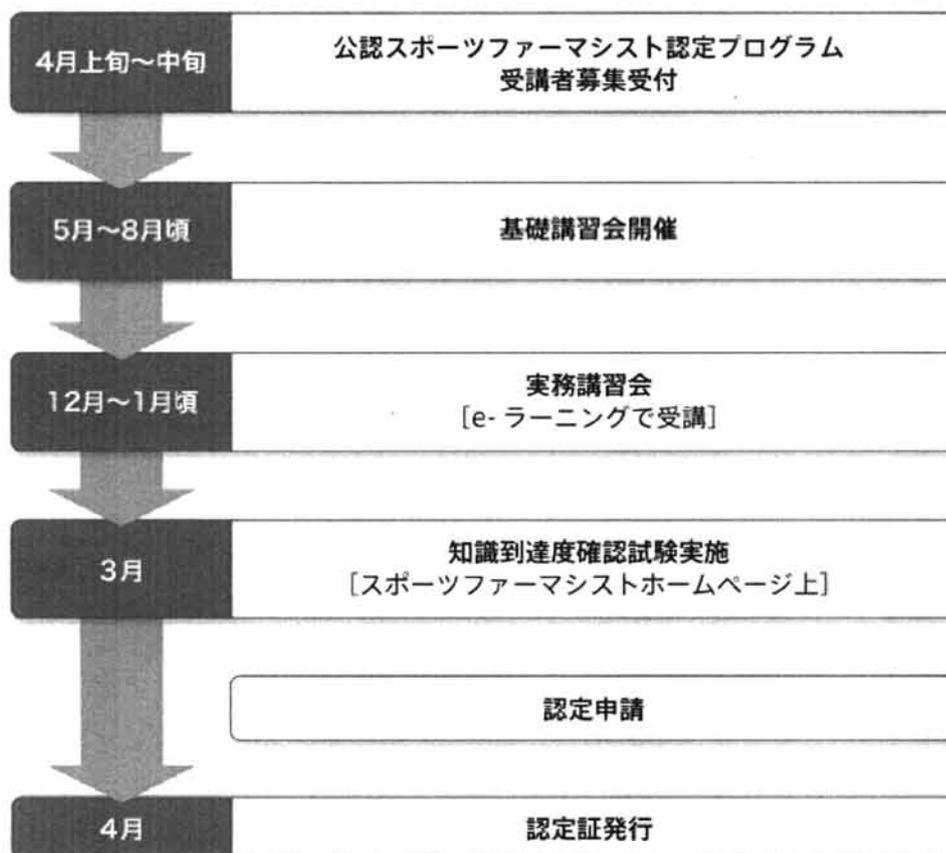


公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.med-safe.jp/>

スポーツファーマシスト資格取得をお考えの方へ

公認スポーツファーマシストは、最新のドーピング防止規則に関する正確な情報・知識を持ち、競技者を含めたスポーツ愛好家などに対し、薬の正しい使い方の指導、薬に関する健康教育などの普及・啓発を行い、スポーツにおけるドーピングを防止することを主な活動とします。
薬剤師の資格を有し、所定の課程を修めた方が、(公財)日本アンチ・ドーピング機構より認定される資格制度です

■ 認定までのスケジュール



認定料：20,500円（4年間有効）

よくある質問

Q1. 募集はいつから開始しますか？

⇒4月頃を予定しています。募集詳細はHPにてご案内致します。

Q2. 個人パソコン・メールアドレスを持っていませんが受講出来ますか？

⇒個人アドレスは必ず必要になります。資格取得中の連絡は全てe-mailになります。

なお、フリーアドレスをお持ちの方は極力お控えください。連絡が行き届かない場合があります。

Q3. 募集要項を教えてください。

⇒募集要項は、HPにてご案内致します。

※参考までに、2014年度の実務講習会申込期間は2014年4月1日(火)～4月8日(火)でした。

申込期間が1週間程度と短いため、受講希望の方はHPで日時を確認するよう宜しくお願い致します。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

「おくすり相談室」の受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

【質問】3歳息子にアレロックを飲ませたい。味はどうですか？

【回答】顆粒自体は白糖でコーティングされていますので、甘みがありそのまま服用できると思います。

【質問】ボルタレン錠を飲んだ後、あまり効かないので坐薬を使いたい。何時間位あければよいか。

【回答】ボルタレン錠の効果は約6時間以上続くので、6時間程度は間隔をあけるようにして下さい。

●安全性情報●

【質問】熱性痙攣で4歳、20Kgの子供に6mgのダイアアップが出ている。さっき入れたつもりの坐薬が裸になって転がっていたので、もう一つ入れてしまった。でも、よく考えてみたら、転がっていたのは別の坐薬かもしれないし、ダイアアップを2個使ったのかもしれない。大丈夫ですか？（女性）

【回答】ダイアアップの1回量は、体重1Kg当たりの0.4~0.5mgです。20Kgであれば1回量は8~10mgとなります。もし6mgを2回使ったのなら12mgとなり、1回量としては多少多めですが、お子様の状態がぐったりしている、ふらふらしているのであれば、家で様子を見ていいと思います。ただ、症状がいつもと違うようでしたら、すぐに医療機関を受診して下さい。

【質問】むやみやたらに血液サラサラの薬を飲むと脳の血管が切れると、テレビで言っていたようだ。父もバイアスピリンを服用中である。左の足と手が動かないが、この薬のせいですか？（男性）

【回答】バイアスピリン等の抗血栓薬は、医師の指示により処方されるお薬です。お薬が効きすぎると、歯磨き時に歯茎からの出血が止まらなかったり、鼻血が出やすくなったり、たいしてぶつけてもないのに青あざが出来やすくなったりします。このような症状がなければ心配ないでしょう。医師の指示通り服用を続けて下さい。手足の動きについてはお薬との関連があるとは考えにくいのですが、念のため専門の医師にご相談ください。

【質問】2000年に米に住んでいた時、統合失調症でハロペリドールとセレネースを飲んでいました。その頃から手の第一関節以外は動かなくなり、視力も低下した。日本医帰って来てから、病院の医師に薬の副作用だと言われた。どうしたらいいか。（女性）

【回答】日本で処方された薬剤であれば、副作用被害救済制度の対象となりますが、米で服用されていた薬についてはその対象とはなりません。症状については専門医に相談する事をお勧めします。

【質問】インフルエンザの治療でリレンザを服用中ですが、あと1日分残っている。今日、帯状疱疹で抗ウイルス剤バルトレックスが処方された。一緒に飲んでも大丈夫ですか？（女性）

【回答】対象となるウイルスが異なるため、同時服用は可能です。

●ドーピング●

【質問】ポッチャという競技に娘が出ているが、来月のパラリンピック大会に薬を持って行くので、以下の薬を調べて欲しい。ガスコン錠、ガナトン錠、ファモチジンOD錠、SM散、アレギサル錠、ピーエイ錠、クラリスロマイシン錠、スルガム錠、レベニン散、カロナル錠、デキササルチン口腔用軟膏、アラゼ軟膏。（女性）

【回答】全てドーピング禁止薬物ではありません。

●意見・苦情●

・ルネスタを1mgで飲んでいましたが、効かなかったので3mgに増えた。処方せんは1mgの3錠だったが、薬剤師は1錠で3mgの錠剤があると話していただけて、医師に聞いてみると言ってくれなかった。処方せん通りの1mg錠をもらって家に帰ったが、やはり1錠3mgのがよかった。（女性）

・一冊5枚位の薄いお薬手帳を渡された。なぜそんな少ないのを渡すのか。僕は、薬を飲んでる記録がちゃんとできるお薬手帳はいいものだと思う。薄いものだとすぐページがなくなってしまう。それから、縦に長いものと横に貼るタイプがあって、横を真ん中に貼られるとそれだけで1ページ使われてしまう。前は、重ね張りなどして1ページでたくさんの記録ができたのに。薬剤師会で統一してくれないか。（男性）

・ネットでエチゾラム（デパスのジェネリック品）を初めて購入。落ち着くために2、3錠飲んだあと6~8時間睡眠を取った。翌日冷蔵庫の食べ物がないと家族に言われたが、自分は食べた記憶がない。これは副作用ですか？（男性）

・1人では通院困難で、ヘルパーを伴い通院中の患者がいる。その方に居宅管理といって薬剤師が関わる事はできますか？（ヘルパー）

・薬局でジェネリック医薬品を希望したが、ないということで先発品を渡された。ジェネリックをおいている薬局を紹介してもらえないか。（那覇市）

・薬剤師は、患者が入院中に副作用等文書で説明する義務はないのか。2カ所の病院で入院したが、1カ所は薬剤師が来て説明を受けたが書面はなく、副作用の説明もなかった。もう1カ所は薬剤師も来なかった。また、調剤薬局で、説明書はいらなと言ったが、「この薬局では説明書をあげる事になっている」と言っていた。拒否はできないのか。（男性）

今の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

○医薬ジャーナル 51巻1号

- *特集1：医師主導臨床試験への提言～今、何が求められているのか～
- *特集2：がん薬物療法の最前線～抗体医薬品を中心に～
- ・注目論文を読み解く（34）（p.168）
 1. リラグルチドによる自己免疫性肝炎
 2. ビスホスホネートで心房細動リスクが増加
 3. ワルファリンでの重篤な出血リスクが抗菌薬併用で増加
 4. SSRIでの上部消化管出血リスクがNSAID併用で増加
 5. タモキシフェン活性代謝物の血漿中濃度がフェニトイン併用で低下
 6. ガバペンチンの腎クリアランスがシイタケ含有食摂取でわずかに増加

○エキスパートナース 31巻1号

- *特集：臨床の裏ワザ・裏知識
- *特集：糖尿病を基礎疾患にもつ患者の危険サイン

○月刊薬事 57巻1月号

- *特集：周術期患者への薬学的介入
- ・適応拡大クロースアップ ヒマトプロスト（p.109）
- ・適応外使用の処方せんの読み方（55） 尿路結石（p.145）

○産科と婦人科 82巻1号

- *特集：ワンランク上の妊婦検診

○産科と婦人科 82巻2号

- *特集：血管新生を標的とした婦人科癌治療

○正しい治療と薬の情報 29巻1月号

- ・エルトロンボパグの効果と害について（p.87）
- ・オセルタミビル（タミフル）の害とその機序-最新情報（p.94）

○調剤と情報 21巻1月号

- *特集：在宅・医療連携・トリアージの実践
- ・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす（4）CKD-MBDに関連した検査値の基準値と目標値（p.51）
- ・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく（52）ビスホスホネート製剤の”横にならないように”を誤解（p.71）
- ・新薬くろーずあつぷ：カナグル錠（p.101）

○治療 97巻1号

- *特集：XS,カンファ

○日経ドラッグインフォメーション 207号

- *特集：薬剤師キャリア考
- ・服薬指導：妊娠高血圧症候群に使用できる降圧薬（p.PE003）
- ・医師が語る 処方箋の裏側～重症ドライアイ患者の点眼薬治療、ムコスタを14日分で処方する理由（p.PE016）
- ・適応外使用のエビデンス 前立腺肥大症薬のデュナステリドが男性型脱毛症を改善（p.PE017）

○日経メディカル 566号

- *特集：辞めない女医のつくり方

○日本医事新報 4729号

- *特集：緑内障を知る
- ・質疑応答～眼科：ドライアイにおける点眼薬の選択（P.52）
- ・質疑応答～内科：H. Pyloriは口移しで感染するか（P.53）

○日本医事新報 4730号

- *特集：新しい経口抗凝固薬はこう使いこなす
- ・NOAC使用上の注意点とワルファリンとの相違（P.26）

○日本医事新報 4733号

- *特集：再発させないためのイレウス治療
- ・質疑応答～内科：痛風発作時の尿酸降下薬投与における注意点（P.58）

○日本医事新報 4734号

- *特集：アレルギー性鼻炎治療薬使いわけマニュアル

○薬局 66巻1号

- *特集：妊婦の薬物治療管理
- ・催奇形性に関する情報源と情報の見方・考え方（p.27）

○総合診療 25巻1号

- *特集：動悸・息切れ

○The Medical Letter 30巻13号

- ・妊娠高血圧腎症予防薬としての低用量アスピリン（p.49）

○The Medical Letter 30巻15号

- ・オキシコドン・アセトアミノフェンの長期放出型配合剤（p.59）

○The Medical Letter 30巻18号

- ・スタチンと糖尿病のリスク（p.79）

○The Medical Letter 30巻20号

- ・閉経後骨粗鬆症の治療薬（p.91）

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

サリドマイド薬害の教訓

薬局 1月号

抗つわり薬、精神安定剤であるサリドマイドの薬害から50年経過して、被害者の苦痛は一向に軽減されていない。それどころか加齢に伴って二次性機能障害が生まれ、活動制限はますます増大し、さらに過用による痛みは慢性疼痛になり、社会参加も制約されている。

サリドマイドは1960-1962に起こった薬害によって「悪魔の薬」と烙印を押され、公衆の面前から葬られたが、諸外国ではハンセン病やペーチェット病等難治性粘膜皮膚疾患の「特効薬」として水面下で使われていた。ハンセン病が今なお多発しているブラジルでサリドマイドは製造されている。薬箱のラベルには「妊婦の服用は危険である」と明確に書かれている。しかし、これを服用によって中絶ができると誤解して、1980-90年代にサリドマイド胎芽症の再来が起こった。TNF α の合成抑制、抗腫瘍効果、抗細菌効果、創傷治癒、血管新生の阻止等が明確にされた。2008年10月には厚生労働省は多発性骨髄腫、らい性結節性紅斑の治療薬として認可。「福音の薬」となった。

帝京大学医学部臨床研究医学講座
寺本 民生

お薬手帳を通じたコミュニケーション

治療 11号

本稿では、ポリファーマシーによる健康被害を防ぐためのコミュニケーションとしてのお薬手帳の歴史、実態、啓発のあり方について北海道薬科大学の野呂瀬崇彦氏が述べている。

お薬手帳は、1995、1996年の厚生省による医薬分業モデル地区として指定された埼玉県朝霞地区薬剤師会が、患者自身の薬識向上および相互作用や重複投与の回避を目的として、お薬手帳（薬識手帳）を作成・配付していたのがその端緒とされている。

しかしながら、保険薬局において薬剤師が患者情報を得る手段として75.6%が活用している一方で、80%以上の患者がお薬手帳の説明は受けているものの本来の目的が十分に伝わっていないといわれている。現在「お薬手帳カレンダー」、「飛び出すお薬手帳」など普及啓発に向け多くの取り組みがされている。コミュニケーションツールとしてお薬手帳が機能するためには、医療にかかわるすべてのスタッフがその意義と目的を認識し、確認・記録に取り組む必要があると考える。

適応拡大クローズアップ～無水カフェイン

月刊薬事 12月号

平成27年3月に製造販売承認を取得した未熟児無呼吸発作治療剤「レスピア静注・経口液60mg」（一般名：無水カフェイン）が12月1日発売された。ここでは、適応拡大となった承認背景、臨床現場での注意点を名城大学薬学部の後藤伸之氏が解説している。

国内の早産児無呼吸発作の一般的な薬物療法は、テオフィリン経口剤およびテオフィリンのエチレンジアミン塩であるアミノフィリン注射剤がある。しかしこれらは、1日2-3回の投与が必要であり、血中濃度モニタリングによる投与量調節が必要である。一方、カフェインは、治療域と中毒域の血中濃度幅が広く、副作用発現リスクも低い。また個体内変動が少なく、1日1回投与で安定した血中カフェインの濃度の維持が可能のためTDMも不要とされている。注意しておきたいポイントとしては、特に心血管系疾患のある患児などでは心拍数及び新排出量が増加する事が懸念されるため、慎重に投与すべきである。また、腸管の未熟性、腸管虚血、感染、呼吸循環動態の安定していない早産児では壊死性腸炎の発現リスクがある事から特に注意が必要である。

乳幼児への抗ヒスタミン薬使用と熱性痙攣

日本医事新報 4732日号

抗ヒスタミン薬は、テオフィリンと同様に、熱性痙攣誘発の可能性が高い。発熱で救急外来を受診した小児（平均年齢1.7~1.8歳）で、熱性痙攣が認められた群では抗ヒスタミン薬を45.5%が内服しており、熱性痙攣を認めなかった群の抗ヒスタミン薬の内服率22.7%の約2倍であった。幼少児（特に2歳未満）への投与には十分な注意が必要である。

抗ヒスタミン薬が痙攣を誘発する機序は、脳内へ薬剤が移行することで、痙攣抑制的に作用する神経伝達物質のヒスタミンに拮抗する。

中枢抑制の副作用としては、インペアード・パフォーマンスの方が被害は甚大である。この状態は集中力、認知機能、勉強能率、運動能率などのパフォーマンスが、疾患だけではなく、脳内へ移行する抗ヒスタミン薬により、無自覚に障害されている状態であり、その程度は抗ヒスタミン薬の脳内H1受容体占拠率と相関する。発育途中の脆弱な脳を持つ小児期に抗ヒスタミン薬を長期に使用する場合は、脳内へ移行しにくい新しいタイプの抗ヒスタミン薬（アレグラ、アレジオン、ザイザル等）を選択する事が望ましい。

順天堂大学医学部附属練馬病院小児科
新島 新一

話題のビタミン・サプリメント(45) シトルリン(L-シトルリン)

Key Word: スイカ、アミノ酸、一酸化窒素、血流改善

2005年の国税調査では、沖縄県の100歳以上の人口比率が全国平均の2.5倍と最も高かった。長寿を支える沖縄の伝統食材の一つがゴーヤー(二ガウリ)。その有効成分としてシトルリンが注目されています。今回はシトルリンを取り上げてみました!

シトルリンは1930年、日本の研究者がゴーヤーと同じウリ科のスイカの果汁から発見したアミノ酸。シトルリンという名前はスイカの学名(シトルラス プルガリス)から名付けられた。スイカの原種と言われるカラハリ砂漠の野生スイカに多く含まれており、過酷な乾燥や強光ストレス下においても、生きていくのに重要な役割を果たしている成分であると考えられている。野生スイカは日本のスイカとは全く違い、甘味もなく、実も小さく果肉も赤くない。

シトルリンは、遊離アミノ酸の一つで、NO(一酸化窒素)を産み出す。NO(一酸化窒素)には血管を拡張し、血流を促進する作用がある。さらに、血流の促進により酸素や糖の組織への運搬が円滑になることで、動脈硬化の抑制、免疫の向上をサポートする。血流がスムーズになることで、栄養素などを体のすみずみにまで運べるようになり、さらに老廃物などは滞りなく運び出せるようになる。こうした働きから、美容、冷えの改善、むくみ予防、男性機能の改善など、さまざまな効果が期待できる。また、スポーツ時においてはアンモニアを取り除き、乳酸の消費を促進するため、パフォーマンスの向上や疲労回復などの効果が報告されている。

L-シトルリンは皮膚の天然保湿因子を構成するアミノ酸の9%を占め、セリン、グリシン、アラニンに次ぎ4番目に多い。タンパク質を構成しない遊離アミノ酸としては最も多く、表皮の水分保持に関与している。

……参考文献……

1. 国立健康・栄養研究所「健康食品の安全性・有効性情報」
2. 協和発酵バイオ:
<http://www.kyowahakko-bio-healthcare.jp/healthcare/index.html>
3. NIKKEI DI Drug, 日経BP社. 2008. 7

【1日推奨量の目安】 1日300~800mg

【シトルリンを多く含む食材】

食品名	シトルリン量(100gあたり)
スイカ	180mg
メロン	50mg
冬瓜	18mg
ゴーヤー(にがうり)	16mg
きゅうり	9.6mg
ヘチマ	5.7mg

協和発酵バイオ調べ

※1日推奨量の800mgをスイカで摂ろうとすると、17個食べればOK

NO(一酸化窒素)ってなに?!

NOは、心臓と血管の健康に欠かせない物質です。主に血管の内皮(血管の内壁を覆う組織)でつくられています。心臓と血管は、血液を介して酸素・水分・栄養分を全身に送り届けると同時に老廃物を排出しています。NOは血管の筋肉を柔らかくして広げ、血流をスムーズにします。また、血管内のコレステロール堆積や血栓の発生を抑えます。血管の柔軟性を保つことこそ健康を保つ秘訣の一つといえます!

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬幹旋図書】治療薬マニュアル 2015

【監修】高久史麿、矢崎義雄 【発行】医学書院 【発行日】2015年1月

【版型/頁】B6判/2688頁【定価】5,400円(税込)【会員価格】5,000円(税込)

収録薬剤数は2,200成分・16,000品目。2014年に記載された新薬を含む医薬品について、添付文書に記載された情報を分かりやすく整理し、各領域の専門医による臨床解説を加えた。添付文書情報は、化学構造式も含め、重要事項をすべて収録

【日薬幹旋図書】Pocket Drugs 2015

【監修】福井 次矢 【発行】医学書院 【発行日】2015年1月

【版型/頁】A6判/1218頁【定価】4,536円(税込)【会員価格】4,210円(税込)

類似薬・同効薬ごとに治療薬を分類し、第一線で活躍の臨床医による「臨床解説」、すぐに役立つ「くすりの選び方・使い方」、薬剤選択・使用の「エビデンス」を、読みやすくコンパクトにまとめた。欲しい情報がすぐに探せるフルカラー印刷で、主要な薬剤については製剤写真も掲載。臨床で使用される治療薬をすべて収録。

【日薬幹旋図書】今日の治療薬 2015年版

【編集】浦部晶夫 他 【発行】南江堂 【発行日】2015年1月

【版型/頁】B6判/1392頁【定価】4,968円(税込)【会員価格】4,470円(税込)

薬効群ごとに解説と便覧で構成したベストセラー。コンパクトながら確かな改良を重ねた第37版。解説は各領域ガイドラインほかの最新情報を掲載。便覧は併用禁忌薬剤に分類名を併記し、索引の後発品名には対応する先発品も明記。

【日薬幹旋図書】ポケット版 臨床医薬品集 2015

【編集】星 恵子 【発行】薬事日報社 【発行日】2015年1月

【版型/頁】A6判/約1100頁【定価】4,320円(税込)【会員価格】3,900円(税込)

【主な特徴】

- ◆妊婦及び授乳婦禁忌薬が一目でわかる一覧表を新たに収録
- ◆特記事項をさらに充実
- ◆薬剤の選択に役立つ同効薬の比較表など、わかりやすい図表を多数掲載
- ◆2014年11月承認予定の新薬情報まで収録
- ◆最新の「診療・治療ガイドライン」に沿って解説

スポーツにおける薬物治療 処方と服薬指導

【著者】日本臨床スポーツ医学会 学術委員会【発行】株式会社オーム社 【発行日】2014年12月

【版型/頁】B5判/360頁 【定価】5,292円(税込)

薬を飲みながら、スポーツを行っている方に対して「どのような処方、どのような服薬指導を行うとよいか」についてわかりやすく学ぶことができる専門書。

近年、ドーピングの防止やコンディションの維持などに対して、医療関係者のサポートが重要になっている。薬物治療を受けながら運動を行う方へ適切な治療を選択し、アドバイスできるよう、「スポーツを行っている人への処方と服薬指導」について医師と薬剤師が正しい知識を共有できるようにまとめている。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1) 医薬品情報の提供 (2) 「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3) 医薬品に関するお問い合わせ (4) 県薬ホームページの制作・管理 (5) 消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6) 医薬品 PL センター窓口業務 (7) ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。

お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の見学、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937

沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

●母親及び乳児におけるマクロライド系抗生物質の使用と乳児の肥厚性幽門狭窄リスク (BMJ (7950)14-(2014.3.22))
1996年-2011年にデンマークにおいて全国規模のコホート研究を行った。単胎生産児 999378例を対象に、マクロライド系抗生物質(erythromycin, roxithromycin, azithromycin, clarithromycin など)処方(母親の妊娠中の使用 30091例, 母親の出産後の使用 21557例, 乳児の使用 6591例)、肥厚性幽門狭窄 (IHPS) の外科手術および潜在的交絡因子に関する個体レベルの情報を調査。その結果、乳児 880例が IHPS を発症 (出生 1000例あたり 0.9例)。マクロライド系抗生物質非使用の乳児と比較して、出生後 0-13日に使用した乳児の IHPS の補正率比は 29.8(95%CI; 16.4-54.1)、14-120日に使用した乳児では 3.24(1.20-8.74)、それぞれの絶対リスク差は、マクロライド系抗生物質を使用した乳児 1000例あたり 24.4(13.0-44.1)、0.65(0.06-2.21)であった。出産後 0-13日に母親がマクロライド系抗生物質を使用した場合の率比は 3.49(1.92-6.34)、14-120日の使用では 0.70(0.26-1.90)、絶対リスク差はそれぞれ 2.15(0.82-4.64)、-0.11(-0.26-0.31)であった。妊娠中の母親がマクロライド系抗生物質を使用した場合の率比は、0-27週では 1.02(0.65-1.59)、28週-出産では 1.77(0.95-3.31)、絶対リスク差はそれぞれ 0.01(-0.31-0.50)、0.67(-0.06-2.02)であった。マクロライド系抗生物質による出生後間もない乳児の治療は、治療によるベネフィットがリスクを上回る可能性がある場合にのみ投与されるべきである。

●リスクの高い薬物療法の特長 (Eur. J. Clin. Pharmacol. 70(6)637- (2014.6))
重篤な投薬過誤(ME)を起こす薬剤を明確にすることを目的とし、PubMed, Embase, Cochrane Reviews, Psycinfo, SweMed+ の系統的検索を行った。公表された患者の訴え、患者の補償、及び報告された ME を含むデンマークのデータベースも検索した。患者に重篤な有害反応(AR)を起こした ME の情報を含んでいる場合には、論文及び症例報告も含めた。AR の重症度、因果関係、予防の可能性に関する情報を必要とした。このシステムティックレビューで、全ての重篤な ME の 47%が 7つの薬剤/薬剤クラス(methotrexate, warfarin, NSAIDs, digoxin, opioids, acetylic salicylic acid, β -blockers)によることが明らかになった。30の薬剤/薬剤クラスが全ての重篤な ME の 82%を引き起こしている。致死的なイベントに関連する上位 10個の薬剤(methotrexate, warfarin, opioids, digoxin, theophylline, 他の抗凝固薬, acetylic salicylic acid, NSAID, β -blockers, 抗生物質)が、致死的なイベントを引き起こす全薬剤の 73%を占めた。

●クロアチアの高齢外来患者における不適切な可能性のある処方 (Eur. J. Clin. Pharmacol. 70(6)737- (2014.6))
高齢者に対する不適切な可能性のある処方(PIM)の割合と、PIM における性差の有無を調査した。クロアチア Primorsko-Goranska County において 2010年に 5剤以上同時処方されていた高齢外来患者を対象に、健康保険の DB を用いて薬剤疫学研究を実施した。62.4%の患者がベネフィット/リスク比の好ましくない薬剤を 1つ以上処方されていた。特定の疾患または条件において避けるべき PIM の平均処方数は 1患者あたり 0.88であった。重篤な薬物相互作用に至る可能性のある組み合わせで最も多かったのは、ACE 阻害剤とカリウム補充製剤であった。今回の調査では処方薬の 1/10 が PIM であり、女性の方が PIM の割合が高かった。女性において PIM に関与していた薬剤としては benzodiazepines, 抗うつ剤, NSAIDs が多く、男性では相互作用を起こす可能性のある薬剤として warfarin, theophylline, 心血管系薬剤(ACE 阻害剤, amiodarone など)が多く処方されていた。

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つよう取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電話 098-963-8930

おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電話 098-963-8935

試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

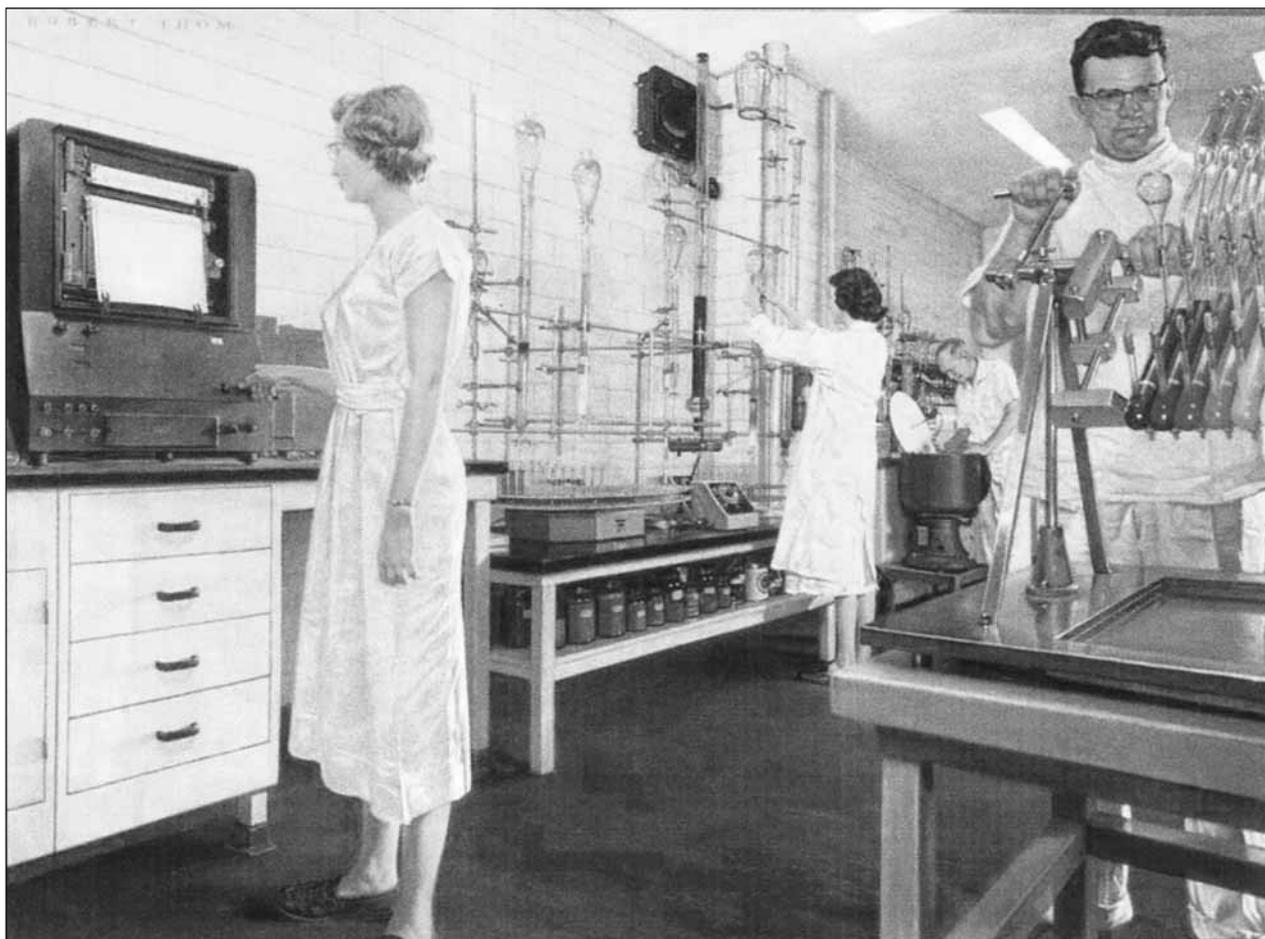
電話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>＞



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

薬学の歴史

37. 薬剤研究

薬学の発展は、時代と共に様々な研究手法も同時に進歩させました。しかし、治療に役立つ化合物の集中的な研究に対して弾みやひらめきを与えたのは、1883年の鎮痛剤の化学合成です。薬の研究は、第一次世界大戦までその分野に卓越したドイツ人によってまず始められ、その後はアメリカが最先端を進みました。薬学研究は1930年代後半から1940年代初めにかけて全盛期を迎え、それ以降は製薬会社、大学、政府の支援を得て安定的に成長しました。現代の生命を救う医薬品への終わりのなき研究には、科学のあらゆる分野の技術が使用され、また、熟練した人材が活躍しています。

37. PHARMACEUTICAL RESEARCH

Research in some form has gone hand in hand with the development of Pharmacy through the ages. However, it was the chemical synthesis of antipyrine in 1883 that gave impetus and inspiration for intensive search for therapeutically useful compounds. Begun by the Germans, who dominate the field until World War I, the lead in pharmaceutical research passed thereafter to the United States. Research in Pharmacy came into its own in the late 1930's and early 1940's; has grown steadily since, supported by pharmaceutical manufactures, universities, and government. Today it used techniques and trained personnel from every branch of science in the unending search for new life-saving and life-giving drug products.



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

薬学の歴史

38. 成熟期を迎えた製薬産業

小売薬局は別として、産業としての製薬は1600年頃に始まり、1700年代中盤に本格化しました。最初はドイツで、その後はイギリスやフランスで発展していきました。アメリカでは戦争の申し子として革命の最中に始まり、南北戦争とその後の時期に急速に成長しました。そして第一次世界大戦中にヨーロッパから独立し、第二次世界大戦を経て成熟期を迎えました。製薬会社は科学のあらゆる分野の最新技術を活用し、最新かつ最良の薬を経済的に大量に開発、生産して、医師はどこにいても薬の処方ができ、薬剤師は調剤ができるようになりました。

38. PHARMACEUTICAL MANUFACTURING COMES OF AGE

Pharmaceutical manufacturing as an industry apart from retail Pharmacy had its beginnings about 1600; really got under way in the middle 1700's. It developed first in Germany, then in England and in France. In America, it was the child of wars-born in the Revolution; grew rapidly during and following the Civil War; became independent of Europe during World War I; came of age during and following World War II. Utilizing latest technical advances from every branch of science, manufacturing Pharmacy economically develops and produces the latest and greatest in drugs in immense quantities, so that everywhere physicians may prescribe them and pharmacists dispense them for the benefit of all mankind.

第18回 暮らしの中の薬草学

身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

タチアワユキセンダングサ

- 学名 Bidens pilosa L.
var. radiata Sch. Bip.
科名 キク科
属名 センダングサ属
使用部位 葉、茎、花
有効成分 アルカロイド、カフェタンニン、
βカロテン、サポニン、
フラボノイド、ミネラル



タチアワユキセンダングサの特徴

和名タチアワユキセンダングサ（立泡雪梅檀草）は熱帯アメリカを原産地とし、台湾、中国ないし世界の熱帯亜熱帯各地に外来種として分布している。草丈約30cm～1mほど、葉は対生で羽状に分かれ、縁にぎざぎざがある3～5枚の小葉からなる。茎は四角で薄紫に着色した節がある。花はキク科特有の形で、3cmくらいの舌状花が数個、中央には黄褐色の管状花をつけた頭状花を一年中開花させる。種子は細長く先に小さなトゲがあって、これが衣服に付着する（刺さる）ので、沖縄本島ではサシグサ、宮古では方言のムツウサと呼ばれている。

周年花を咲かせ、蜜の質も良いことから、沖縄の養蜂家にとっては貴重な蜜源植物でもある。また、ヤギ、ウサギ、アヒル、ニワトリ等の“青草エサ”でもあるし、鶏に与えると黄身のきれいな卵を生むといわれる。「緑肥」にもなる。

タチアワユキセンダングサの歴史・用途

日本では1840年代に観賞用に導入され

たが、1963年に高知県で野生化が初めて確認された。現在では、九州南部、沖縄諸島、先島諸島、小笠原諸島に定着している。道端、畑、海岸など、いたるところに見られる野草で、繁殖力が強いことから駆除の対象となっている。サトウキビ畑でも強害雑草とされ積極的な除草が行われている。在来種の植物と競争する可能性があり、外来生物法によって要注意外来生物に指定されている。また、日本生態学会が選定した日本の侵略的外来種ワースト100に含まれている。

原種のコセンダングサは中国では咸豊草^{かんほうそう}と呼ばれ、同治草^{どうちそう}、鬼針草^{きんせんざんぼん}、金盞銀盤^{きんせんぎんぱん}など多くの呼び名がある。中国清朝時代1852～1861に咸豊（皆が豊かになる）、1862～1874時代に同治（相手と一緒に治める）という年号が続けて使われているから当時、咸豊草が大切にされたのではないかと思われる。

漢方で言う性味は微寒～平、甘味～苦味で無毒。昔から新芽や若葉、若い茎を生^{なま}でも食し、炒め物や、茹でて浸し物にして食用にされてきた。全草をよく洗い、小枝や葉を除いて煎じた汁は清涼飲料として親しまれてきた。この汁は大腸桿菌には作用しないのに病原性細菌には抵抗性があり、試験管内試験で黄色ブドウ球菌を抑制することが知られている。

また民間薬草として干した地上部分を煎じ、解熱・解毒・消炎・鎮痛・止瀉・利尿薬として、肝炎・腎炎・盲腸炎・糖尿病・膀胱炎・尿道炎・リウマチ性関節炎・気管支炎・腫れ物・胃腸病・下痢・消化不良などに内用した。外用では咽喉の腫れや痛み^{なま}にうがい薬として、打撲傷などに洗浄・塗布して用いられてきた。使い方は一般に生の地上部10～15gを水400mLで煎じて半量まで煮詰めて飲む。特に盲腸炎には癒着のある重症例でも、煎じ汁を飲むか、新芽をそのまま食べ、或いは60g

ほどを搗いて汁を飲む（蜜とか食塩を少々加えてもいい）と炎症も痛みも収まるという。台湾では家庭用民間薬として、野生のものを摘んで使用する人も多い。また中医（漢方医）の使う薬屋では調剤用咸豊草エキス粉末が入手できる。

参考 Wikipedia 武蔵野免疫研究所、j-tokkyo

Livedo reticularis with summer ulceration (LRSU) の夏季潰瘍に対するかんぼう茶（タチアワユキセンダングサを主成分とする）の予防効果

全身的な基礎疾患がないにも関わらず、春から夏にかけて数か月に及ぶ激痛性の潰瘍であるLRSUの夏季潰瘍に、予防対策が重要であると考え、タチアワユキセンダングサを主成分とする「かんぼう茶」を飲用観察した。5年間の調査で16例中、14例の夏季潰瘍症例に、潰瘍再燃に対して予防効果が確認できた。



タチアワユキセンダングサエキスの含有成分としてアルカロイド、タンニン、サポニン、フラボノイドなどが含まれているが、最近の分析でアセチレン系化合物、フラボノイド系化合物、カルコン系化合物、カフェオイル誘導体、リノール系化合物など30種の物質が確認されている。その後、新規物質も複数発見されている。最近の基礎研究では活性酸素消去作用、抗ガン作用、抗マラリア活性、プロスタグランジン合成阻害作用、メラニン合成阻害活性、脂質代謝亢進作用、糖代謝亢進作用などが確認されている。

参考 薬に立つ薬の情報
北里大学皮膚科 増澤幹男 等 論文

抗ウイルス作用

アシクロビルを含め、現在の抗単純ヘルペスウイルス薬はウイルスの増殖抑制薬であり、宿主からウイルスを排除することができない。また、これらの薬は長期使用で耐性株を出現させることが問題となっている。これに対し、センダングサ属植物酵素処理物は、単純ヘルペスウイルス（HSV）に直接作用して感染力を不活化するという。これには2つの作用点があり、1つは宿主細胞とHSVの結合阻

害、2つめはたとえ感染したとしても感染後の宿主細胞中でウイルスが増殖するのを阻害するという作用点である。また、抗HSV薬剤耐性株に対しても抗HSV作用を発揮することが確認された。

参考 株式会社武蔵野免疫研究所・琉球大学論文

抗酸化作用

民間療法として livedo vasculopathy（リベド血管症）の治療に用いられるようになったタチアワユキセンダングサエキスは抗酸化作用を有することが知られている。培養ヒト表皮細胞にタチアワユキセンダングサエキスを添加すると、表皮細胞質内に存在していた aryl hydrocarbon receptor (AhR)（芳香族炭化水素受容体）は核内に移動した。加えて抗酸化転写因子である nuclear factor-erythroid 2-related factor-2 (Nrf-2)（核要因、赤血球2-その他2）ならびに抗酸化酵素である NAD(P)H: quinone oxidoreductase 1 (Nqo1)（遺伝子名）の発現が亢進された。これらの現象は、タチアワユキセンダングサエキスの抗酸化機序の一端を担っていると考えられる。

参考 東京農工大学工学部 高原正和論文

抗アレルギー作用

タチアワユキセンダングサの花粉症に対するメカニズムを研究したところ、①IgE抗体の生成を抑制、②肥満細胞からのヒスタミンの遊離を抑制、③受容体へのヒスタミンの結合を抑制、の三段階でアレルギーを抑えるユニークな作用を持っていることが解明された。プラセボとの比較試験においても、高率で花粉症の症状の緩和がみられた。

参考 株式会社武蔵野免疫研究所

産業上の利用分野

タチアワユキセンダングサのアトピー性皮膚炎や花粉症、喘息、血糖値の抑制等の効果が判明。サプリメント・茶・化粧品・薬品等の開発が活発化、沖縄本島に加工所を設置する計画あり。県外大手化粧品メーカーから仕入れ増加が見込まれる。

参考：沖縄地域重要産業技術調査報告書
内閣府沖縄総合事務局経済産業部



はいさい! はい

薬局訪問
VOL. 45



ミドリ薬局 美里店 (沖縄市)

沖縄市の新興住宅地の一角に佇むミドリ薬局 美里店に取材でお邪魔する事となった。

店内に入ってまず目に飛び込んできたのは、スタッフの心地いい笑顔だ。瞬時に、接遇の教育がきちんとなされている賜物だと実感した。広い店内にはOTCや化粧品・家庭用雑貨等の様々な商品がわかりやすいように陳列されている。周りを見渡しながらかOTCフロアを抜け奥へと進むと、これまでのフロアとは趣が異なる色調の待合室があり、そこで処方箋を応需している。この解放感ある落ち着いた雰囲気待合室こそが、患者さんにとって気軽に立ち寄れる空間になっていると強く感じた。現在は、近隣の耳鼻咽喉科や内科をメインに、中部病院等の総合病院から地域の

クリニックまで、数多くの医療機関の処方箋に対応している。

開設者の玉城克治氏の話によれば、元々は別の地域で調剤薬局を開設したのが始まりで、漢方やOTC等の専門薬局を経て、平成9年から現在の薬局の形になったとのことだ。克治氏は漢方が得意分野で、鍼灸師の国家資格も取得しているなど幅広い経歴の持ち主である。哀愁漂う、見るからに温厚そうな雰囲気は、誰からも好かれる人柄がにじみ出ている。『わざわざ克治氏を指名してくる患者さんがいる!』というスタッフの言葉にも納得だ。あのハニカんだ笑顔と優しい口調につい引き込まれて、安心感が増すのであろう。



様々な商品が分かり易く陳列されている広い店内



広い店内を奥に進むと調剤室がある

た〜い！！



調剤室の奥には無菌調剤フロアが設置されていた



2年前からクリーンベンチを設置して無菌調剤に取り組んでいる武範氏

克治氏がこれまでに築いてきた強固な事業基盤の下、御息子で薬剤師の玉城武範氏がより充実した地域医療を目指すため、在宅医療にも積極的に携わっていると聞き、更なる地域貢献への意欲が伝わってきた。2年前からクリーンベンチを設置して無菌調剤に取り組む等、飛び抜けた発想とスケールの大きさには感銘を受けた。武範氏は現在、北里大学薬



開設者の玉城克治氏

学部の大学院で学位論文作成に奮闘中で、博士号修得のため日々邁進している。今後の地域医療に繋げる思いが強く感じられ、バイタリティーに富んだ行動はまさに父親譲りだ。

常勤薬剤師の齋藤育弘氏は保健師（看護師）の資格も持っており、薬剤師としての視点に加え、別な目線でも患者支援ができるという強みがある。これは、子供がいる親や高齢者からすれば有難く、とても心強いであろう。他にも社内スタッフ向けの登録販売者の資格取得を目指した勉強会の講師を務めるなど、積極的に職員の自己研鑽の場をバックアップしている。結果、登録販売者の資格を取得したスキルの高いスタッフが揃うことで、調剤フロアとOTCフロアの双方の患者に対する切れ目のない対応が以前よりも向上したという。さらに、OTCフロアではほぼ登録販売者スタッフに業務を任せて責任感を持たせることで、個々のスキルアップへの意欲向上にも繋がっている。



スタッフと記念撮影。左が齋藤育弘氏。右が玉城武範氏。

これからの時代、地域密着型の保険薬局が求められ、処方薬に加えOTCや漢方・サプリメント等の役割も重要になってくるのはほぼ間違いない。徐々に保険薬局が淘汰されその機能が見直される中、薬剤師と登録販売者スタッフが相互に共通の意志のもと尊重し合える環境は、まさに理想の保険薬局であり、今後のモデル薬局となり得るであろう。

（聞き手：広報委員会 石川 恵市）



Pharmacy in New York !



琉球大学医学部附属病院
薬剤部 鈴木 毅

2014年11月3～9日に、アメリカ New York にある MSKCC (Memorial Sloan Kettering Cancer Center) 実地研修と Chemotherapy Foundation Symposium 出席のため、渡米しました(この研修は小林がん学術振興財団に助成を受けました)。滞在中は Jet lag (時差ぼけ) に悩まされながら、多忙な日々を過ごしました。観光の時間はほとんどありませんでしたが、街中を歩いているときには Pharmacy の看板を意識していたため、New York の薬局がどのような雰囲気か、若干理解できたので執筆させて頂くことにしました。

日本では、病院等で交付を受けた処方箋を調剤薬局へ持っていき、薬剤師が調剤・監査・服薬指導を行うのが一連の流れとなっています。一方、アメリカではリフィル処方箋 (Refill prescription) が存在し、日本の院外処方箋に該当します。このリフィル処方箋は、日本と同じように医師により作成され、患者が処方箋を受け付ける薬局へ持参し、薬剤の交付を受けます。この流れについて日本と大きな差はないが、相違点としては以下のようなことが挙げられます。

① リフィル処方箋 (Refill prescription) の refill とは、直訳すれば補給や詰め替えの意です。医師が決めたリフィル回数の間は、交付を受けた処方箋で患者が医師の再診を受けることなく、繰り返し薬局で薬を受け取ることができます(日本の分割調剤とは意味が異なります)。なお、このリフィル処方箋の規定(リフィル可能な医薬品や回数等)は州ごとに異なり、基本的には麻薬は不可で抗不安薬は回数制限があるよう

です。そのため、薬剤師に薬物治療における継続的なモニタリングが任されることとなります。アメリカをはじめカナダやフランスでもこの制度が導入されています。日本でもリフィル処方箋の構想はあるようですが、具体的な導入時期等については未定です。導入されれば、フィジカルアセスメントがより重要になる可能性は高いと考えられます。

- ② 薬局薬剤師は主に処方箋の監査と服薬指導を行い、調剤はテクニシャンが行う。アメリカには薬剤師による調剤という概念がないようです。
- ③ 交付される薬剤は、ボトル出しが多い。例として円柱型のボトルにジャラジャラと錠剤やカプセルが入っており、服用時に患者がその都度キャップをあけて出す。液剤ボトル1本丸ごと交付というのも珍しくない。
- ④ 交付される薬剤の説明書は、添付文章に記載されているような内容が羅列されている(全部読むのがかなり大変)。



薬局の前での筆者



薬局の多くは、コンビニエンスストアやスーパーマーケットと一緒にいることが多い印象を受けました。アメリカではスイッチOTC薬が日本よりもはるかに多く、処方箋がなくてもPPIなどの薬剤の購入が可能です（OTC棚ではない普通の棚に陳列）。また、服用しやすいように同種同効薬で剤形も

豊富です。日本との相違については、保険制度の違いやセルフメディケーションの意識の差も関係していると考えられます。なお、私が実際に処方箋の交付を受けたわけではないので、若干の相違があるかもしれません。その点についてはご了承願います。



処方箋応需することが看板に記載されています



便秘薬の種類もかなり豊富



PPI (規格は22.3mg 28C包装で\$21.99)



マウスウォッシュではなく、解熱鎮痛配合シロップです (風邪等に使用)

次号には、古波蔵直子先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

卒煙物語 その50

何歳でも卒煙は願う

文：卒煙へようこそ担当
えんこ

時代はどんどん進んでいます。
どうしてこんな時代になったのか、
それなりの理由があります。
「卒煙」を知らないではすみません。
さあ、一緒に取り組みましょう！



季節柄、新年会が多い中、高校からのクラブ仲間先輩後輩が揃う新年会での出来事。

ある先輩が「88になる父親が、「パッチ買ってこい」と息子に頼んで又「次はあんたが買ってこい」と娘に頼んでいた」と話し始めました。自分で買ったパッチだけでは禁煙できていないので子供に購入させて再チャレンジしているのです。そこに「88になって今更禁煙させてもね、もういいんじゃない」と医療関係の仕事につく先輩が言いました。別の医療関係の先輩も「そうよね」と当然と言わんばかりに同意しました。本人の禁煙成功はまだの段階ですが、話しぶりから本人には禁煙意志がちゃんとあると私は理解しました。医療関係者の助言は影響大です。せっかくの禁煙チャレンジを逃してしまう瞬間になりそうでした。言い始めの先輩も曇った顔で親の苦勞をかわいそうだと言う始末。こんなエピソードは起こりがちで、医療関係者でも禁煙が依存症による病氣との理解をできないで助言してしまう場面は多い。

幸い私は、「禁煙外来へようこそ」という日本禁煙学会理事長・高橋裕子先生の著書を年末年始に、ゆっくり読む機会をつくることができました。そこには、こころに響く40の物語が書かれていました。どれもが、印象に残る物語で、禁煙をしようとする人への支援する医師の優しさと根氣が伝わりました。氣の長い支援

で高橋先生の苦勞が目には浮かびました。この本には、初めに出した例のようなエピソードの紹介もありました。年齢の高い人に対する支援は、周りが、喫煙を肯定してしまうことが多い中、先生は「どんな高齢者であっても禁煙すると必ずプラスになります」と断言しています。この年だから禁煙は勧めないでおこうと周囲が考えるのは、実は間違った思いこみなのです」とも断言しています。

この言葉に、私は大いに勇氣をもらいました。初心に返って、高橋先生の「禁煙すると必ずプラスになるものがある」との言葉をしっかりと心に留めておこうと決心した端からの、現実にあった早々の場面。本人のけなげな禁煙意志をたたえて、「禁煙外来は一年すれば、保険診療が可能ですよ」、「パッチの量が少ないと禁煙したくてもできないことがありますよ」と、私はその場のワイワイとした空気に調子をあわせて勢いよく助言しました。曇ったような複雑な顔になっていた先輩の顔は明るくなって「そうなんだ」と返事をくれました。健康を願う気持ちは、高齢であろうと素直に受け止めてあげなければいけないのだと確信しました。

卒煙は思い立ったが吉日、躊躇せず踏み出しましょう！

挨拶が遅れましたが、新年、明けましておめでとうございます。

卒煙者の経験談を募集しています。皆様の声が大きな励みとなることでしょう。下記までお寄せ下さい。

e-mail kouhou@okiyaku.or.jp

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10

TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932

薬事情報センター内 卒煙へようこそ担当 えんこ 行き

薬連だより

国会レポート

第三次安倍内閣スタート



文部科学副大臣・参議院議員 藤井 もとゆき

今年の元旦は、年末年始に日本列島を襲った厳しい寒気団の影響で日本海側を中心に記録的な大雪となりましたが、各地の神社仏閣には一年の安泰や繁栄を願う大勢の参拝客で賑わいを見せていました。また新春恒例の箱根大学駅伝は、往路5区の山登りで首位に立った青山学院大学が復路も制し、10時間50分を初めて切る好タイムを記録して、創部96年目で悲願の初優勝を成し遂げました。優勝争いへの興味もさることながら、母校の名誉をかけて襷を繋ぐ選手の必死な姿に感動を覚える駅伝ファンも多いのではと思います。

さて、昨年末の衆議院議員総選挙では、自民・公明の与党は三分の二を超える議席を確保することができ、引き続き安定した政権運営を進められるところとなりました。ご支援を頂いた皆様には心より御礼を申し上げます。自民党の松本先生、渡嘉敷先生、それに民主党の逢坂先生と、薬剤師候補者の三氏は揃って当選されました。改めてお祝いを申し上げます。

総選挙後初の特別国会は12月24日に召集され、第三次安倍内閣が発足しました。今回の組閣に当たっては、前回の内閣改造からあまり期間を経過していないこと、経済対策の取りまとめ、本年度補正予算や来年度予算の編成など、早急に行う必要があることから、防衛大臣を除く全閣僚が再任されることとなり、私も文部科学副大臣の職を継続することとなりました。引き続き、生命科学をはじめ

とした科学技術の振興を図るとともに、薬学教育の充実、学校薬剤師の活用などにも取り組んで参りたいと思います。

政府は12月27日、アベノミクスの成果を地方にまで広く行き渡らせ、経済の好循環を確実なものとするため、3.5兆円程度を予算規模とする緊急経済対策を取りまとめ、閣議決定しました。この経済対策には、肝炎患者に対する経口抗ウイルス薬によるインターフェロンフリー治療の医療費助成、国立医薬品食品衛生研究所での分析体制の強化など危険ドラッグ対策の推進などが盛り込まれています。また、自民・公明の与党は30日、平成27年度税制改正大綱を正式決定、法人課税を成長志向型の構造に変えるとして、法人税率の引き下げと法人事業税の外形標準課税を拡大することを明記しました。その他、試験研究に係わる税額控除制度（研究開発税制）の見直しや、医療に係わる消費税のあり方について総合的に検討することなども盛り込まれています。これらの内容を受け政府は、平成26年度補正予算案及び平成27年度予算案を決定し、1月下旬に開会予定の通常国会へ提案することとなります。

ところで、昨年12月3日に打ち上げられた「はやぶさII」、予定の軌道を順調に飛行しており、東京オリンピックの開催される2020年に帰還する予定となっています。貴重な宇宙の試料を無事持ち帰るものと期待しています。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>

日薬通達

平成27年2月 薬剤師賠償責任保険募集のご案内

(大幅に改定しました)

1. 保険料 (薬剤師賠償責任保険及び個人情報漏えい保険料の大幅改定)

(1) 改定概要

- ・保険料改定 (保険料区分改定)
- ・保険満期日統一 (個人情報漏えい保険・薬剤師賠償責任保険の特約化)
(既存個人情報漏えい保険・加入者対応)
- ・口座振替導入

(2) 制度改定詳細

① 保険料改定 (保険料区分改定)

・薬剤師賠償責任保険 **基本プラン** 年間保険料

現行	
薬剤師契約	1,950円
薬局契約・従業員数1名	3,600円
・従業員数2名	3,750円
・従業員数3名	3,900円
・従業員数4名	4,050円
・従業員数5名	4,200円

改定後	
薬剤師契約	変更なし
薬局契約・従業員数関係なく	<u>3,600円</u>

・薬剤師賠償責任保険 **充実プラン** 年間保険料

現行	
薬剤師契約	2,850円
薬局契約・従業員数1名	4,500円
・従業員数2名	4,650円
・従業員数3名	4,800円
・従業員数4名	4,950円
・従業員数5名	5,100円

改定後	
薬剤師契約	変更なし
薬局契約・従業員数関係なく	<u>4,500円</u>

・個人情報漏えい保険 年間保険料 (円)

年間売上高/保険金額	現行										
	～1.5億円	～2億円	～3億円	～4億円	～5億円	～6億円	～7億円	～8億円	～9億円	～10億円	10億超
A型 1,000万円	13,200										
B型 3,000万円	20,400	24,000	31,200	38,400	45,000	48,000	51,600	55,200	60,000	64,800	
C型 5,000万円	25,200	40,800	51,600	61,200	70,800	75,600	81,600	88,800	93,600	98,400	
D型 1億円	31,200	54,000	66,000	82,800	99,600	115,200	124,800	134,400	144,000	153,600	163,200

改定後	
加入型 (案)	新保険料 (円)
保険金額1,000万円	<u>12,000</u>
保険金額 1億円	<u>24,000</u>

(3) 平成27年2月15日 満期日統一 (個人情報漏えい保険特約化)

個人情報漏えい保険の満期日を2月15日に統一し、賠償責任保険と一緒に保険料徴収することになります。

2. 新契約プラン (上記、『保険料改定』および『満期日統一』を反映)

◆ 薬剤師向け (変更なし)

新プラン名	薬賠加入型 (案)	薬賠新保険料 (円)
薬剤師A	基本・薬剤師	1,950
薬剤師B	充実・薬剤師	2,850

◆ 薬局向け (改定後)

新プラン名	薬賠加入型 (案)	個情加入型 (※注)	新保険料 (円)
薬局A (薬局契約のみ, 基本)	基本・薬局 (保険金額1.5億円)		3,600
薬局B (薬局契約・個情A)		旧A型 (保険金額1,000万円)	15,600
薬局C (薬局契約・個情D)		旧D型 (保険金額 1億円)	27,600
薬局D (薬局契約のみ, 充実)	充実・薬局 (保険金額2億円)		4,500
薬局E (薬局契約・個情A)		旧A型 (保険金額1,000万円)	16,500
薬局F (薬局契約・個情D)		旧D型 (保険金額 1億円)	28,500
(薬局G) (個情Aのみ)		旧A型 (保険金額1,000万円)	12,000
(薬局H) (個情Dのみ)		旧D型 (保険金額 1億円)	24,000

※注 個人情報漏えい保険 特約付帯は会員の選択性とする

※注 昨年9月に個人情報漏えい保険の保険料をお振込みいただいた会員の皆様には、2月に併せるための中途解約か、本年9月に9月から翌年2月までの中途保険料を納めるか、どちらかを選択していただきます。

3. 補償内容

変更なし

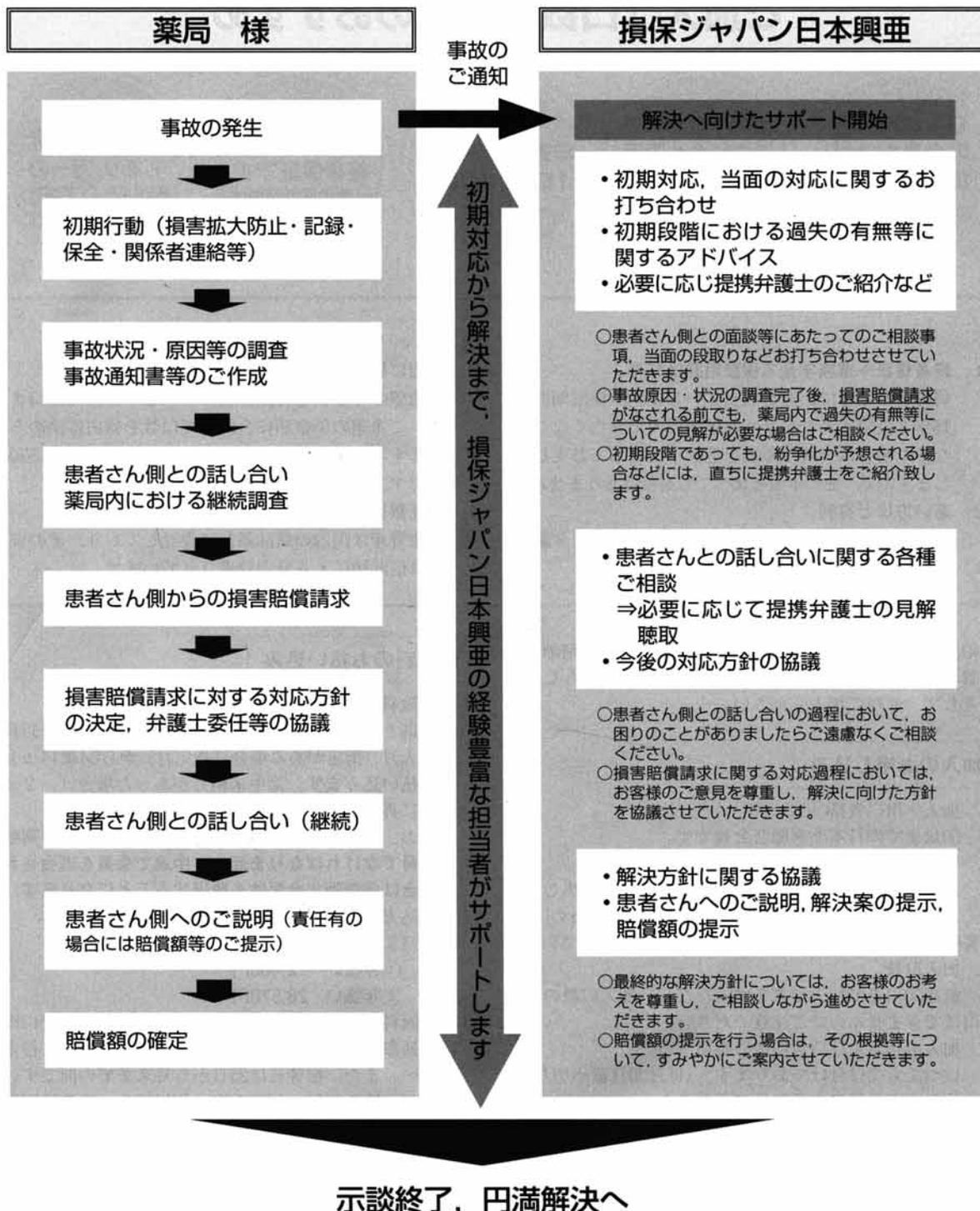
4. 払込方法

下記の3種類になります。

- ① 郵便局振込
- ② インターネット振込
- ③ 銀行自動引落 (新規)
(新たに銀行自動引落しを開始。)

5. 事故解決までの流れとご対応例

事故が発生しましたら、すみやかに損保ジャパン日本興亜へご通知をお願いします。
直ちに経験豊富な専任担当者が、円満解決に向けた事故解決のための対応を開始いたします。



<本件に関するお問い合わせ先>
公益社団法人 日本薬剤師会 総務部 会計・厚生課 03-3353-1190
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
医療・福祉開発部 第一課 03-3593-6435

「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は
損保ジャパンと日本興亜損保が
2014年9月1日に合併して誕生した会社です。

※薬剤師賠償責任保険加入申込書類が届かない、もしくは新規加入希望の方は、
沖縄県薬剤師事務局（TEL 098-963-8930）までご一報下さい。

日薬通達

平成26年度診療報酬改定に関する疑義解釈について、下記のとおり、追加の疑義解釈（その11）が示されました。会員への周知をお願いする旨の通達となっております。

なお、同資料につきましては、厚生労働省のホームページからも入手できることを申し添えます。

平成26年度診療報酬改定等について（厚生労働省ホームページ）

厚生労働省トップページ > 政策について > 分野別の政策一覧 > 健康・医療 > 医療保険 >

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000032996.html>

疑義解釈（その11）

調剤報酬点数表関係

【一包化加算】

（問）処方された薬剤を一包化する際に、吸湿性が強い等の理由で直接の被包（PTPシート）から取り出すことができない薬剤をPTPシートで交付するなど一包化とは別にした場合であっても、その薬剤を除いて一包化した部分が算定要件を満たしていれば一包化加算を算定できるか。

（答）算定して差し支えない。

この場合、一包化をしなかった薬剤及びその理由を調剤録等に記録しておくことが望ましい。

（問）一包化加算の算定に当たっては、同一銘柄の同一剤形で規格のみが異なる薬剤が同時に調剤された場合（例えば0.5mg錠と1mg錠）は1種類として取り扱うことでよいか。

（答）貴見のとおり。

お知らせ

<県薬が会員に販売している印刷物等>

○国保総括票	25枚	1冊	100円	○お薬手帳カバー	1枚	22円
○市町村別請求書（その1）	50枚	1冊	160円	○薬歴カード	各1枚	5円
○市町村別請求書（その2）	1枚		10円			
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円			
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円			
○処方せん	100枚	1冊	160円			

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色（薄青色）14ページ 価格 税抜き12円

【現行リニューアル版】表紙色（薄黄色）34ページ 価格 税抜き22円

国保・社保通達

沖縄県国民健康保険団体連合会ならびに社会保険診療報酬支払基金沖縄支部より、平成27年度診療（調剤）報酬請求等の受付日等について、下記のとおり設定した旨のお知らせがありました。

平成27年度 受付相談・協力日及び受付締切日

沖縄県国民健康保険団体連合会
社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

提出月	受付相談・協力日	受付締切日	備考
平成27年 4月	9日(木)	10日(金)	
5月	8日(金)	10日(日・開所)	9日(日) 閉所
6月	9日(火)	10日(水)	
7月	9日(木)	10日(金)	
8月	7日(金)	10日(月)	8日(土) 閉所 9日(日) 閉所
9月	9日(水)	10日(木)	
10月	9日(金)	10日(土・開所)	
11月	9日(月)	10日(火)	
12月	9日(水)	10日(木)	
平成28年 1月	8日(金)	10日(日・開所)	9日(土) 閉所
2月	9日(火)	10日(水)	
3月	9日(水)	10日(木)	

- ※ 受付業務は、午前9時～午後5時（沖縄県国民健康保険団体連合会）
午前8時30分～午後5時30分（社会保険診療報酬支払基金沖縄支部）
- ※ 請求書等の提出については、請求省令により「診療翌月の10日まで」と定められていますのでご留意願います。

【問い合わせ先】 沖縄県国民健康保険団体連合会 TEL 098-863-2473
社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 TEL 098-836-0131

転載記事

平成26年12月11日(木) 沖縄タイムス

薬の正しい使い方学ぶ 津堅中で薬剤師講演

【津堅11うるま】津堅中学校(連天克子校長)は11月6日、薬剤師を招いて特別講演会「薬の正しい使い方」を開いた。写真。

生徒たちは、薬の作用・副作用、相互作用(飲み合わせ)、お薬手帳の利用法、薬の情報の調べ方、6月に施行された改正薬事法など最新の情報も学んだ。

同校では、保健体育教諭と養護教諭、学校薬剤師らが協力して、日ごろから積極的にくすり教育を行っている。また、いわゆる「脱法ドラッグ」を「危険ドラッグ」と呼び方を交えたときにも特別講演を行つた。薬物乱用防止教育にも力を入れている。



学校薬剤師の柴田忠佳氏の講演が紹介されていました。

平成26年12月29日(月) 沖縄タイムス

二三会

わったん どうぶつ仲間たち ▶34

海外旅行で見聞を広める

首里高同期の絆は40年たっても変わらない



首里高23期卒のメンバー14人が集い、もうすぐ40年。毎月1回開催はバレットくもじにある同期の店でも、ま話に花が咲く。

メンバーは会社経営者、医師、薬剤師、設計士、銀行員、公務員など現役組を含めて多士落々だ。高校時代の理科クラスの有志でスタートした。

代表の又吉寛元さん(65)にまると、30、40代のころはやるまでが松伝大会や那覇ハリーに出場するまで、家族ぐるみで交流を深めたが、今は足腰ついていかないからねと笑う。

最近海外旅行が楽しみだ。これまで台湾やカンボジアなど東南アジアを中心に掛け、都市部の発展ぶりを肌で感じたという。メンバーは、年を重ねても見聞を広める意欲に満ちている。

メンバー
新崎盛雄、石川清勇、稲福政賢、上原堅雄、嘉数眞治、龜谷浩昌、城間謙、田崎力、仲田朝昭、長瀬将邦、中山正巳、鉢嶺元、又吉寛元(敬称略)

伝言板
11月にはフィリピン旅行を楽しみました。来年は中国に行きたいですね。

社会人のスポーツや文化サークル、模合などの仲間たちの情報をお寄せください。nakama@okinawatimes.co.jp ファクスは098(860)3486、編集局社会部まで。

本会会員の亀谷浩昌氏が所属する模合「二三会」が紹介されていました。

※会員が紹介されている記事等があれば事務局の大城までご一報下さい！

平成26年度 第6回定例理事会 議事概要

日時：平成26年9月13日(土) 19:00～20:45

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副 会 長：松山朝雄、吉田洋史

理 事：江夏京子、亀谷浩昌、山里 勇、前濱朋子、玉城 純、姫野耕一、
新垣秀幸、下地仁、幸地良信、村田美智子、外間惟夫、川上善久、
我喜屋美香、笠原大吾、石川恵市

監 事：大城桂子

事 務 局：山城英人、大城喜仁

議題

(1) 日本薬剤師会委員会委員及び職域部会幹事の委嘱について

<資料配布>

日本薬剤師会より、標記について通達があった。委員会及び職域部会の編成にあたり、平成26年10月1日から平成28年6月定時総会終了時の委員及び職域部会幹事等を次の会員に委嘱をしたい旨の内容となっている。国際委員会に宮城敦子氏、災害対策委員会に吉田洋史氏、農林水産薬事薬剤師部会幹事に我喜屋啓氏の以上3氏の候補案が挙げられ、異議無く承認された。

(2) 沖縄県医療保健連合（なごみ会）幹事会へ提案議題について

<資料配布>

沖縄県医師会より、標記について通達があった。当会からは、例年開催のなごみ会主催県民健康フェアの開催会場を沖縄県立武道館にしてはどうかとの提案をしようと思っている。これまで沖縄コンベンションセンター展示棟で開催されてきたが、バス利用者等には不便であると思われる。沖縄県立武道館の近くにはバスターミナルがあり、近隣にもバス停留所が多くある。また、モノレール駅もあり、参加者が増えると考えられる。

他に提案も無く、以上の提案をすることになった。

(3) 11月理事会（北部地区開催）について

【日時：平成26年11月8日(土) 19:00～ 会場：ホテル ゆがふいん おきなわ】

11月の定例理事会開催を、北部地区にて標記の会期、会場で行いたい。北部地区会員との交流も考慮し、理事会ではオブザーバーで参加できること、理事会終了後の懇親会も設けていることが話され、提案とおりに開催することに決定した。

(4) 『薬と健康の週間』地元紙「論壇コーナー」への執筆者&執筆内容について <資料配布>

大城係長が、次のとおり述べた。毎年、薬と健康の週間（10月17日～23日）中に地元紙の論壇コーナーへ、県民に向けて薬と健康に関する啓蒙の投稿を行っている。配布の資料には過年度の執筆者と投稿内容を記載しているが、これを参照に今年度の執筆内容と執筆者を決めていただきたい。執筆内容を、①「新たな医薬品販売における注意事項・要指導医薬品等の取扱いについて」、②「危険ドラッグについて」、③「お薬手帳について」を提案する。

神村会長より、執筆者については執筆したことのない理事にした方が良いとの発言があり、②を石川理事、③を吉田副会長が執筆することになった。

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等（8月分）及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>
- (2) なごみ会県民健康フェア 8月17日（日）沖縄コンベンションセンター <資料配布>
笠原理事より、次のとおり報告された。フェア当日は悪天候で参加者は少なかったが、医師会からの報告によると1,000余名が訪れたとのこと。薬剤師ブースは例年のごとく人気が高く、特に動脈硬化測定器に集中し、測定の所要時間もかかることから混雑となった。もう1台購入を希望する。
- (3) BLS講習会打合せ 8月26日（火）県薬
- (4) BLS（一次救命処置）講習会〔参加者15名〕
8月31日（日）おきなわクリニカルシミュレーションセンター
- (5) BLS（一次救命処置）講習会〔参加者20名〕
9月7日（日）おきなわクリニカルシミュレーションセンター
- (6) 沖縄県健康長寿課より来訪（健康長寿おきなわ復活県民会議） 8月18日（月）県薬
- (7) 健康長寿おきなわ復活県民会議幹事会 8月22日（金）県庁 <資料配布>
同幹事会に出席した田場専務理事は欠席のため、配布の報告書が提示されていた。主な会議事項は、健康長寿おきなわ復活プロジェクトについてで、県民がより主体的に健康づくりに取り組めるためのロードマップを作成し、2040年までに平均寿命都道府県順位1位奪回を目標としているという内容である。目標を達成するための対策案と、優先的に取り組んだ方がよい項目について議論されたと報告書にはある。
- (8) 公正取引協議会沖縄県地区会より来局 9月4日（木）県薬 <資料配布>
吉田副会長より、次のとおり報告された。日本医薬品卸売業連合会が通達した消費税表示カルテルの実施についての説明のため、同連合会公正取引協議会沖縄県地区会が来局された。消費税率が引き上げられ、消費税の円滑かつ適正な転嫁を図るため、10月1日から表示カルテルを実施する。同カルテルは、価格交渉を行う際の価格提示に関するもので、①保険薬局と医療用医薬品の価格交渉を行う際、税抜価格を提示することと、②税抜価格は、薬価から薬価に加算されている消費税相当額を控除した額との乖離率を明らかにした価格とするという内容となっている。今年4月からの診療報酬改定で新たに未妥結減算の仕組みが導入され、妥結率に係る報告書を地方厚生局に提出しなければならないことになった。同報告書には、薬局において購入された薬価基準に記載されている薬価総額、卸売販売業者との間での取引価格が定められた薬価基準に記載されている薬価総額、それによる妥結率を記入することになっている。薬価本体価格を基準として価格交渉を行うことが価値に見合った市場価格の形成を図る上で望ましいことから、今回の表示カルテルの趣旨をご理解いただきたいということであった。
- (9) 第2回健康長寿おきなわ復活県民会議 9月8日（月）県庁 <資料配布>
関連報告事項(6)(7)と同時に報告。
- (10) 平成26年度第2回薬剤師学術研修委員会 8月19日（火）県薬 <資料配布>
外間理事より、次のとおり報告された。
去る7月6日に開催された平成26年度新任・新人薬剤師研修会は、参加者が、薬局27名、病薬20名、薬学生22名、卸1名、その他2名の計72名と多くの参加があった。主講義「実務に生かせる情報検索」「薬歴の書き方について」「フィジカルアセスメントについて」の3講義の若手講師は、近年開催の同研修会において講演の内容、資料、発表すべてに最高の評価であった。委員から大変素晴らしかったとの声が多かった。青年部会紹介においては、部会紹介の他に、県下の薬剤師不足について話があり、同研修会に参加された実務実

習薬学生に向けて、沖縄県も多くの良い就職先があることが述べられ、Uターン啓発をされた。また、同研修会前には、隣の県立南部医療センターこども医療センターにて施設見学が行われ、20名の参加があり、同センターの長田薬局長と照喜名副薬局長に案内と説明をしていただいた。

第28回沖縄県薬剤師会学術大会については、大会テーマを「今こそ活かそう薬剤師の力～地域医療の担い手として～」とすることになった。ランチョンセミナーは、ヤンセンファーマ(株)に決定しており、同社の講師案として、琉球大学医学部附属病院第一内科の前城達次先生が提示され、当委員会において同講師とすることに決定した。特別講演は、講師案として3氏が挙げられており、①大橋靖雄氏(前東京大学教授。疫学・生物統計学の第一人者)、②長尾能雅氏(名古屋大学病院 医療の質・安全管理部)、③名倉弘哲氏(岡山大学大学院准教授:日本で初めての救急薬学分野の教育者、研究者)の順で交渉する。講師依頼の交渉担当は事務局の大城係長とする。

- (11) 会計監査 8月20日(水) 県薬
- (12) 健康づくり推進協議会 8月20日(水) 全国健康保険協会沖縄支部
我喜屋理事より、次のとおり報告された。同協議会の委員に薬剤師会代表として再任した。委員は他に、医師会、学識経験者、行政、栄養士会、一般事業主の代表から構成されている。同協議会は年2回開催され、今年度第1回の会議であった。議題として、特定健診受診率の向上、特定保健指導実施率の向上、おきなわ診療ネットワークなどが話された。妊婦の食習慣栄養調査が新事業として取り上げられていた。
- (13) 豊見城薬局との連絡会議 8月29日(金) 会営薬局とよみ
山城課長が、会営薬局とよみの現況報告等などで、隣の豊見城薬局との連絡会議を定期的に行っていると述べられた。
- (14) 薬学生オリエンテーション 9月1日(月) 県薬 <資料配布>
我喜屋理事より、今年度2期の薬局実務実習薬学生と指導薬剤師のためのオリエンテーションを開催したことが述べられた。
- (15) 平成26年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議伝達講習会(指導薬剤師対象) 9月6日(土) 県薬
我喜屋理事より、次のとおり報告された。標記の講習会がDVD放映にて当会館で行われた。放映内容は、次年度から薬学教育モデルカリキュラムが改定されることにより、改定の経緯とカリキュラムの内容に関する解説である。
- (16) 平成26年(調)第1号事件にかかる現地調査(公害審査会) 9月10日(水) 南城市玉城 <資料配布>
我喜屋理事より、次のとおり報告された。沖縄県公害審査会の調停員になっている。南城市玉城の工事現場と鶏園の2ヵ所に騒音計を持って調停のための現地調査に出席した。
- (17) 平成26年度第1回医薬品事故・過誤対策委員会 8月20日(水) 県薬 <資料配布>
亀谷常務理事より、次のとおり報告された。
主に今年度の医療安全講習会について話し合わせ、開催日を平成27年2月1日(日)に決定し、講師については、次の順番で4氏へ講演を依頼する。交渉は事務局の大城係長が担当する。①鮎沢純子氏(九州大学准教授。薬剤師。東京海上火災保険で勤務経験あり。講演実績も多い)、②島田光明氏(群馬県薬剤師会副会長。日薬の「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」を作成した方)、③中島和江氏(大阪大学医学部付属病院の薬剤師であり医師。講演実績が多い) ④成重賢司氏(日薬理事。

「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」を作成した方)。

また、「薬局・薬剤師のための調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」の沖縄県版を完成させるため、亀谷、田場、中尾の3委員でマニュアルの最終案を作成し、委員全員にメール送信、確認し、完成後は県薬のホームページ等で会員に周知することとなった。

- (18) 個別指導(2薬局) 8月21・28日(木) 那覇第一地方合同庁舎
 (19) 会報取材 8月21・24・28日(木・日・木)
 北部病院・すこやか薬局伊平店・ミドリ薬局美里店

宮城常務理事より、沖縄県立北部病院を砂川智子委員、すこやか薬局伊平店を鈴木一徳委員、ミドリ薬局美里店を石川恵市委員が取材した旨の報告があった。

- (20) 沖縄県自然環境保全審議会 9月3日(水) 県庁 <資料配布>
 同審議会のメンバーになっている宮城常務理事より、沖縄県指定の屋嘉比島鳥獣保護区特別保護地区の再指定に係る諮問について、再指定に係る経緯と今後の日程について話し合われた旨の報告がなされた。

- (21) くすりと健康フェアPR活動(那覇市自治会) 9月3日(水) 那覇市保健所・真和志支所

- (22) くすりと健康フェアPR活動(那覇市自治会) 9月5日(金) 首里・小禄支所

- (23) くすりと健康フェアPR活動(那覇市自治会) 9月11日(木) なは商人塾 <資料配布>

報告事項(21)(22)(23)について、宮城常務理事より次のとおり報告された。薬と健康の週間中に開催される「くすりと健康フェア」のPR活動として、那覇市自治会長5管内の会議に例年とおりに広報委員が出向いた。本庁管内を石川委員、真和志管内を前濱委員、市営住宅管内と首里管内を亀谷委員、小禄管内を事務局の大城係長がPRポスターとチラシの配布も兼ねて広報した。

- (24) 平成26年度医薬分業対策会議 8月24日(日) 県薬 <資料配布>
 江夏常務理事より、次のとおり報告された。

県内広域病院薬局長と地区薬剤師会役員を招いて、同会議を開催した。今年度のテーマは昨今の医薬分業バッシングを受けて、「医薬分業の質の向上に向けて～患者目線で見えた医薬分業とは～」というテーマで、「原点」に立ち返り分業当初と現在を比較しながら医薬分業のあり方について話し合った。

7月から一般名処方箋に切り替えた中頭病院の長濱照美薬剤科長から、中頭病院では調剤薬局から「ジェネリック医薬品がらみの疑義照会」が多数あり、医師の業務に支障をきたしていたという背景があった。その後、一般名処方に切り替える方向ですすめていくが、慣れない一般名の医薬品名に処方医をはじめナースが混乱しないように、薬剤科を中心に説明を行い続けた結果、大きな混乱なく切り替えることができたとのこと。国がジェネリック医薬品を推進していく方向性のなかで、一般名処方箋に切り替える病院も増えてくるとわれ、身近な話題に大変興味深い話しであった。

また、「医薬分業」についてのアンケート結果について報告があり、アンケートには広域病院をはじめ、150件の調剤薬局から回答を得ることができた。結果、医薬分業の評価は広域病院ではほぼ100%、調剤薬局でも約95%が「よいと思う」との回答であった。病院としてのメリットは、外来窓口の混雑の解消、医薬品スペースの縮小、入院患者に服薬指導するなど病棟業務に専念できるようになったことなど。患者目線のメリットとして、薬の内容に対する説明を十分に受けることができるようになり、重複や飲み合わせなどを含め薬

局でのダブルチェックで薬物治療の安全性が高まったことなど。デメリットとしては、医療機関から移動しないといけないうえに、薬局に行っても在庫がない場合がある、支払いも二重になって割高になるなど意見をいただいた。また、病院側からは外来患者との接点が少なくなったとの意見もあった。

その後、1時間半ほど時間をかけて「医薬分業の質の向上にむけて～患者目線で見えた医薬分業とは～」をテーマにアンケート結果などを踏まえて、ディスカッションを行った。「医薬分業当初、調剤薬局は横並びに必死に薬業連携の道を探り、勉強会など試行錯誤しながらも情報共有していた。それが、最近は調剤薬局間での勉強会等への参加率の差が、力量の差を生み、また調剤機器整備の差なども出てきているように感じる」という意見があった。他にも活発な意見が多く出て、有意義な会議であった。

- (25) 平成26年度「健康づくり支援事業」第1回推進委員会 <資料配布>
8月26日(火) 沖縄県総合福祉センター

吉田久子氏が出席した。

- (26) 保険薬局部会研修会 8月28日(木) 県薬
(27) 平成26年度第1回沖縄県自殺対策連絡協議会 8月29日(金) 県庁 <資料配布>

村田理事より、次のとおり報告された。県内の自殺の現状、自殺対策の実施状況、本年度の自殺対策について話し合われた。県内の自殺の状況は、平成25年に15年ぶりに300人を下回った。全国の自殺者数も減ってきており、自殺対策を推し進めるための社会的基盤が整ってきているとのこと。しかしながら、まだ多くの方が自殺で亡くなっており、引き続き関係団体で連携し自殺対策に取り組んでいくことになっている。

- (28) 平成26年度自殺予防キャンペーンの企画コンペに係る審査委員会 9月4日(木) 県庁
村田理事が出席した。

- (29) 平成26年度第1回地区薬剤師会会長会議 8月30日(土) 県薬 <資料配布>

吉田副会長より、次のとおり報告された。①「薬と健康の週間」中の各事業の日程が決定し、多くの方が参加できるよう呼びかけてほしい。②10月26日開催の第28回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集がされている。各地区から積極的に演題を出してほしい。③那覇地区から支部活動費を増額してほしいとの意見があった。④総会での各地区代表質問の質疑応答時間を現在の7分という時間配分が短いとの意見があった。

- (30) 表彰選考諮問委員会 9月2日(火) 県薬 <資料配布>

同委員会の大城桂子監事より、次のとおり報告された。今年度の県薬会長表彰に9氏の被推薦者が挙がってきており、5氏を選出するに時間を要した。前原信照氏、村田美智子氏、平良由紀子氏、狩俣イソ氏、我喜屋美香氏が選ばれた。

他の4氏が選出されなかった理由を求める意見があり、大城監事が選出理由について、会員歴、役員歴、当会への功績を鑑みたこと、何よりも先輩(年齢)を優先にしてほしいと述べられた。

- (31) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会
9月10日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

- (32) 神殿及び関連装飾品等の寄付願いについて <資料配布>

当会独自で企画し、製作を進めてきた神殿(神棚設置台)が完成し、閲覧室に設置された。閲覧室は主に講師控室として利用されてきたが、予てより教材、資材を設置する場所として考慮してきており、神殿を設置したことを機に、今後は「薬の資料室」として、薬や薬学に関する資材、歴史資料なども保管、展示していく予定。神殿の完成を前に既に御芳志された

会員や関係団体もおり、理事各位からも積極的な寄附をお願いする。また、会報誌をとおして会員にも広く呼びかけることになった。

(33) 沖縄県商工労働部雇用政策課（グッジョブ事業局）来訪

9月11日（木）県薬 <資料配布>

当会無料職業紹介所責任者の大城係長がグッジョブリーダーとなっていることから、今年度の「未来の産業人材育成事業」の取り組み、企画について、沖縄県商工労働部雇用政策課が来訪し、話し合いがもたれた。近年、小・中学生から薬剤師が非常に人気の高い職業であることをうけ、今年度始めに豊見城中学校にて大城恭子氏を講師に迎え講話をしていただいた。それが非常に良かったことから、さらに発展的な事業展開をしていきたいとのことであった、と大城係長が報告した。

(34) 「沖縄県国民保護計画（平成26年2月）」の変更について

<資料配布>

田場専務理事より、次のとおり報告された。沖縄県知事名で沖縄県国民保護計画の変更について照会を求める文書が届いた。同計画はこれまでも幾度か変更を経てきたが、国の「国民の保護に関する基本方針」の変更等に伴い、沖縄県も同計画の変更作業を行っている。同計画の変更事項の新旧対照表を確認し意見等があったら回答することになっている。変更事項の殆どが管轄部署の変更であった。本会としては、特に意見等はないと回答した。

(35) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

<資料配布>

山城課長より、次のとおり報告された。現在の状況は、産休明けの職員が戻り正職員4名と協力薬剤師でのシフトとなっている。来春卒業予定の福岡の薬学生在が会営薬局とよみを就職希望とのことで先月末に面接を兼ねて薬局見学をした。大変素晴らしい人柄であった。引き続き、薬剤師確保に理事方々のご協力をいただきたい。

(36) その他

下地理事より、次のとおり報告された。宮古地区が処方箋FAX送信システムを購入し、8月から沖縄県立宮古病院のFAXコーナーに導入、運用を開始したことが宮古地元紙に掲載された。FAXコーナー職員の作業も大幅に軽減した。同システムは今年6月から那覇地区薬剤師会を通して沖縄赤十字病院に導入したものを応用して宮古版に開発し導入した。

(薬連)

(1) 「沖縄21世紀ビジョンを実現する県民の会」設立総会及び事務所開き

8月28日（木）「沖縄21世紀ビジョンを実現する県民の会」事務所幹事長の吉田久子氏と事務局の山城課長が参加した。

(2) 沖縄県薬剤師連盟総務会

9月8日（月）県薬 <資料配布>

同連盟の副幹事長である姫野理事より、次のとおり報告された。

- ① 当連盟の組織強化について、担当総務を設置することになり、田場英治常任総務が担当することになった。
- ② 第二次安部改造内閣について、当連盟に関係が深く、役職に就いた次の議員へ祝電を送信した。復興大臣の竹下亘氏、総務副大臣の西銘恒三郎氏、文部科学副大臣の藤井基之氏。
- ③ 来る11月16日の沖縄県知事選挙の沖縄県薬剤師連盟組織推薦候補者を仲井眞弘多氏とすることで決定した。県医師会、県歯科医師会をはじめ各医療団体が現職の仲井眞氏を推薦することから、今後も継続する医療連携を考慮すると当会も推薦せざるを得ない状況。但し、今回の選挙は普天間基地の辺野古移設が争点となっていることから、県民の世論を反映し慎重に対応する。

平成26年度 第7回定例理事会 議事概要

日時：平成26年10月18日(土) 19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副 会 長：松山朝雄、吉田洋史

理 事：田場英治、江夏京子、山里勇、亀谷浩昌、宮城敦子、前濱朋子、玉城純、新垣秀幸、
下地仁、幸地良信、村田美智子、笠原大吾、我喜屋美香、川上善久

事 務 局：山城英人、前原里江

<欠席者>

理 事：外間惟夫、姫野耕一、石川恵市

議題

(1) 支部活動費の公益事業から法人会計への移行について

山城課長より、次のとおり説明された。当会が一般社団法人への移行の際に地区薬剤師会への支部活動費の使途は公益事業として提出していることで、各地区薬剤師会からは、地区活動が制限され支障が出ているとの意見があり、各地区薬剤師会会長会議でのご意見を踏まえ、公益事業推進委員会での協議したところ、支部活動費を公益事業から法人会計へ移行し、支部活動を優先すること。また仲程税理士からも本件については問題ないことを確認した。

満場一致で承認された。

県薬は、各地区薬剤師会の事業内容の確認・把握する必要があることからこれまで通り総会資料を県薬に提出していただくことがお願いされた。

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等(9月分)及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>

(2) 調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル作成会議

9月16日(火) 県薬

亀谷常務理事より、次のとおり報告された。日薬の「調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアル」をベースに、県薬でも独自のマニュアルが必要であるとの意見があり作成した。発行の了解をいただきたい。

了解された。

(3) 沖縄県立病院事業局人事課より来訪

9月17日(水) 県薬

田場専務理事より、次のとおり報告された。沖縄県立病院事業局から沖縄県立病院の薬剤師の確保について、薬剤師不足の状況と募集方法のヒアリングがあった。

(4) 薬と健康の週間打ち合わせ

9月19日(金) 県庁

(5) 第57回沖縄県社会福祉大会

10月16日(木) 沖縄コンベンションセンター

笠原理事より、次のとおり報告された。コンベンションセンターの劇場棟とアリーナで開催された社会福祉大会に参加した。各社会福祉協議会よりバスがチャーターされ各地からの多くの参加があり、前半は表彰式典で後半は記念講演会であった。

- (6) **保険薬局部会研修会** 9月17日(水) 県薬
川上理事より、次のとおり報告された。石川県薬剤師会常務理事の橋本昌子先生を招いて「薬剤師の在宅医療をすすめるにあたっての課題」と題して講演頂いた。その後参加者によりKJ法によるグループワークが行われた。
- (7) **個別指導(2薬局)** 9月18・25日(木)・10月9日(木) 那覇第一地方合同庁舎
- (8) **なごみ会主催県民健康フェア反省会** 9月18日(木) 沖縄県医師会
笠原理事より、次のとおり報告された。8月開催のなごみ会県民健康フェアに関する反省会が開催された。全体経費にかかる各団体の負担金について協議された。当会は、負担金プラス会場ブース代として20万円程であった。これには例年沖縄県保健医療福祉事業団からの助成金が充てられているため安く済んでいる。
- (9) **実務実習(学薬)** 9月26日(金) 県薬
笠原理事より、次のとおり報告された。今期の薬学生実務実習生に対する学薬の集合研修の開催があった。
- (10) **平成26年度第1回スポーツファーマシスト委員会** 9月29日(月) 県薬
笠原理事より、次のとおり報告された。今回の委員会は、伊藤委員長が東京在とのことで、県薬で初めてとなるインターネット(スカイプ)を利用した委員会となった。パソコン画面からの映像、音声共に鮮明であった。内容については、国体対策、ドーピングホットラインの運営について、もう一つは以前より状況報告してきた沖縄県体育協会のスポーツ医科学委員会、ファーマシスト部会の運営について、現在、その部会には、笠原大吾、吉田典子の2名が就任している。6万円の予算がついており、用途として外部研修会等への参加となっている。知識向上のために積極的に参加していきたい。
- (11) **在宅小委員会** 10月7日(火) 県薬
笠原理事より、次のとおり報告された。BLS講習会を未受講者対象に8月と9月に開催した。次回は受講経験者を対象に2月と3月に予定している。また宮古、八重山での講習会も計画している。第2回無菌調剤室共同利用説明会を開催し、受講者は17名。前回は14名であった。12月21日に開催予定である在宅医療研修会では、医療材料を扱うニプロに講演依頼をしている。在宅のマニュアル作成については、役割分担して作業継続中であり、12月にはマニュアルを完成させて、今年度中に会員へ配布予定である。11月1日(土)、11月2日(日)に開催される第12回HIP研究会フォーラム in 沖縄への参加要請があった。
- (12) **沖縄県在宅医療連携体制推進委員会** 10月16日(木) ロワジールホテル&スパタワー那覇
笠原理事より、次のとおり報告された。今回2回目の開催となり、多職種連携を図るための研修システム作りおよび津梁ネットワークシステム(他職種間の患者情報共有システム)についての説明があった。また、11月8日に琉大にて地域包括ケアシステム研修会を開催する。大分県で先進的な取り組みを実践されている佐藤孝臣先生(OT)を講師として招いている。都合のつく方はご参加いただきたい。
- (13) **薬業連合会代表者会議** 9月24日(水) 沖縄都ホテル
神村会長より、次のとおり報告された。「薬と健康の週間」中の街頭キャンペーンの開催にあたり、各団体から5名の参加人員要請と薬祖祭への参加依頼がなされた。また、平成26年度各種表彰について、1月の新年会を兼ねての合同祝賀会の開催にあたり、各団体で受賞された方についてご報告いただきたい。
- (14) **第3回九山各県代表者会議** 10月3日(金) 福岡県薬剤師会
松山副会長より、次のとおり報告された。11月に長崎県で開催される第76回九州山口

薬学大会の大会宣言と決議文が了承された。また大会前日に行われる協議会等も整理していく必要があるとの意見が出ていた。日薬の最近の動向として日薬会館建設がかなり難航しているとのこと。

神村会長より、次のとおり補足の報告がされた。九州山口薬学大会においての薬連ブースの費用は各県に任せているが、日薬連より減額のお願いがあり、各県で配慮することが了承された。また薬連ブースに各県から1名担当者を配置してほしい旨のお願いがあったが、沖縄県としては旅費代が多額となるため反対した。

(15) 平成26年度第1回沖縄県医療保険連合（なごみ会）幹事会・懇談会

10月6日（月）ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

神村会長より、次のとおり報告された。本会より、県民健康フェア会場の選定について、もっと来場者を増やし意義あるものにするために、コンベンションセンターは公共交通機関によるアクセスが不便なので那覇バスターミナルに近い県立武道館を提案した。しかし武道館の利用料が高額になるとのことで、断念した。

(16) 社会保険診療報酬支払基金幹事会

10月9日（水）社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 <資料配布>

(17) 南部地区医師会法人設立30周年

<資料配布>

介護老人保健施設「東風の里」開設20周年記念式典・祝賀会

10月9日（木）ANAクラウンプラザホテルハーバービュー

神村会長より、次のとおり報告された。吉田副会長と出席した。有意義な記念式典・祝賀会であった。

(18) 平成26年度第3回都道府県会長協議会・歓迎レセプション

10月11日（土）ホテルメトロポリタン山形

(19) 第47回日本薬剤師会学術大会

10月12・13日（日・月）山形県

神村会長より、次のとおり報告された。大会前日の全国都道府県会長会議出席の前日に山形県に到着したが、翌日に到着予定の沖縄県からの参加者が台風による航空便の欠航で、ほとんどの皆さんが不参加となった。その中、日本薬剤師会功労賞を受賞し、授与式に参加予定だった松山朝雄先生も含まれており、残念だった。

全国都道府県会長会議は、薬と健康の週間の統一事業の中で、各薬局は「疑義照会」「残薬の調整」を積極的に取り組んで頂きたい。医薬分業バッシングに対してしっかり態度で示さなくてはならないとの協力のお願いがあった。また日薬会館建設について、土地190坪での建設予定が、結果的には現在90坪しか購入できておらず、残りの100坪は購入できなかった。建設は保留の状態となっている。固定資産税を毎年450万円程納税しないといけないため、建設までの間、収入目的で駐車場を作りたいとの提案があったが、各県の会長からは会館を建設するのにこんなことでもいいのかもっと真剣に考えてほしい等の厳しい意見が出て、結論は出なかった。また医薬品卸業者との妥結率の提出の件で、薬を仕入れている医療機関は、全部対象とすべきではないか。何故、200床以上の病院と全薬局だけなのか、厚労省に申し入れしてほしい旨の意見が出た。

(20) 沖縄県医療審議会

10月14日（火）県庁

神村会長より、次のとおり報告された。委員は、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県弁護士会で構成されている。審議事項は、医療法人設立認可の可否と南部保健所管内における診療所の病床の設置についてであった。

- (21) 「薬と健康の週間」街頭キャンペーン 10月17日(金) 那覇市ぶんかテンプス館前広場
田場専務理事より、次のとおり報告された。昨日、薬の健康の週間がスタートしたのと同時に、始めて那覇市のテンプス館広場前で街頭キャンペーンを行った。課題として広場前に設置されているスクリーンから観光案内の大音量が流れて、我々のセレモニーの声がかき消される状況があった。事前にその時間帯は消音してもらわなければならないべきであった。
- (22) 神殿祭祀について 10月2日(木) 県薬
神村会長より、次のとおり報告された。神殿祭祀を執り行い歴代の会長を招き、無事終了した。神殿制作等に多くの寄付金が集まり、感謝を申し上げるとともに引き続きの協力依頼を行っていききたい。今後は神殿の部屋に薬学、薬剤師の歴史資料も揃えて行きたい。収集への協力をお願いする。
- (23) 日本薬史学会編「薬学史(または薬史学)事典」へのご執筆のお願い <資料配布>
神村会長より、次のとおり報告された。日本薬史学会より、「薬学史事典」を作成することによって、沖縄県の薬学史部分を編集委員の繋がりでご本会会員の長嶺順子先生に執筆依頼があり、先生より本会に協力依頼があった。長嶺先生執筆原稿をもとに、前会長の金城保景先生、新垣正次先生からもアドバイスを頂き事務局大城係長とともに校正した。
- (24) 公害審査会第1回調停 9月24日(水) 県庁
我喜屋理事より、次のとおり報告された。鶏舎の経営者より、多くの鶏が死亡したことは、土木工事による騒音が原因であると訴えていることで第1回調停が行われた。第2回調停が3月に行われる予定である。
- (25) 豊見城薬局との連絡会議 10月3日(金) 会営薬局とよみ
我喜屋理事より、次のとおり報告された。毎月、豊見城薬局と会営薬局とよみで連絡会議を行っている。年末年始の救急対応について協議し、昨年どおり年末年始はとよみも開局し、豊見城薬局とシフト体制となることが決定した。それ以降の土日祝祭日の対応は、11月の連絡会議にて相談することとなった。またこれまで何度も会営薬局とよみ救急時の管理薬剤師兼務について県、保健所をお願いしているが、受け止めていただけてなく、文書での回答を求めている。
- (26) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について
山城課長より、次のとおり報告された。現在の状況は、9月より産休明けの職員が戻り正職員4名と協力薬剤師でのシフトとなっている。来春卒業予定の福岡の薬学生が会営薬局とよみ就職希望で、今月末に面接を兼ねて薬局見学を計画している。以外でも理事の皆様からも薬剤師確保へのご協力強くお願い致します。
- (27) 沖縄県自然環境保全審議会 9月3日(水) 県庁
宮城常務理事より、次のとおり報告された。県指定屋嘉比島鳥獣保護区特別保護地区を再指定するかどうか協議した。再指定の決定がなされた。
- (28) 平成26年度第3回広報委員会 9月24日(水) 県薬
- (29) お薬手帳普及啓発番組撮影 9月25日(木) 会営薬局医療センター前、キセ薬局ほか
宮城常務理事より、次のとおり報告された。お薬手帳普及啓発番組撮影収録が行われ、街頭インタビューは前回同様フリーアナウンサー宮城麻里子氏、街頭インタビューはファミリーハウス事務局長、看護協会事務局職員、薬剤師会職員、ナレーターは琉大病院薬剤部で広報委員の砂川智子氏、薬剤師役は琉大病院薬剤部の佐久川卓氏、女性の薬剤師役はクララ薬局の実務実習生で、薬局待合室で放映できるようにDVDを600枚作成し、各薬局に配布する予定。薬と健康の週間の県民公開講演会の前にこのDVDを放映する予定である。

- (30) 会計監査 9月25日(木)・10月15日(水)
- (31) 平成26年度第1回沖縄県保健医療協議会 9月26日(金) 県庁 <資料配布>
 江夏常務理事より、次のとおり報告された。議題は医療介護総合確保基金に基づく都道府県計画について、各医療団体から事業計画案が出されている。そこでさらに数百億円が補正予算として示された。修正案があれば提出するよう呼び掛けているとのことである。沖縄県は17億7千万円ということで、その修正案をもって最終とし、国に提出する。
- (32) 健康とおくすり相談会 9月28日(日) 明石公民館
 幸地理事より、次のとおり報告された。これまでは、サンエー、マックスバリュー等で実施していたが、ここ数年は宮古での相談会を参考にして各公民館で実施している。今回は石垣島の北部で市内から1時間程かかる人口の少ない地域の明石公民館で行い、参加者は15名程度であった。今回は八重山病院の医師と理学療法士の先生に講演会を依頼した。講演会の後にお薬相談会を行ったが、非常にいい流れだったと感じている。
- (33) 「薬と健康の週間」街頭キャンペーン 10月18日(土) サンエー石垣シティ前
 幸地理事より、次のとおり報告された。「薬と健康の週間」の一環で保健所と一緒に実施した。
- (34) 沖縄県商工労働部雇用政策課・グッドジョブ事業局より来訪 10月1日(水) 県薬
 田場専務より、次のとおり報告された。大城恭子先生と大城係長が中学、高校生に向けての未来の産業人材育成事業についての打ち合わせを行った。
- (35) 平成26年度第3回薬剤師学術研修委員会 10月1日(水) 県薬 <資料配布>
 田場専務理事より、次のとおり報告された。会議事項は第28回沖縄県薬剤師学術大会について、協賛申込状況は広告協賛9社、出展協賛8社、ドリンク協賛1社となっている。演題申込は21演題。内訳は、病薬部門13演題、保険薬局部門8演題(内行政部会から1演題)となっている。現時点での参加申込み数は280名となっている。
- (36) 平成26年度第7回定例幹事会
- (37) くすりと健康のフェア打ち合わせ
- (38) 公益事業推進委員会 10月1日(水) 県薬 10月10日(金) 県庁・パレット市民劇場
 10月15日(水) 県薬
 山城課長より、次のとおり報告された。一般社団法人に移行したことで、事業計画と予算の承認事項が、理事会で承認し総会は報告でよいとする件で、去った総会にて、以前のように総会での承認事項がよいのではとの意見があり、その後、地区薬会長会議でも、意見を聴取した上で、当委員会にて審議したところ、法人法に則り、これまで通り、理事会承認後に総会報告が理にかなっているとの結論となった。
- (39) くすりと健康フェア告知 10月15・17日(水・金) 沖縄タイムス・琉球新報社
- (40) 集団的個別指導(36薬局) 10月16日(木) 沖縄産業支援センター
- (41) 「薬と健康の週間」街頭キャンペーン 10月18日(土) イオン名護店
- (42) 第12回HIP研究会フォーラム in 沖縄 11月1・2日(土・日)
 吉田副会長より、次のとおり報告された。全国組織であるHIP研究会による研究会フォーラムが県薬剤師会館で開催される。11月1日は会営薬局うえはらの無菌調剤室見学と県薬会館では、初級、中級者向けの研修会となっている。11月2日は分科会と特別講演に宮古島のドクターゴンこと泰川先生をお招きしご講演いただく。また医師、看護師、薬剤師とのシンポジウムも予定している。
- (43) 第76回九州山口薬学大会補助金について
 山里常務理事より、次のとおり報告と承認を求めた。九山の補助金について、40万円を

限度として20名に2万円の補助としているが、現在22名の補助金申込があり、2名分オーバーの44万円で対応してよいか。

そのとおり承認された。

- (44) 第8回定例理事会（北部地区開催）スケジュール（案）について <資料配布>
山城課長より、次のとおり報告された。来月の北部地区開催の理事会当日のスケジュールについて、集合時間、移動手段、送迎は資料のとおりである。

- (45) 広島県薬剤師会 平成26年豪雨災害への対応について <資料配布>
山城課長より、次のとおり報告された。九山地区の会長会議において、広島県で8月に起きた土砂災害被災者への義援金として各県一律5万円と決定された。

(46) その他

亀谷常務理事より、次のとおり説明が求められた。県薬会長表彰者が前回の理事会で決定したが、那覇地区の理事会において、ある理事が表彰者は各地区薬ごとに割り振られているはずだ、今回の那覇地区からの推薦者が落とされたのは納得いかないとの意見が出た。表彰規程はどの様になっているか確認したい。

神村会長より、次のとおり答えた。以前より表彰者枠は原則5名以内で、推薦は6地区薬と部会等からとなっている。会のために功績のあった会員を推薦いただき、表彰委員会で審査し、理事会にて承認をもらっている。各地区薬に割り振られているとのことは、本人の誤解と思われる。

神村会長より、次のとおり報告された。八重山地区薬より、10年に1度は石垣島で移動理事会をしてもらいたいと要望があった。15年前に石垣島で理事会開催したきりになっている。今年度中に石垣島での理事会開催をしたいと思っている。

田場専務理事より、次のとおり報告された。一般県民からの電話相談で、友人に危険ドラッグらしきものを購入させられ、県に相談したところ、あなたも罪を問われるとの回答だったとのことで、4本人の了承を得て、連絡先を確認し薬務疾病課の担当者に報告した。

松山副会長より、次のとおり述べられた。県民生活消費センターのような、悩みを聞く、指導するという薬剤等の専用の行政窓口がない、そこが懸念される。

報告（薬連）

- (1) 平成26年度臨時評議員会 9月17日（水）スクワール麹町 <資料配布>
(2) 組織強化に関する担当者全国会議 9月18日（木）スクワール麹町 <資料配布>
(3) 沖縄県知事選挙に関する意見交換会 <資料配布>
10月6日（月）ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー
(4) なかいま弘多女性部総決起大会 10月22日（水）ロワジュールホテル那覇 <資料配布>
(5) なかいま弘多決起集会 11月5日（水）ロワジュールホテル那覇 <資料配布>
(6) その他

神村会長より、次のとおり報告された。日本薬剤師連盟の会議が9月17日に開催され、再来年の参議院議員選挙に藤井基之氏は、出馬する意向であり、藤井氏を推薦することが決議された。2月7日に日薬連盟九州ブロック協議会、日本薬剤師会九州ブロック会議を沖縄で実施することが決定した。11月の県知事選挙に4名が立候補している中、医療11団体は現職の仲井眞氏を推薦することで決議された。既に県薬も推薦状を交付した。仲井眞氏が掲げる21世紀ビジョンでは、普天間基地跡地利用として、医療ゾーンを設置しその中に創薬研究所を作る構想があり、職能団体として賛同したい。

平成26年度 第8回定例理事会 議事概要

日時：平成26年11月8日(土) 19:00～21:00

場所：ホテルゆがふいんおきなわ(名護市)

<出席者>

会 長：神村武之

副 会 長：松山朝雄、吉田洋史

理 事：田場英治、江夏京子、亀谷浩昌、山里勇、前濱朋子、玉城純、姫野耕一
宮城敦子、下地仁、笠原大吾、我喜屋美香、村田美智子、石川恵市

事 務 局：山城英人、稲福文隆、大城喜仁

<欠席者>

理 事：新垣秀幸、川上善久、幸地良信、外間惟夫

議題

(1) 臨時総会開催について

山城課長より、臨時総会を平成27年3月29日に開催を予定しているとの報告があった。

(2) 平成26年度第11回定例理事会(八重山地区開催)について

山城課長より、10月の理事会で八重山での移動理事会開催の提案があった。日程調整の結果、2月14日、第二土曜日に開催することが決まった。

(3) 平成27年度「くすりと健康フェア」の委託に係る調整について

田場専務理事より、10月30日に薬務疾病対策課より、これまで薬と健康の週間で開催している「くすりと健康フェア」は沖縄県、那覇市、沖縄県薬剤師会の共催で開催しているが、経費については県薬が荷重負担している。三団体で役割分担してきたが、講演会講師への謝礼金や周知の為の新聞広告料の支払いが県と県薬での折半のため、講師並びに業者への支払い等の分担作業が煩雑になっている。平成27年度の「くすりと健康フェア」からは、沖縄県から沖縄県薬剤師会へ事業を委託したいと申し出があった。事業を委託するには諸問題があり、結論を出すには時間がない。平成27年度はこれまで通り開催し、平成28年度に検討したいと薬務疾病対策課へは報告した。

神村会長より、事業の委託を引き受けることは、当会ですべて企画、実行して行くことと認識するが、日程、会場、講師選定等はこれまで通り沖縄県、那覇市、薬剤師会の三者で調整すると記されている。これでは主導権は三者であり、当会事務局の業務量が増大するだけである。当会が主導して開催するのであれば検討する。再度、薬務疾病対策課へ確認してもらおうこととなった。

(4) 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会「在宅医療連携システム」構築に係る

小委員会委員の推薦及び開催について

おきなわ津梁ネットワークとは医師会がすすめている特定健康診査の結果を基本情報に、各医療機関における検査結果や地域医療連携パス情報、また医療機関や各医療保険者が行う特定保健指導情報等を集積及び共有し、県民への適切な保健指導や医療勧奨、治療等を行うための取り組み。

田場専務より、今回は上記事業の在宅医療連携システム構築に係る小委員会委員の推薦依頼があった。在宅医療に携わっている笠原理事は、おきなわ津梁ネットワーク本委員である

ため、他にシステム構築に携われる方という説明があった。

笠原理事より、在宅医療連携システム構築と、いわゆる研修に関する2つの小委員会がある。今回はシステム構築小委員会の推薦依頼がきており、早々にもう1つの研修小委員会も推薦依頼が来る予定である。在宅医療連携システム構築小委員として、県薬備蓄ネットワークも担当している吉田副会長が適任と承認され、次に予定しているいわゆる研修小委員は先に在宅医療に携わっている荒井千春氏（あにも調剤薬局）との案で承認された。

(5) 平成27年度日本薬剤師会有功賞推薦について

山城課長より、平成27年度日本薬剤師会有功賞の推薦依頼がきている。条件として80歳以上で薬剤師正会員30年以上である。対象者は今井忠子先生、大城清吉先生、嘉陽美津子先生、桜川浩太郎先生の4名の方が対象となっている。承認をいただいて推薦をしたいという説明をされ、承認された。

(6) 平成27年度事業計画案提出について（お願い）

山城課長より、3月の臨時総会に伴い、各部会、各委員会担当理事は平成27年度事業計画案を作成して提出をしていきたい。提出期限は平成27年1月末日。2月の理事会に提出して、各理事の意見を集約し、3月の理事会で承認いただく予定。3月29日の臨時総会にて提出すると説明し、承認された。

(7) その他

○会場の無料借用について

笠原理事より、保健福祉委員会からお願いをして、在宅医療に関する研修会を12月21日（日）ニプロ株式会が共催として開催頂けることになった。今回の研修会は在宅医療で使用される医療器材の適正使用と実際の調剤薬局での在宅医療への取組についての紹介である。会場を無料借用でお願いしたいとの報告があり承認された。

○県薬Weeklyニュースへの講演会等の掲載について

亀谷常務理事より、地区から依頼を受けて、県薬がFAX一斉同報で講演会等を会員へ案内した場合に県薬Weeklyニュースへ掲載されない場合がある。FAX一斉同報をした時点で自動的に県薬Weeklyニュースへ掲載できるようなシステムにしたかどうかという意見があった。

山城課長より、事務担当者へ確認をし、自動的に県薬Weeklyニュースへ掲載できるように検討すると回答があった。

○各種委員会職務内容の見直しについて

田場専務より、日薬が組織編成の見直しをしているので、県薬もある程度の見直しが必要でないかとの意見があり、見直す部分を吉田副会長、亀谷常務理事、山城課長、田場専務の4人で検討することになった。

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等（10月分）及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>
- (2) 健康とおくすり相談会 10月19日（日）沖縄セルラーパーク那覇
 姫野理事より、10月19日（日）沖縄セルラーパーク那覇を会場に那覇市の健康ウォーキングのイベントと同時に薬相談会を開催した。他職種が集まり各ブースを設置して大盛況であったと報告された。薬剤師（相談員）8名の参加で、薬学生が協力したという報告があった。
- (3) 「薬と健康の週間」街頭キャンペーン 10月19日（日）サンエーショッピングタウン宮古前
 下地理事より、例年は土曜日の開催であった。今回は日曜日の開催で薬剤師が少なかった。

今回は土曜日開催に戻すことを検討したいとの報告があった。

神村会長より、10月17日に県、那覇市、薬業連合会で、例年パレットくもじ前で街頭キャンペーンを開催していたが、今年は初めての試みで、てんぷす館前で開催した。ほとんどが観光客で啓蒙チラシを受け取ってくれなかった。また、各団体の挨拶している後方のスクリーンでは、バックミュージックが流れて挨拶が聞き取れなかった。啓蒙チラシの配布時間が年々短くなり形式的になっている。来年の反省材料であるという報告があった。

(4) 保険薬局部会主催研修会 10月19・29日(日・水) 県薬

宮城理事より、10月19日・29日の2回、研修会が開催された。19日は薬剤師で弁護士の赤羽根秀宜先生に講演していただき、参加者は20数名。29日の水曜日は武田薬品工業株式会社の森永哲也先生に薬剤師の観点から生活習慣病について考えるということで講演を頂き、この日も参加人数20数名の参加者だったと報告があった。

(5) 薬事功労者知事表彰式 10月20日(月) 県庁

神村会長より、豊見城中央病院の薬剤科長の橋本孝夫先生と県薬剤師会宮古地区代表理事の下地仁先生の2名が受賞された。表彰規程で役員歴10年とあるが、以前は会員も少なく、長年に渡り役員をされた方が多かったが、現在は各地区からの推薦であるため、役員歴10年されている方はほとんどいない状態。功績の難易度は落とさずに、役員歴10年という年数を落とすよう再度規程の見直しについて県にお願いをしていきたいと報告があった。

(6) 薬祖祭 10月21日(火) 波之上本殿

神村会長より、「薬と健康の週間」に波之上宮にて執り行われる。今年は10月21日(火)役員、会員等へ呼びかけて是非参加して下さいと呼びかけた。また、薬剤師会の神殿には薬祖祭でいただいたお札等を奉納して祀っているという報告があった。

(7) くすりと健康フェア県民公開講演会 10月23日(木) パレット市民劇場

神村会長より、特別講師にシンガーソング・ライターで歌手の松田陽子さんをお呼びした。大阪の出身で、子宮頸がん、うつ病を体験し、回復後はボランティア活動をしている。子宮頸がん、うつ病の体験を語るなかで、客席では多くの方が涙を流して、直に感じた方がいたと思います。集客数は約260名ではあったが、大好評であった。また講演後はCDの販売を行い、収益金は全部ボランティア活動に寄付するとのことであった。薬剤師会も3万円をボランティア団体に寄付したという報告があった。

(8) 神殿寄付について <資料配布>

田場専務より、薬剤師会神殿への寄付者30名のリストが資料に掲載していることの報告と会員へご協力と呼び掛けていただきたいとの報告があった。

(9) 平成26年度第3回医薬分業対策委員会 10月20日(月) 県薬 <資料配布>

江夏理事より、10月20日に開催した。医薬分業対策会議の反省(平成26年8月24日開催)で当日は広域病院の薬局長、各地区の会長、分業担当、役員総勢40名の出席があった。今回はテーマをしっかりと絞ったが、限られた時間でテーマに対して多くの議論が出た。内容を極め討議の質を高める必要があるのではないかと反省会にも出ていた。また、医薬分業対策委員会主催研修会(SGD)について、今回は「地域密着型の薬局」を目指してというテーマで11月30日(日)14時から県薬で行う。また、FAXコーナーの担当者会議が来年の2月8日という報告があった。

(10) 会計監査 10月21日(火) 県薬

(11) 平成26年度第1回医療保険委員会 10月22日(水) 県薬

吉田副会長より、年末年始休日加算については輪番にあたっている医療機関の門前薬局に

については加算を申請できるが、(申請期間中、どの医療機関が輪番にあたっているかがわからない薬局が多く) それ以外の薬局が算定を申請しているような状況が続いている。医師会にお願いして早めに輪番の医療機関リストを確認できるように検討したいと報告があった。また、管理薬剤師のための研修会の開催については以前から要望があり、3月15日(日)に沖縄コンベンションセンターの会議棟で開催する。会員へ案内をすると報告された。あと、調剤報酬請求業務の開催について2年に1度調剤報酬改定に伴い、3月の末に説明会を開催しているが、改定のない年は医療事務のための請求業務講習会を次年度は7月か8月に開催したいという報告があった。

(12) HIP研究会フォーラム in 沖縄

11月1・2日(土・日) 県菓

吉田副会長より、在宅での輸液療法に特化した研究会で全国約300名の薬剤師の研究会で、各県毎年持ち回りで開催している。昨年が長崎大会で今年が第12回沖縄大会となった。薬学生も4名の参加があった。今回、準備する人数が少ない中で神村会長には大会長として了承いただき、開催の呼びかけをしたところ県外から77名、県内からは30名の参加だったと報告があった。

(13) 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定地方公共機関業務計画作成に

係る説明会

11月5日(水) 県庁 <資料配布>

吉田副会長より、田場専務の代理で出席した。新型インフルエンザの対策について県が進めているが沖縄県薬剤師会は指定地方公共機関として認定されているので、しっかり対応をしていかないといけない。今年度中に業務計画を作成して県へ提出する。沖縄県薬剤師会の業務継続計画(BCP)を作成する。今月末には右記についての会議が開催されると報告があった。

(14) くすりと健康フェア・健康とおくすり相談会

10月23日(木) パレット市民劇場

田場専務より、南部地区薬剤師会の主催で開催された。30名程の相談者がいたとの報告があった。

(15) 平成26年(調)第1号事件にかかる第1回調停(公害審査会)

10月24日(金) 県庁

我喜屋理事より、公害審査会とは、公害紛争(空気環境、汚染が原因と思われる健康被害)の訴訟で調停を行う機関が県にある。その委員は薬剤師会、医師会、看護協会、大学の有識者、弁護士等のメンバー12名程で構成されており、今回の案件、申請者は養鶏場経営者、相手は国土交通省で道路の建設において鶏が健康被害を起こしたということで工事差し止め請求となっている。その調停が行われた。国は鶏の健康被害については、この工事との因果関係はないと断定し、調停は不成立になった。この問題は打ち切りとなり、後は裁判に委ねるといことで審査会の役目は終了したと報告があった。

(16) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

山城課長より、薬剤師5名から7名で対応している状況で、実質的に5名という時は厳しくて、最低6名程いないと患者に迷惑をかける状態です。この状況で、輪番薬剤師にご協力いただいて大変感謝している。また、求人状況については福岡大学の学生が国家試験に合格した際は会営薬局とよみで勤務したいと要望があった。面接も兼ねて10月の末に沖縄に来ていただいた。好感ももって誠実そうであった。同時にもう1人は、(業者を通して)山口県で働いており、帰省のため沖縄に戻ってくるタイミングで面接を10月末に行った。単科ではない総合病院の処方勉強したいということでの要望があった。週明けには返事がくると言う報告があった。

我喜屋理事より、両人とも面接を行った。二人とも好青年で意欲も感じられた。1人は学生で国家試験に合格が前提。本人は頑張るとのこと。もう1人は会営薬局とよみで1時間程

調剤をしていただいた。当人は忙しいところに身を置いてレベルアップしたいと意気込みがあった。

年末年始の開局については会営薬局とよみも開局する。1月からの勤務体制表も11月中に作成したいと報告があった。

神村会長より、薬剤師職員は現在4名で、処方内容から8名は必要である。少なくとも6名は本採用で後の2名はパート体制が理想であると報告された。

(17) 青年部会講演会 10月25日(土)(株)アトル営業部

石川理事より、北里大学薬学部の先生をお招きして開催した。株式会社アトルのご協力で会場を貸して頂きましたが、学術大会の前日ということもあって、参加者が16名と少なかった。

小規模ながら意見交換会ができたので結果的にはよかったと報告があった。

(18) 第28回沖縄県薬剤師会学術大会 10月26日(日) 県薬

大城係長より、参加者285名、昨年は303名で若干の減少であるが、県薬会場は満席であった。宮古会場18名、八重山会場6名であった。内訳として県薬会員が172名、病薬が113名。今年の奨励賞は病薬部門で南部医療センターの齊藤うたた先生、保険薬局部門では、にしばる薬局の新垣慶朗先生が受賞した。機器展示は8社が参加した。会場収容の限界を感じたが、無事終えることが出来たと報告された。

亀谷常務理事より、審査をしたが年々レベルがあがっていると報告があった。

神村会長より、テレビシステムを使っての会長挨拶を去年は石垣、今年は宮古から行った。宮古会場のテレビ画面は小さいが非常にきれいで声もはっきり聞こえていた。薬剤師会館会場ホールについては、声の質によっては聞こえないとの会員からの意見があり、今後は音響設備を整えたいと報告された。

村田理事より、会員から会場が窮屈でお手洗に行きたくてもいけない。以前はホテルで開催していたという意見があった。

神村会長より、うれしい悩みだが以前は参加者が少なく空席も多かった。通年から参加者が増えて、宮古、八重山にもテレビシステムを設置している。2階研修室での機器展示をやめて会場にする案もあると報告された。

大城係長より、懇親会では特別講演の大橋靖雄先生が参加され意見交換が交わされた。また薬剤師会長表彰授与式が行われ、前原信照先生、村田美智子先生、平良由紀子先生、狩俣イソ先生、我喜屋美香先生が表彰された。代表の謝辞を前原信照先生が述べたと報告があった。

(19) 沖縄県健康長寿課より来訪(インフルエンザ対策について) 10月28日(火) 県薬

田場専務理事より、沖縄県健康長寿課より、沖縄県新型インフルエンザ等対策行動計画において県備蓄分の放出の必要性を判断するために県内の抗インフルエンザウイルス薬の流通状況及び在庫状況を把握する上で各問屋の在庫の供給量と在庫量の報告を県薬剤師会に委託したいと言う旨の依頼があったという報告があった。

(20) 組織強化委員会 10月28日(火) 県薬

田場専務より、組織強化委員会において、非会員が県薬へご入会いただくために対策を検討している。特に病薬会員へ入会いただきたく入会についてのアンケートを依頼した。65施設にアンケートを送り、53施設より回答があり、回答率は76.8%であった。(アンケートの内容を資料添付) 次回の組織員会はアンケートを整理してすぐにでも実行できること、2~3年以内にできること、将来的なものを精査して具体的に対策を立てる予定であると報告があった。

(21) 平成26年度 沖縄市の水質検査(飲料水・プール水)について

田場専務理事より、ファックスにて平成26年度水質検査業務について見積書の提出依頼

があった。5月7日付に見積書提出。その後ファックスにて当センターに検査依頼あり、電話にて1週間ほどで契約書を郵送するとあった。プールの使用期間があるため、また、沖縄市の行政であることの信頼の下、契約書を待たずに5月26日より検査開始。7月1日に検査終了。7月14日付けで検査報告と請求書を沖縄市教育委員会へ提出したが、未だに契約が交わされていない状態である。何度か催促しているが担当者からは連絡がない。沖縄市教育委員会に出向き事情を聞く予定であると報告があった。

(22) 平成26年南部地区保健医療協議会 10月30日(木) 南部福祉保健所

宮城理事より、今年度から南部地区保健医療協議会のメンバーになった。医師会、歯科医師会は南部地区の先生がメンバーですが薬剤師会、看護協会、栄養師会は各団体の理事から選任頂きたい。第2回目の開催で、議題としては沖縄県保健医療計画における県全体の実施計画ということであった。具体的には自殺率の目標値がどれくらい減ったか、禁煙率、特別検診の受診率が増えた等の内容であった。意見交換の中で、南部地区にエボラ出血熱の患者が発生した場合は患者輸送用のカプセルを準備している。沖縄県の指定病院は琉球大学附属病院と南部医療センターとなっていると報告。後は津梁ネットワークの参加、南部地区歯科医師会からは検診の中に口腔内のチェックも入れていただきたいということでした。それから禁煙対策では、年々たばこを吸う方は減っているが妊婦さんの喫煙率がなかなか下がらない。産婦人科の先生から、妊婦に対する研修会等の計画をしているということと報告があった。

(23) 個別指導 10月30日(木) 那覇第一地方合同庁舎

(24) 独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議 11月6日(木) 那覇市役所

前濱理事より、参加者が小中学校校長会の会長、私立中学校の校長会議の会長、医療圏からは医師会、学校歯科医師、那覇市の教育委員会、県の教育委員会の構成となっている。内容は「学校で起きた傷害について医師の診断書を教育委員会に提出する。教育委員会が独立法人日本スポーツ振興センターと契約を行っているので、教育委員会を通さないと保険適応ができないという報告があった。

(25) 集団的個別指導(2薬局) 11月6日(木) 八重山合同庁舎

(26) 個別指導(1薬局) 11月7日(金) 八重山合同庁舎

(27) 平成26年度 沖縄県薬業連合会合同祝賀会について

神村会長より、毎年1月第3日曜日に新年会を兼ねて受賞祝賀会を開催している。資料では23名の先生方が受賞されているが、地区、部会等で受賞者の抜けがないか、確認いただきたい。会員から会場が狭すぎて、天井も低く声が響いて聞きづらいという意見があるので検討するという報告があった。

(28) その他

石川理事より、今年度の青年部の重要計画である薬学生のUターン・Iターン事業で、11月29日に沖縄県の出身者が多い北陸大学で意見交換会をする予定となっている。参加者は青年部会の川満直紀先生と事務局の大城係長。12月3日には北海道医療大学を予定。基本的には企業、行政、民間の調剤薬局や病院が参加し、6年生に対する就職活動セミナーとなっている。出身大学ということもあってセミナーに参加することができないかと担当教授に依頼したところ、特例で沖縄県薬剤師会ブースで設定することになった。ただ、沖縄出身の学生が少ないことから期待は薄いが、UターンよりIターンを重視して沖縄に興味をもっている学生を集めて交流したいとの報告があった。

我喜屋理事より、前に全国の薬科大学で沖縄県出身が何人いるかという一覧表を出したが、人数の多い大学をターゲットにしてはどうかという意見があった。

神村会長より、費用対効果を考えても県出身者の少ない大学にいてもどうかと思う。そうすると全国を回ることになるので、多い所をターゲットにした方が効果的ではないかという意見があった。

吉田副会長より、次年度は県より薬剤師確保のための補助金が予定されている。それを利用して各大学へ出向くことの検討をする必要があるとの意見があった。

我喜屋理事より、薬学生実務実習について、後1週間で薬学生の実務実習も終了する。Ⅰ期Ⅱ期合わせて32名、Ⅱ期は19名で宮古地区は今回が初めての受け入れだった。現在は来年度のマッチングを開始前で、九州福祉保健大学、福岡大学、第一薬科大学、長崎国際大学、星薬科、日本薬科、名城、愛知学院大学、神戸学院大学、姫路獨協大学、徳島文理大学が予定されている。また北部地区へ3名の実習生が入る予定であると報告があった。

笠原理事より、「薬局、薬剤師を活用した健康拠点情報推進事業」県から委託された事業で、内容としては「お薬バック事業という残薬を回収して整理して返すという事業」もう一つは「薬局に体脂肪計と血圧計をおいて測定しながら健康指導を行う事業」実施期間が12月、1月、2月の3カ月となっている。進捗状況について、事業に使用する備品、機器を準備中です。来週の水曜日12日に説明会を開催予定です。体脂肪計、血圧計の機器を扱う薬局は限定30薬局、お薬バッグは何薬局でも参加可能である。講習会も開催予定している「お薬バッグ事業」は鹿児島県薬の先生、「薬局に体脂肪計と血圧計をおいて測定しながら健康指導を行う事業」栄養士会の先生にお願いすることになっている。講習会は本島1回、宮古、八重山は希望者がいれば出前講習会を予定している。その予算は確保していると報告があった。

神村会長より、各地区の薬局数を参考に参加薬局（機器配布）の割り振りをしてもらいたい。

報告（薬連）

- (1) なかいま弘多 女性部総決起大会 10月22日（水）ロワジュールホテル那覇
- (2) とかしきなおみ衆議院議員来沖 10月24日（金）県内各所
- (3) なかいま弘多県知事選挙予定候補 推薦団体選対会議
10月28日（火）沖縄21世紀ビジョンを実現する県民の会
- (4) 平成26年度 第2回全国会長幹事長拡大会議 11月5日（水）東京會館 <資料配布>
- (5) 全国藤井もとゆき薬剤師後援会 第2回役員会 11月5日（水）東京會館 <資料配布>
- (6) 参議院議員 藤井もとゆき君と語る会 11月5日（水）東京會館
- (7) なかいま弘多決起集会 11月5日（水）ロワジュールホテル那覇
- (8) なかいま弘多総決起大会 11月7日（金）県立武道館
- (9) その他

神村会長より、知事選挙が12月のため、仲井真知事の決起大会が各地で開催されている所である中で、医師連盟主導の決起大会が5日にありまして、代理に吉田副会長が挨拶をしてもらった。当初の参加予定人数400名を上回り600名の参加者で大盛況だったということです。7日はなかいま弘多の総決起大会が県立武道館開催され、超満員であった。主催者からは11,000名の参加者だと発表があった。薬剤師連盟からも推薦状を送りました。選挙期間中に沖縄出身の渡嘉敷奈緒美衆議院議員が来沖されて、選挙事務所での挨拶また、各薬局を回りました。松本純先生も来沖、日帰りで3時間程度の沖縄に滞在した。明日、橋本岳厚生労働大臣政務官と医療団体との懇談が予定されているとの報告があった。

平成26年12月

- 1月○保険薬局部会役員会 県薬部会室
- 2火○第4回沖縄ウイルス研究会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 共催：グラクソ・スミスクライン(株)
- 沖縄「がん疼痛治療・医療用麻薬」関連研究会中部地区 アドベンチストメディカルセンター 共催：大日本住友製薬(株)
 - 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 3水○平成26年度沖縄県学校保健会表彰（個人及び団体）審査会及び情報交換会 県庁 前濱常務理事
- 平成26年度第10回定例幹事会 県薬研修室
- 4木○会報取材（薬局取材）名護薬局 宮城常務理事、大城係長
- 会報取材（仲村英和先生インタビュー）なかむら薬局 宮城常務理事、大城係長
 - Uターン・Iターン就職希望薬学部生との相談会 北海道医療大学 石川理事、牧野唯右氏
 - 糖尿病療養支援実践セミナー第7回コメディカル勉強会 ちばなクリニック（ちばなホール） 共催：日本イーライリリー(株)
 - 薬局薬剤師のための健康情報拠点事業会議 県薬会議室
 - 北部地区薬剤師会学術研修会（麻薬に対する誤解・不安～患者さん・ご家族への服薬支援～）北部地区薬剤師会館
- 5金○第4回うちなあがん薬一薬連携講演会 琉球大学医学部臨床講義棟 共催：特定非営利活動法人よりよい地域医療を応援する会
- 沖縄県「がん疼痛治療・医療用麻薬」関連研修会 宮古地区（第6回） 宮古地区薬剤師会事務所
- 6土○平成26年度第1回薬局実務実習受入に関する九州山口地区ブロック会議 西鉄ソラリアホテル（福岡県） 神村会長、我喜屋理事
- 8月○平成26年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会 スクワール麴町（東京都） 座波祥子氏（スズケン沖縄薬品）
- 沖縄IL-6学術講演会 ザ・ナハテラス 共催：中外製薬(株)
 - 平成26年度第4回広報委員会 県薬研修室
 - 臨床薬剤師育成研修会（株）ダイコー沖縄
- 9火○平成26年度沖縄県薬業連合会第2回代表者会議 沖縄都ホテル
- 保険薬局部会研修会 県薬研修室
- 10水○日本薬剤師会災害対策委員会 TKP信濃町ビジネスセンター（東京都） 吉田副会長
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 神村会長
 - 平成26年度第2回薬学生実務実習受入委員会 県薬研修室
 - なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 沖縄県医師会館 上原幸代氏、稲福係長
- 11木○個別指導（2薬局）八重山合同庁舎 山城専八重山地区会長
- 平成26年度高度管理医療機器等継続研修会（宮古） 宮古地区薬剤師会事務所 講師：吉田洋史副会長
- 12金○個別指導（1薬局）八重山合同庁舎 山城専八重山地区会長
- 糖尿病学術講演会 メルキューレホテル沖縄那覇 共催：サノフィ(株)

- 13土○沖縄県感染症薬剤師研究会 琉球大学医学部臨床講義棟 共催：MSD(株)
○平成26年度第9回定例理事会 県薬研修室
- 14日○JPALS研修会 県薬会議室 講師：亀谷常務理事
- 15月○学校薬剤師制度創設60周年記念文部科学大臣表彰伝達表彰式 宮城薬局 与那嶺朝子氏
(受賞者)、前濱常務理事、大城係長
○学校薬剤師制度創設60周年記念文部科学大臣表彰伝達表彰式 いは薬局 筋初子氏(受賞者)、前濱常務理事、大城係長
○平成26年度第2回医薬品事故・過誤対策委員会 県薬研修室
- 16火○半期監事監査 県薬 会議室 神村会長、大城桂子・伊敷幸太郎両監事、田場専務理事、
山里常務理事、山城課長、事務局金城・前原
○試験検査センター運営委員会 県薬会議室
○学校薬剤師制度創設60周年記念文部科学大臣表彰伝達表彰式 宮盛薬局 伊佐常隆氏
(受賞者)、前濱常務理事、大城係長
- 17水○学術講演会 県薬ホール 共催：大塚製薬(株)
- 18木○沖縄市役所障がい福祉課より来訪 県薬会議室 田場専務理事
○第68回那覇地区薬剤師会臨床講座 県薬研修室
○社会保険診療報酬支払基金審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 19金○糖尿病学術講演会 沖縄県立宮古病院
○組織編成検討会議 県薬会議室 田場専務理事、吉田副会長、亀谷常務理事
○社会保険診療報酬支払基金審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 20土○社会医療法人友愛会忘年会 ロワジュールホテル那覇 神村会長、田場専務理事、我喜屋理事、島袋陽子
- 21日○「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」についての勉強会 県薬研修室 主催：保健福祉委員会
○沖縄県薬剤師会在宅医療研修会 県薬ホール 主催：保健福祉委員会
- 22月○社会保険診療報酬支払基金審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 23火○「事例から学ぶ認知症ワークショップ」 県薬研修室 共催：エーザイ(株)
- 26金○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城・前原
○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 社会保険医療担当：仲真良重氏

平成27年1月

- 5月○在宅委員会(電子お薬手帳について) 県薬研修室 吉田副会長、田場専務理事、笠原理事、山城課長、稲福係長
- 7水○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城
○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 サザンプラザ海邦 神村会長
○平成26年度第11回定例幹事会 県薬研修室
- 8木○組織編成検討会議 県薬会議室 吉田副会長、田場専務理事

- 8木○沖縄県歯科医師会新年会・叙勲大臣表彰等受賞合同祝賀会 ザ・ナハテラス 神村会長
 ○平成26年度第4回医薬分業対策委員会 県薬研修室
- 9金○沖縄県小児保健協会新年会 ホテル日航那覇グランドキャッスル 神村会長
- 10土○平成26年度叙勲表彰等受賞祝賀会・新年会（看護協会） ホテル日航那覇グランドキャッスル 神村会長
 ○平成27年沖縄県医師会新年祝賀会並びに医事功労者表彰式 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 神村会長・吉田副会長
- 12月○学薬役員会 県薬部会室
- 13火○医療ゾーンの団体による固定資産税の減免に関する要望について 沖縄県小児保健協会 山城課長
- 14水○平成26年度第4回都道府県会長協議会 日薬 神村会長
 ○日本薬剤師会新年賀詞交歓会 明治記念館（東京都） 神村会長
- 15木○第48回沖縄県母子保健大会 浦添市てだこホール 田場専務理事
 ○沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会 沖縄県後期高齢者医療広域連合会議室 江夏常務理事
 ○J P A L S 研修会 県薬研修室 亀谷常務理事
- 17土○国際通訳ボランティアステップアップ講座 沖縄県国際交流・人材育成財団ホール 講師：吉田副会長
 ○平成26年度第10回定例理事会 県薬研修室
- 18日○平成26年度女性薬剤師部会第15回漢方講座 県薬ホール
 ○沖縄県薬業連合会主催 平成26年度薬事功労受賞者合同祝賀会並びに新年会 沖縄都ホテル
- 19月○臨床薬剤師育成研修会（株）ダイコー沖縄
 ○医療保険委員会 県薬会議室
- 20火○医療ゾーンの団体による固定資産税の減免に関する打合せ 沖縄県小児保健協会 山城課長
- 21水○平成26年度第2回沖縄県自殺対策連絡協議会 県庁 村田理事
 ○浦添市医師会・第4回糖尿病に関わる医師と医療スタッフのための研修会 浦添市産業支援センター結の街
 ○スポーツファーマシスト委員会 県薬会議室
- 22木○平成26年度九州山口各県薬剤師会事務局職員研修会（23日迄） 大分県薬剤師会館 事務局松堂・前原
 ○小児救急電話相談（#8000）についての打合せ会議 沖縄県医師会館 吉田副会長、城間会営薬局医療センター前薬局長、山城課長
 ○平成26年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会（第5回講義） 中部地区医師会
 ○八重山地区学術講演会 ホテル日航八重山
 ○沖縄県医療推進協議会 ロワジールホテル那覇 松山副会長
 ○平成26年度第5回広報委員会 県薬会議室
- 23金○沖縄県新型インフルエンザ等対策連絡訓練 県薬
 ○沖縄県Respiratory Forum ラグナガーデンホテル 共催：日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
 ○北部地区薬剤師会学術研修会（レビー小体型認知症について） 北部地区薬剤師会館

- 26月○九山代表者会議 福岡県薬剤師会館 神村会長、吉田副会長
- 九州ブロック日薬代議員予備会議 福岡県薬剤師会館 神村会長、吉田副会長
 - 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部
社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 27火○管理者会議 県薬研修室
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部
社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 28水○平成26年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会（第6回講義） 中部地区医師会
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバー
ビュー 未定
- 29木○会計監査 県薬会議室
- レベチラセタム学術講演会 ホテルロイヤルオリオン 共催：大塚製薬(株)
 - 健康拠点事業に関する報告会 県薬会議室 田場専務理事、江夏常務理事、笠原理事、上
原幸代氏、稲福係長
 - J P A L S 研修会 県薬部会室 講師：亀谷常務理事
 - 第15回沖縄「全人的医療」研究会 ホテル日航那覇グランドキャッスル 共催：(株)ツ
ムラ
- 30金○2015アジア国際シンポジウム 海運クラブ（東京都）（スポーツファーマシスト委員
会）伊藤昌徳氏・笠原大吾氏
- 薬剤師職能PR「沖縄県タイムス“わらびー”」掲載用取材 にしぼる薬局 新垣慶朗氏
ご家族
 - 第7回あじまあの会 ザ・ナハテラス 共催：サノフィ(株)
 - 第5回琉球精神薬理研究会 ホテル日航那覇グランドキャッスル 共催：大塚製薬(株)
- 31土○J P A L S 研修会 県薬研修室 講師：亀谷常務理事

お知らせ

研修認定薬剤師申請料が改定！

日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤師申請料等が、下記（二重枠：日本薬剤師研修センターホーム
ページより）の通り改定になりました。平成26年4月1日以降に、**日本薬剤師研修センター（東京）へ
着の申請より適用**になります。申請の際は、申請料の支払い金額に注意願います。

《消費税法の改正に伴う申請料等の改定について》

平成26年4月1日より消費税（地方消費税を含む）率が5%から8%に改定された
ことに伴い、日本薬剤師研修センターへの申請料等について、法律の規定に従い改定さ
れました。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。平成26年4月1日以降、
当センターで受け付ける研修認定薬剤師申請料は、下記の通りとなります。

項目	1申請当たりの金額（税込）	本体価格	税
認定申請料（手数料：新規・更新）	10,286 円	9,524 円	762 円
認定申請料＋IDカード	11,726 円	10,857 円	869 円
認定証再交付	3,086 円	2,857 円	229 円
IDカード再交付	1,440 円	1,333 円	107 円
英文認定証	3,086 円	2,857 円	229 円

（参考：旧申請料）

1申請当たりの 旧金額（税込）
10,000 円
11,400 円
3,000 円
1,400 円
3,000 円

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成26年12月

- 2火○國場幸之助出陣式 國場幸之助選対本部（いとみね会館） 神村会長・吉田久子幹事長
○西銘恒三郎出陣式 南部徳洲会病院前交差点 城間副幹事長
○比嘉奈津美出陣式 沖縄市胡屋十字路 事務局山城
- 6土○宮崎政久総決起大会 浦添市てだこホール 吉田久子幹事長、田場常任総務、渡嘉敷見氏
- 8月○比嘉奈津美・こうめい必勝総決起大会 ミュージックタウン音市場（沖縄市） 神村会長、田場常任総務、事務局山城
- 9火○國場幸之助総決起大会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城
○西銘恒三郎総決起大会 豊見城中央公民館 神村会長、吉田久子幹事長、城間副幹事長、事務局山城・稲福
- 13土○西銘恒三郎打上式 南風原町兼城交差点 事務局金城、会営薬局うえはら長嶺
○國場幸之助打上式 日銀那覇支店前交差点 神村会長、吉田久子幹事長、姫野副幹事長、吉田洋史総務、亀谷（常務理事）・小泉（試験検査センター）
○宮崎政久打上式 浦添市安波茶交差点 田場常任総務、事務局山城・前原
○比嘉奈津美打上式 沖縄市胡屋十字路 仲真良重氏、事務局山城・大城
- 14日○各選対事務所訪問 各選対事務所 神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城

平成27年1月

- 5月○島尻あい子新春の集い 自治会館 神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城
- 6火○2015公明党沖縄県本部賀詞交歓会 自治会館 江夏副幹事長
- 10土○自民党沖縄3区支部新春の集い（比嘉奈津美氏） 沖縄市産業交流センター 神村会長、吉田久子幹事長、事務局山城
- 17土○西銘恒三郎新春の集い JAおきなわ南風原支店 神村会長、事務局山城
- 18日○國場幸之助新春の集い ザ・ナハテラス 事務局山城
- 20火○沖縄県知事就任・翁長雄志激励会 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ 神村会長
- 23金○宮崎政久新春の集い 浦添市産業支援センター結の街 事務局山城

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
(香典・生花等の手配があります)

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願ひします。

【連絡先】 県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

“父の詫び状”を聞く。

年の暮れ、12月25日である。引っ越したばかりの娘夫婦の新居へ2人で訪ねる。設計段階から毎週のように打ち合わせを重ねて、やっと完成したマイホームである。苦心の上の出来映えに大いに満足の様子であるが、特に大喜びなのは一歳半と四歳の孫2人である。そこら中にオモチャを広げて満面の笑み大得意顔をする。4歳の孫は今日が誕生日である。クリスマスと重なってハッピーバースデーとメリークリスマスを合唱する。この子の誕生日で我家にもクリスマスが割り込んできて年中行事となることであろう。帰り際に娘から「お父さんにもプレゼント、ハイ」と手渡された。開けて見ると向田邦子の朗読CDである。タイトルが「父の詫び状」とある。「あれ！俺にも詫びる事があったかなー、あるかも知れない、意味深だなあー。」ともかく、有難く楽しく拝聴させてもらう事にした。

向田邦子と言えば先輩のAさんが大のファンである。イヤ、崇拜と言っていいかも知れない。作品のサワリの部分を何度か聞かせてもらったこともある。出張で東京へ行った際は向田さんがオーナーの小料理屋に立ち寄る。忙しい姉に代わって妹さんが立ち働いている。そこに向田邦子の世界があり雰囲気浸るのだろう。昭和56年8月22日である。小生達の勉強グループJPSの一泊研修会が山原の多野岳であった。昼間の研修を終え、夕食、一杯入ってワイワイと親睦会、一日のスケジュールをこなしてから、それぞれの部屋に戻る。小生が部屋に入ってテレビのスイッチを入れると飛び込んできたのは「向田邦子さん台湾旅行中飛行機事故で死去」のニュースである。これは大変とAさんの部屋に行き、告げると「悪い冗談は止めろ！」と血相が変わる。でもすぐに真実を知って「まだまだ、沢山の良い作品を世に出してほしかった。残念だ。」肩を落とした姿がまだ小生の記憶にある。享年51歳であった。

小生の泊の薬局の近くにNさんと言う作家が住んでいる。ウチナー^{*1}オーバー^{*2}烈伝などウチナー関連の著書が多い。一昨年は「島猫

と歩く那覇スージグワァー^{*3}」を出版した。那覇の町のスージグワァー、スージグワァーをくまなく訪ね、そこに出没する。イヤ、生活している猫たちの逞しく個性的な特徴をとらえてネーミングし話しかける。猫をこよなく愛している様が伝わってくる。小生の牧志の薬局の裏のスージグワァーは那覇のド真中でありながら、亀甲墓があり、まだ整備されていない公園予定地もあり、草が茂っている。食堂なども回りがあるので猫達の格好な生活圏となっている。沖映通りに面している薬局のシャッターの前にエサを置く奇人な人がいる。朝出勤すると食べ残したエサが散らかっている。文句のひとつも言いたい。どうせやるなら、もっと上等なのを置けと言いたいのである。Nさんが、このスージグワァーの猫達とも交流があると思うと嬉しくなる。Nさんの猫が体調不振になり、動物病院を受診した。受付でカルテ作成のためか、お名前は？と聞かれた。Nさんが答えると「患者さんの名前です。猫ちゃんです。」「向田さんです。」「フルネームをお願いします。」「姓は向田。名はさんです。」「ハァー。後日、処方箋を持って来客した時、尋ねてみた。「猫の向田さんは向田邦子と関わりありますか？」と「ハイ。私はその方を知ってからこの道、文筆家になったのです。」Nさんにとってはかけがえのない存在なのだろう。向田邦子も大の猫好きでマミオと言う猫を可愛がっていて、数々のエッセーに登場させているという。数日前にNさんが来客した時に聞いてみた。「猫の向田さん、元気ですか？」「元気ですよ。2月27日に漫画家と共著で『猫力』というのを出版します。」「もしかしたら、向田さんも登場しますか？」「ハイ、主人公ですよ。今度は喋りますよ。」とのこと。サブタイトルは「うつのボクを救ってくれた猫」であるというから楽しみである。小生もすぐに予約注文を入れた。

ところで、父の詫び状のCDを聞く。朗読の軽快さと文章の美しさに引き込まれて3度も繰り返し耳を傾けた。向田邦子が乳がんの手術をし、その後遺症で右手が動かず不安に

陥っていた時、銀座百貨店のPR誌に短い随筆を書いてくれませんかと頼まれた。それまでテレビに「大根の花」、「寺内貫太郎一家」など沢山のドラマを送り出したが、これらは放映が済むと消えてしまう。であるから、遺言のつもりで文章にしようと思ったのだが3年も続いた。ところが、いつまでも元気なので、ちょっと決まりが悪いという。そのひとつの章が「父の詫び状」である。父は保険会社の支店長で転勤が多い。熱心な仕事人間でもあるが、典型的な日本の父親でもあるようだ。部下やお客さんを家へ連れてくる来客の多い家である。その度に母親はお酒、御膳の準備に追われ、長女の邦子は玄関先で靴を並べたり、雨や雪の日は泥を落としたり大変であった。これは仙台支店長の時にいつものように数人の来客があり、折からの大雪でもあり忙しくなった。どうしてこうまでしなければならぬのだろうかと思いつつながらの手伝いである。翌朝、母が玄関を開けっ放しで寒風の中、敷居にお湯をかけゴシゴシと洗っている。昨夜、酔いつぶれて早朝に帰った客が玄関で粗相をし吐瀉物がこびりついている。母

親を押しつけ、代った邦子が敷居の目に詰まった物を妻楊枝で取りながら片づけていると、いつの間にか父は素足のまま新聞を持って吹きさらしの中に片づけが終わるまで立っているのである。ご苦労さん、ありがたいのねぎらいの言葉のひとつもなかった。数日後、東京に帰った邦子に父から手紙が届いた。いつもより少し改まった調子で、しっかり勉強するようにと、そして終わりに今でも覚えているが、「この度は格別のお働き」この一行に赤線が引いてあった。「これが父の詫び状」である。素足で吹きさらしの中に立っていた父の姿が目についた事だろう。今の父親達は子供にやさしく、余り叱らない。愛情表現も照れずにやるリビングのパパである。一時代の暁の親父は遠くなりにはけりである……かな？

CDのお蔭で小生もしんみりと物思いにふける一日となった。 橋の下



- ※1 沖縄
- ※2 お婆さん
- ※3 小道または路地

会報原稿募集のご案内

広報委員会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

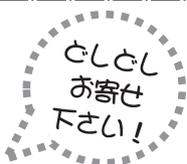
【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します)。



☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp



誌上ギャラリー(裏表紙)について

平成26年誌上ギャラリー=大賞

第271号(平成26年7・8月号)掲載 吉富 弓江氏の撮影写真「海の中の甘えん坊」

平成26年誌上ギャラリー=優秀賞

第273号(平成26年11・12月号)掲載 神山えり子氏の撮影写真「名護湾の夕日」

おめでとうございます！ これからも会員の皆様からの多くの作品をお待ちしております！！

編 集 後 記

沖縄の冬は熱い。プロ野球球団がキャンプインするからだ。10球団も、だ。それに伴って観光客やメディアも沖縄に押し寄せてくるから沖縄は結構な賑わいになる。そんななか、ひよんなことからキャンプの取材クルーと関わることになった。また彼らはCMや番組の制作にも携わっていて、そのクリエイティブな才能に感心するばかり。彼らの話は私の知らないことばかりで驚きの連続。世の中にはまだまだ知らないことが多いのだと、自分の無知さを認めることになったのだが、愉快で爽快だった。知らないことを知る喜びのほうが、まさっていたのだ。好奇心だけは、まだまだ若者には負けないぞ。(クララ)

インフルエンザが猛威を振るう中、喉の調子が…しかし、熱はなくインフルエンザでは無いので、通常通り出勤し、窓口で投薬。しかし、気が付けば声枯れが悪化し、窓口では説得力ない「風邪ひかないように…」の声掛けに「お大事にね」と言われる始末。祝賀会の受賞者代表挨拶を読み返し、反省である。さて、こんな誰が病人かわからない状態で、ママちゃんの救急受診に付き添った。ここでは、問診を取るナースが「お薬手帳はお持ちですか？」と患者さんへ聞いているのだ。ナースは服用歴を確認し患者さんへ質問している。お薬手帳が活用されている現場に遭遇し、私のNew Year's Resolutionは「お薬手帳記載情報の充実」に決定！ 最後になりましたが、今年もよろしくお願ひします。(TOMO)

年明け、高校からの友人が結婚しました。結婚式での姿はとても美しく、でも笑い方の思い切りの良さや涙もろさは昔のまんまで、違うのは横に素敵な旦那さんがいること。二人並んでうちに遊びに来るのが自然になりました。1月は結婚式の様子を思い出しては、幸せな気分浸ってあっという間に過ぎました。職場は2月からシステムの切り替えでばたつきそうですが、この幸せ気分です。乗り切りたいです。(いさ吉)

妻がレイコップを買った。ふとんのハウスダストやダニを取るクリーナーで干すよりキレイがコンセプトの商品である。正直、私は興味がなく妻が使ってるのをしばらく遠目に見てた。ある時、妻に頼まれて使うことになったのだがこれがなかなか面白い。ダストボックスにどれだけ取れたかすぐに見えるのが面白い。掃除意欲が湧いてくる。見えるって大事だ。薬剤師業務も「見える化」を目指しているが、何かヒントはないかなと考えた出来事でした。(みつなり)

あけましておめでとうございます。毎年感じていることですが昨年も駆け足のように去ってしまいました。やり残したことは多々あれど、これは今年の楽しみだ、と自分をだましている次第です。昨年は初めて那覇マラソンを完走することができました。本来は、一昨年時に、完走して年賀状にその雄姿(?)を載せるつもりでしてたが、今年の年賀状になってしまいました。タイムも足切り寸前でゴール直後はもう二度とすまいと思っていましたが、今では来年も再チャレンジの気持ちが湧いています。仕事でもこのようにいきたいものです。P.S. 広報委員会でも自慢していましたが、先輩広報委員は3時間台での完走記録保持者でした。まだまだ自分は修行が足りないようです…。(松)

校正をしながら音楽を聴いていることが多い。いや、音楽を聴きながら校正の作業をしているというべきか。時として聴く方に集中してしまうことがある。つい最近、マイケル・ジャクソンの歌うマイウェイに感激した。マイウェイといえばフランク・シナトラが定番だ。確かにシナトラの低音はきれいだ、その日はマイケルの高音が私のハートを揺さぶった。何度も繰り返して聴いた。マイケルはダンスも素晴らしいが、それ以上にあの歌声に魅了された。あの声、あのダンスでマイケルの奇行も愚行もすべて帳消しにしても良いと思った。You Tubeでマイケルのダンスと唄を聴きまくって夜更かししてしまったので次の日は全く調子が出なかった。(亀)

ちょうど2年前、締め切り間際になってあわててJパルスの過渡的認定を受けてから早2年が過ぎた。実践記録はノルマの18本以上は提出したが、その間、語るも涙の数々の失敗を重ねてやっとここまでたどりついた。パソコン・インターネットを使い慣れている人には理解できないような事でもつまづくのである。今でこそ実践記録入力画面もずいぶんと親切になっているが、まずつまづいたのが「学習時間」これを「半角英数」で入力すると分かるまでにだいぶ時間がかかった。さらに語るも涙は必須項目の「研修のまとめ」。直接画面に入力してやれやれやっと終わったと保存して(保存したつもり)先に進み、もとに戻ってみると見事に「まっさらな画面」になっていた事は2度や3度ではない。「ワードで文章を作ってから、研修のまとめの画面に貼り付ける」という高等テクニック(?)を教わらなければ途中でくじけて、頓挫してしまっただけであろう。いったいどこをどう押したら確実に保存になるのかいつもドキドキであった。最後のとどめは「プレチェック」すべてプレチェックが済んでいることが要件なのだからいくらチェックを入れてもいっこうに完了しないのである。結局「レベル1～5まで」の意味が分からなかったのである。自分が「クリニカルラダーレベル5」とは決して思えないが、他の面でいろいろ勉強になったのでやはりやってよかったとは思っている。(ピアノ)

1月末に、娘の保育園で園児の演劇会が開催されたのだが、園長先生から事前に『お父さん数名を集って前座を設けてほしい』と依頼され、その場の雰囲気の流れに流されてつい了承してしまった。何をやるか?といろいろ考えようと試みるが、結婚式等でやった余興しか浮かんでこない。考え抜いた末、これまでやってきた余興をコラボさせての完成。。数回の猛特訓! ?をこなしての本番当日。3人のお父さんが全身白タイツにパーティーグッズの白鳥パンツを身にまとい、舞台の緞帳裏で待機しているという何とも異様な光景…。スベらないだろうか?ウケてくれるだろうか?と不安が頭を過る中、緞帳がゆっくりと上がっていく。ドキドキが治まらないまま、大きなアクションでアナ雪の曲で新体操を舞った。ポイントは『決して恥ずかしくない事!』で、緊張と練習不足で振付が合わないグダグダ感もありながら、これだけは貫いた。観客の父母はまずまずの反応だったが、園児や先生方にはウケた!やはり見た目の衣装のインパクトは強く、これこそ原点でありテッパンなんだなあ(笑)演劇会終了後、園長先生からも笑顔で労いの言葉をいただいたが、目は笑っていなかった…。この瞬間、次回の依頼は来ないなと思いながらそそくさとホールをあとにするお父さん3人組であった。(ごり)

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937

■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932

■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567

■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第274号 平成27年2月16日発行

◇次号は、平成27年4月初旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 神村武之

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
八重山地区通信員／宮良善朗 事務局／大城喜仁

印刷：有限会社 金城印刷

平成26年 誌上ギャラリー一大賞



「海の中の甘えん坊」 photo by 吉富弓江
271号(平成26年7・8月号)掲載

平成26年 誌上ギャラリー一優秀賞



「名護湾の夕日」 photo by 神山えり子
273号(平成26年11・12月号)掲載